

千葉市景観計画

Chiba City Landscape Planning



令和5年9月 改定
千葉市

目次

序章	千葉市景観計画の目的	1
序-1	景観形成の理念	1
序-2	千葉市における景観形成の取り組み	2
序-3	景観計画改定の概要	3
序-4	景観計画の位置づけ	5
序-5	景観計画の構成	6
第1章	千葉市の景観特性	7
1-1	千葉市の概況	7
1-2	千葉市の景観特性	8
第2章	景観計画の区域	24
2-1	景観計画区域の設定	24
2-2	景観形成推進地区	24
第3章	景観形成の目標と方針	26
3-1	景観形成の目標と基本方針	26
3-2	景観ゾーンの方針	38
第4章	景観形成の誘導	52
4-1	基本的な考え方	52
4-2	市全域における景観形成	52
4-3	景観形成推進地区における景観形成	85
第5章	景観重要建造物及び景観重要樹木の指定方針	86
5-1	基本的な考え方	86
5-2	景観重要建造物・景観重要樹木の指定方針	86
5-3	景観重要建造物・景観重要樹木の保全・活用の方針	86
第6章	屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項	87
6-1	基本的な考え方	87
6-2	屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限	87
第7章	公共施設の整備等に関する事項	88
7-1	基本的な考え方	88
7-2	景観重要公共施設の指定方針	88
第8章	景観形成の推進方策	89
8-1	景観形成の主体の役割	89
8-2	景観形成の推進方策	90
8-3	景観形成の推進体制	96
資料		97

コラム

第1章	千葉市の景観特性	
	千葉ポートタワー	11
	緑と水辺の分布	15
	農業を身近に感じられる風景	15
	河川の表情	18
	市内に点在する文化財	20
	千葉市の都市アイデンティティ	23
第3章	景観形成の目標と方針	
	景観ゾーンの境界	40
	本市の景観を構成する特徴的な地形	41
第4章	景観形成の誘導	
	住宅団地の工夫の例	60

序章 千葉市景観計画の目的

序一 1 景観形成の理念

私たちのまち千葉市の景観は、特に近年、技術や経済の発展などを背景として大きく変貌してきました。経済的な効率や競争力を重視した視点による急激な変化によって、都市空間の画一化を招き、地域の自然や歴史に根付いた固有性が見えにくくなりました。

一方、身近な生活環境を大切にしたい、まちにうるおいやゆとりを回復したいという市民の意識の変化や、にぎわいのある都市空間への期待がみられます。それは市民の生活空間を魅力的なものにして、市民の愛着をいかに育むか、あるいは千葉市の個性やイメージをいかに高めるか、ということが求められているといえるでしょう。

景観の形成は、このような市民の意識の変化を踏まえ、人間性に立った視点から、魅力ある環境を形成することを目指すものです。そして、千葉市らしい景観の形成は、地域やまちの個性、あるいは生活に根づいた魅力を、市民の意志や行動を大切にしながら育てていくことであるといえます。そのためには、長期的な展望から方向を見定め、その取り組みを積み重ねていくことが重要です。

このような考え方により、千葉市の景観形成の理念を次のように定めます。

豊かな緑や水辺など、地域の特性を活かした 魅力ある景観の形成と市民文化の向上

- 千葉市の貴重な財産である緑と水辺、歴史的資源を大切に守り育てることを基本とし、これらの要素を活かした景観の形成を図ります。
- やすらぎやゆとり、あるいはにぎわいや楽しさなど、市民が住まい、働き、憩うことに快適で、精神的な豊かさを享受できる景観の形成を図ります。
- 千葉市の新しい市民文化の向上と育成を目指し、市民の身近な視点を基本としながら、市民・事業者と市の協働による景観の形成を図ります。

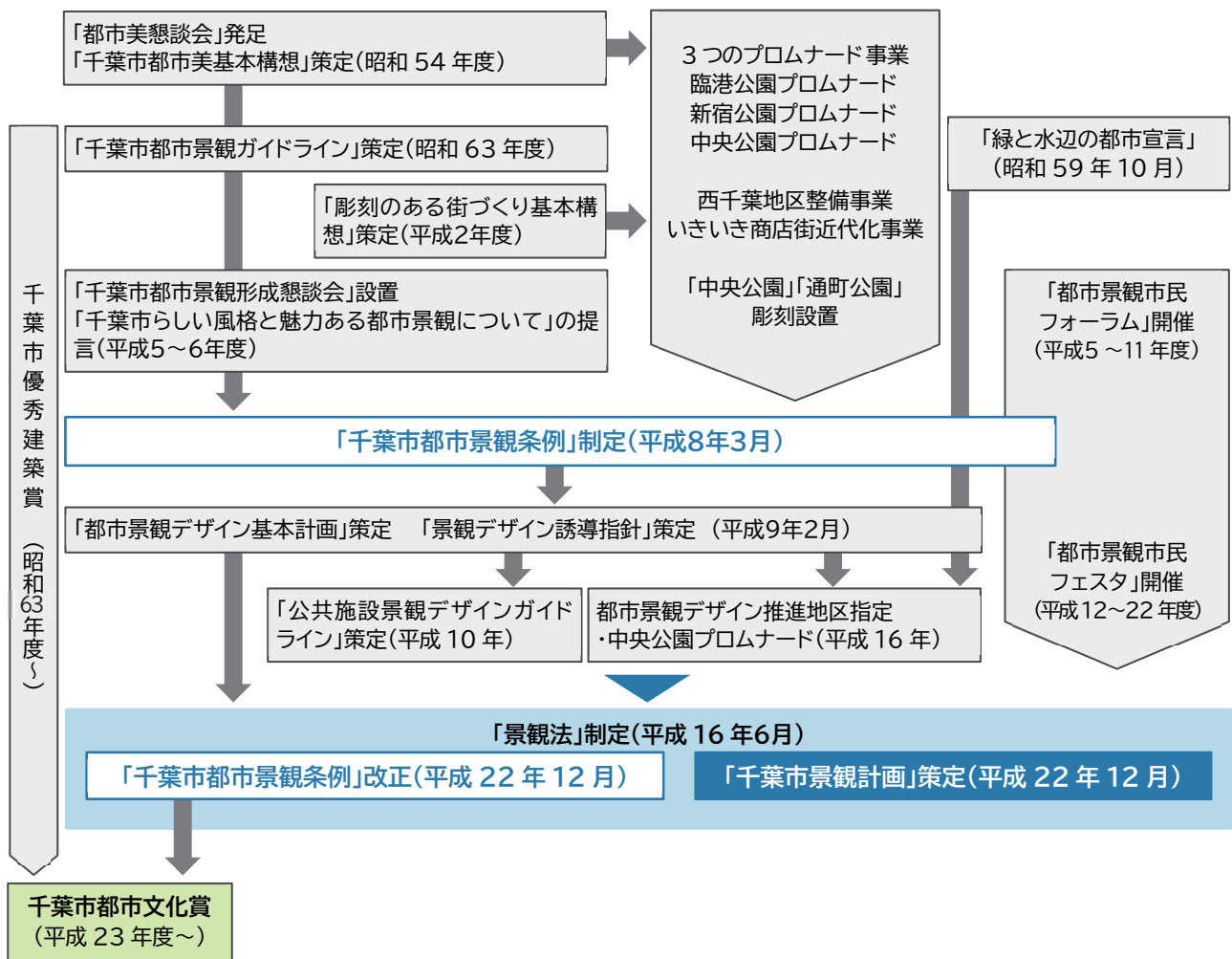


序一2 千葉市における景観形成の取り組み

千葉市における景観形成への取り組みは、昭和53年以来、「都市美基本構想」「都市景観ガイドプラン」などを策定するとともに、「都市美基本構想」に基づくプロムナード整備等の事業、緑地保全や緑化の推進など様々な方面から進められてきました。

平成5年には、これまでの公共空間を主体とした景観形成を踏まえ、市民の参加を含めた今後の景観形成のあり方を検討するために、「都市景観形成懇談会」を設置しました。その検討内容は「千葉市らしい風格と魅力ある都市景観について」（平成7年3月）の提言としてまとめられ、平成8年3月には、この提言を踏まえ、市・市民及び事業者の協力による都市景観形成を基本理念とする「千葉市都市景観条例」を制定しました。さらに、平成9年2月には、本市にふさわしい都市景観の形成を計画的に推進するため、基本的な方向を明らかにした「都市景観デザイン基本計画」を策定しました。そして、都市景観条例に基づく大規模建築物等の新築等に対する景観誘導や都市景観デザイン推進地区指定などの景観施策に取り組んできました。

本市では、都市景観条例に基づき、様々な景観形成施策を推進してきましたが、社会情勢の変化や市民の景観形成に対する意識やニーズに対応するために、さらに積極的かつ効果的に景観形成に取り組むことが求められていました。平成16年6月に景観に関する総合的な法律である景観法が制定され、景観形成に向けた施策が強化されたことを受け、景観形成の理念に基づく新たな景観形成施策を展開していくために、平成22年12月に景観法に基づく千葉市景観計画を策定しました。



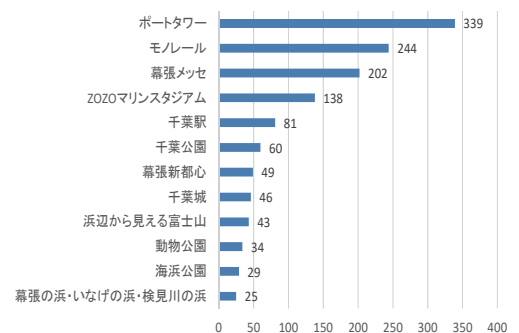
序一3 景観計画改定の概要

本市では、市民が景観形成に関心を持つ契機となるよう、良好な景観の形成に貢献した市民・事業者などを表彰する制度の運用や、千葉市の歴史や魅力を市民に知ってもらい、郷土への愛着を醸成するため、「加曽利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」を起点とした多彩な地域資源を活用しながら千葉市らしい都市アイデンティティの確立を目指した取り組みを進めているところです。

計画策定から10年以上が経過し、夜間景観の創出や公共空間の利活用、住宅団地のリノベーションといった新たな取り組みが進められているほか、本市の景観に対する市民意識も変化してきていることから、これまでの本市の景観形成のテーマである「うみ・まち・さとの魅力を活かした ちばの景観づくり」を継承しつつ、魅力ある景観の形成を推進するため、本計画の改定を行います。

(1) 千葉市の魅力の再発見

- ▶ 千葉市の景観特性や景観上の課題、10年前からの景観意識の変化などについて把握するためのアンケート調査を令和3年度に実施し、千葉市のシンボリック景観として、千葉ポートタワー、モノレール、幕張メッセ等が上位に挙げられました。その結果を踏まえ、新たにモノレールを景観特性に追加します。
- ▶ 千葉市には住宅団地が多く存在しており、うみ・まちの景観ゾーンの中で特徴的な要素となっています。近年リノベーションが進んでいることから、景観に大きな影響を与えることが想定され、景観特性や配慮指針等に追加します。
- ▶ 都川や花見川は上・中流域と下流域で大きく景観特性が異なることから、河川周辺景観ゾーンの景観形成方針等にそれぞれの内容を追加します。また、中心市街地を流れる葭川、印旛沼に注ぐ鹿島川についても特徴的な景観が形成されていることから、河川周辺景観ゾーンの対象とする河川に追加し、方針等を示します。
- ▶ 千葉市の歴史や成り立ちなどの重要性から、かつての海岸線や地形の特徴などが分かる地形図やゾーン境界の扱い等について追加します。



千葉市のシンボリック景観
(アンケート調査結果)



花見川上流域(上)・下流域(下)

(2)新たな視点や考え方の追加

- ▶ 千葉市では、千葉ポートタワーや千葉駅、海浜幕張駅周辺をはじめとした各所でのライトアップや工場夜景等、夜間における魅力的な景観が形成されているほか、ナイトタイムエコノミーの推進による夜の都市空間づくりを行っています。こうした市内の動向を踏まえて、千葉市の個性ある地域特性に配慮したより魅力的な夜間景観の創出に向けた方針や配慮指針等を追加します。



工場夜景
(撮影者: genki_akari さん)



海浜幕張駅周辺のイルミネーション
(マクハリイルミ)



YORU MACHI
(令和元年度千葉市ナイトタイムエコノミー
推進支援事業)

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大による新たな生活様式への対応などにより、オープンスペースを利活用した、ゆとりある都市空間の形成や柔軟性のあるまちづくりへのニーズが高まっています。また、千葉市では、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成による都市の再生を図るため、「千葉都心ウォーカブル推進社会実験」などを通じて、多様な価値観・ライフスタイルを実現できるオープンスペースの利活用の可能性について検討を進めています。こうしたことから、人々が行き交い、様々な出会いと交流が生まれることにより、イノベーションの創出やまちの求心力となるような、居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」なまちなかに創造することは、にぎわいや歩行者の回遊性につながると考えられます。



千葉都心ウォーカブル推進社会実験
CHIBA NOKI-NYOKI Project

(3)より効果的な景観誘導

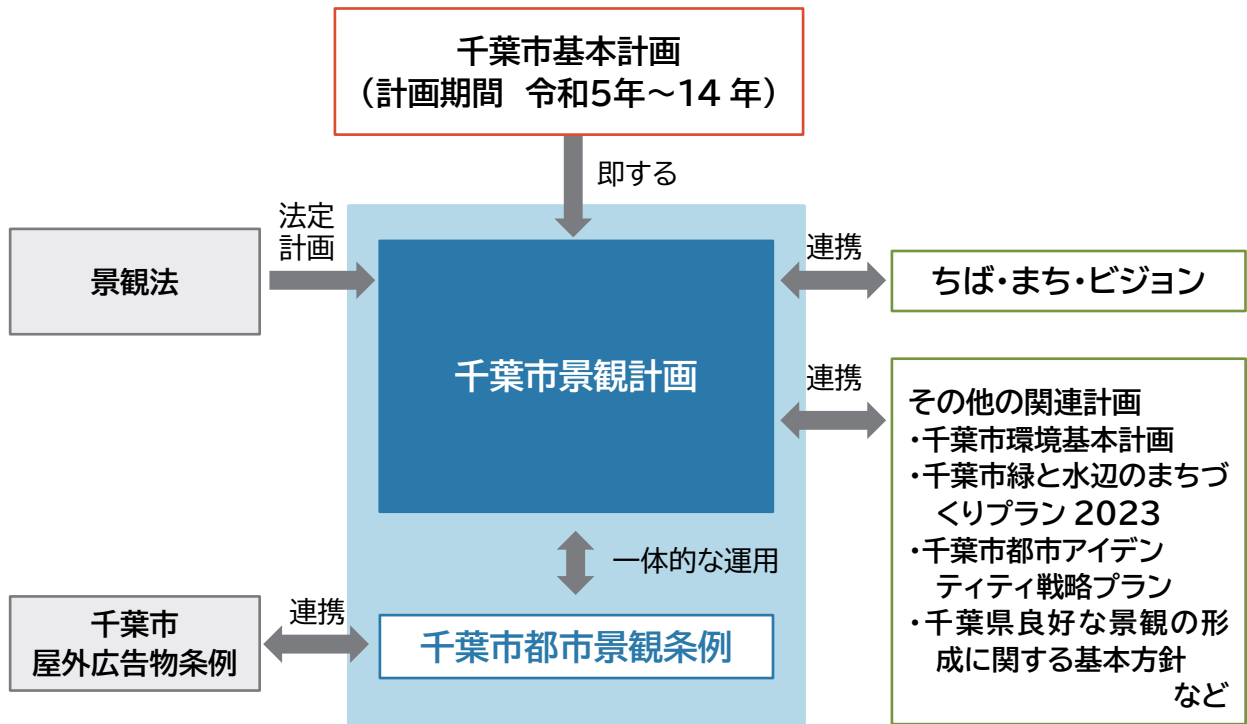
- ▶ これまでの景観計画では、一律の色彩基準により景観形成の誘導を図ってきました。今回の改定では、景観ゾーンや用途地域の違いを踏まえ、それぞれの場所の特性に応じた色彩基準の設定を行い、地域特性にあった色彩をより丁寧に誘導する内容を追加します。
- ▶ まちづくりの重要なエリアにおける一定の規模の行為については、景観法の届出を提出する前の段階で市と事業者が協議し、専門的立場である都市景観アドバイザーからの助言等をより反映できる段階から、地域特性に応じた景観形成の誘導をできるよう、事前協議の仕組みを検討します。

序一4 景観計画の位置づけ

本計画は、「千葉市基本計画」に即し、「ちば・まち・ビジョン」「千葉市環境基本計画」「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023」などの関連計画と整合を図りながら策定するものです。

また、本計画は、景観法第8条の規定に基づき定める法定計画であるとともに、景観形成のマスタープランとして位置づけ、千葉市都市景観条例との一体的な運用により景観施策を推進します。

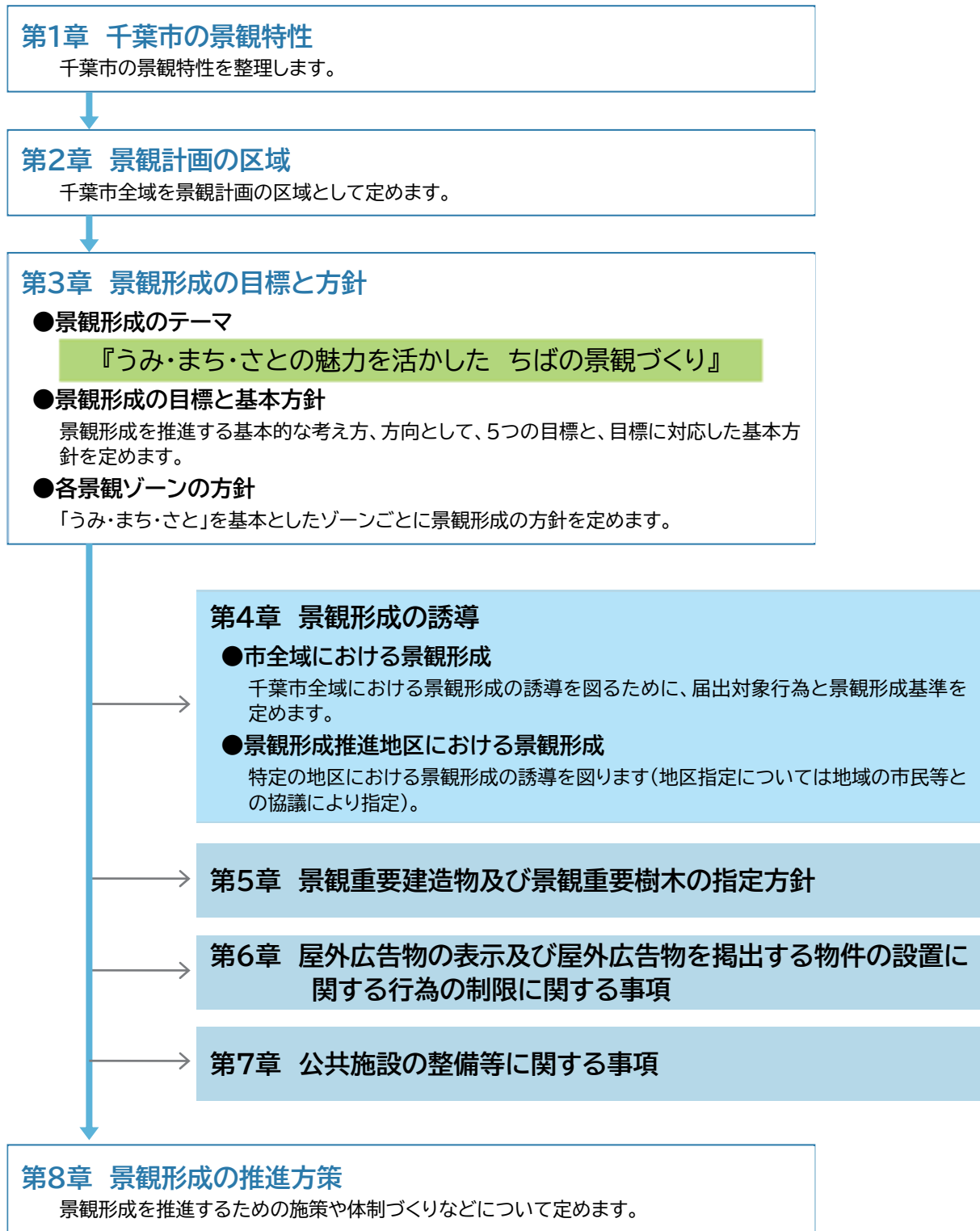
■千葉市景観計画の位置づけ



序一5 景観計画の構成

本計画では、千葉市全域を景観計画区域として設定し、第3章において、景観形成の目指すべき方向を「景観形成の目標と方針」として定めています。これに基づき、第4章の「景観形成の誘導」など、景観形成の具体的な取り組みを定めています。

■千葉市景観計画の構成

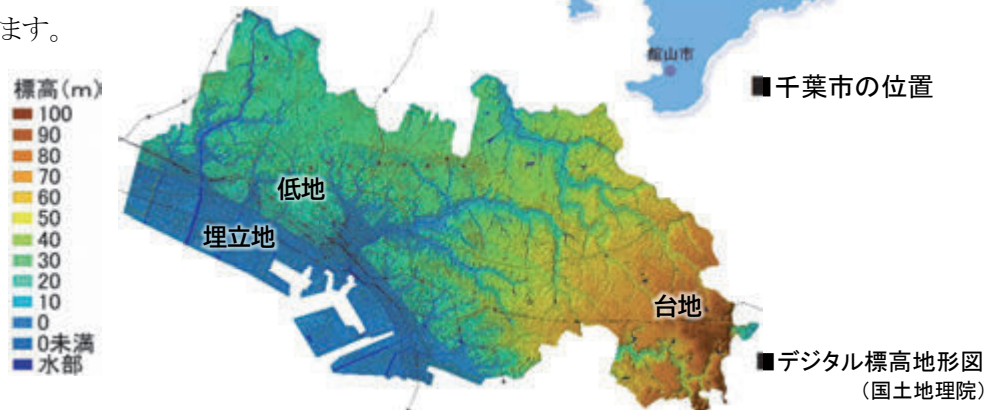


第1章 千葉市の景観特性

1-1 千葉市の概況

(1) 地勢

千葉市は、千葉県のほぼ中央部、東京都心部から東に約40kmに位置し、成田国際空港及び木更津市（東京湾アクアラインの接岸地）からは約30kmの距離にあります。市域面積は、約272km²であり、かつての海岸線に沿って約34km²の埋立地が広がり、これに近接して旧市街地を形成する台地が連なっています。地形は、緑豊かな下総台地の平坦地におおわれ、温暖な気候と肥沃な土地、豊かな緑と水辺など自然環境に大変恵まれています。



(2) 沿革

本市の起源は、縄文時代の初期にその源を発していますが、縄文時代中頃には、世界最大級の「加曾利貝塚」などの貝塚群が営まれました。

都市としての起源は、大治元(1126)年、千葉常重が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移したことから始まったといわれ、鎌倉時代には、千葉氏は下総国等の房総半島をはじめ、東北地方、九州地方など全国で20数か所といわれる広大な所領を獲得しました。戦国時代以降、千葉氏は本拠を本佐倉に移しましたが、千葉は、千葉氏の妙見信仰の中心地として、また湊を擁する商業都市として引き続き繁栄を続けました。江戸時代には佐倉藩領となり、江戸への物資積出港として、また、江戸と房総を結ぶ宿場町となりました。

明治4(1871)年の廃藩置県により、千葉町に県庁が置かれたことで、近代都市としての発展がはじまりました。大正10年には、市域は約15km²、人口3万3千人の千葉市が誕生し、師範学校、医学校など多くの学校や病院、気球聯隊、陸軍歩兵学校などの陸軍施設も設置され、発展していきました。また、当時の遠浅の海は海水浴や潮干狩りに適していたため、海の保養地としてにぎわいました。

昭和20年の2度の空襲により、中心市街地の約7割を焼失しましたが、戦後は、戦災復興事業に着手するとともに、大規模開発や埋立などにより、急速な都市化と工場誘致が進み、住宅団地の建設によって首都圏のベッドタウンとして発展してきました。そして、平成4年には、全国12番目の政令指定都市に移行しました。

現在では、人口約98万人(令和5年1月)を擁する、多種業務機能が集積した首都機能の一翼を担う大都市として、また、世界に開かれた国際情報都市として、著しい発展を続けています。

1-2 千葉市の景観特性

本市の景観は、このような都市の発展に基づく土地利用などから、国道14号・357号付近の約19kmに及ぶ旧海岸線を境として、埋め立てによる海際の市街地の景観、内陸部の市街地の景観、市街地の後背地に広がる里山や谷津が特徴のある田園景観に大きく区分することができます。これらの特徴ある景観を基本としながら、多様な表情のある景観が形成されています。



長い海岸線がつくる海の景観や海際の市街地の景観

主な場所：いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜・幕張新都心



多様な表情を持つ 内陸部の市街地の景観

主な場所：駅周辺・住宅団地



千葉市の顔となる都心の景観

主な場所：千葉都心・幕張新都心・蘇我副都心



緑と水辺、谷津が広がる田園の景観

主な場所：大草町・富田町・武石町・下泉町



千葉市の景観特性図



モノレールが結ぶ上空と地上の景観

主な場所:モノレールからの景色・モノレールがある景色



市民や団体を主体とした活動や取り組みによる景観

取組例:パラソルギャラリー



時の流れを伝える景観

主な場所:千葉市立郷土博物館・夜間景観



多くの人の目にふれる幹線道路沿道の景観

主な場所:国道16号・国道51号・国道14号・国道357号



表情豊かな河川周辺の景観

主な場所:花見川・都川





長い海岸線がつくる海の景観や海際の市街地の景観

本市は東京湾を西に望む海岸線を持ち、沈む夕日や海や空の広大な眺めが得られる海の景観が大きな特徴です。埋め立てによる市街地には、京葉臨海工業地帯の一翼を担う工場地や海浜ニュータウンなどが整備されています。

- 海岸線には、「いなげの浜」「検見川の浜」「幕張の浜」と名付けられた人工海浜、公園やヨットハーバー等や松林が整備され、海岸からは夕日や富士山なども望むことができるなど、市民に親しまれています。
- 検見川浜駅、稲毛海岸駅周辺などには、計画的に整備された住宅地における整然とした景観となっています。
- 輸出入の拠点である千葉港を中心として、コンテナターミナルやガントリークレーン、工業系施設の集積によるダイナミックな産業の景観が展開されています。



検見川の浜から見たダイヤモンド富士



いなげの浜



千葉ポートパークとポートタワー



千葉港



コンテナターミナルとガントリークレーン



千葉ポートタワーから見た工場夜景

コラム「千葉ポートタワー」

県人口 500 万人突破を記念して昭和 61 年にオープンしました。外壁にハーフミラーを使用し、高さ 125mの展望室からは東京湾をはじめ、丹沢山系、富士山まで眺望できます。

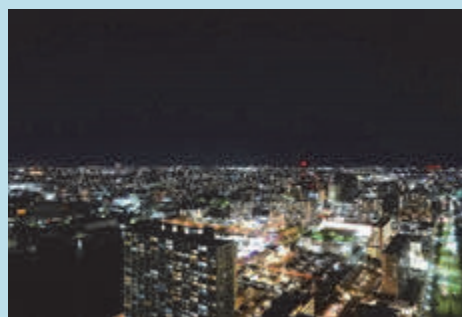
平成 23 年に恋人の聖地に選定され、平成 24 年には「日本夜景遺産」にも認定されました。そして、令和4年1月に「千葉ポートタワーから望む月」が、日本各地の名月を観光資源として発信する「日本百名月」に認定されました。



ポートタワー展望台からの眺め



千葉みなと駅方面(昼間)



千葉みなと駅方面(夜間)



千葉駅方面



千葉ポートパーク



幕張新都心方面



蘇我方面



多様な表情を持つ内陸部の市街地の景観

千葉市の中心となる市街地や古くからの既成市街地が広がる地域においては、多様な街並み景観が形成されています。

- 鉄道沿線や駅周辺を中心として、商業・業務施設や住宅等が混在した景観となっています。
- 一部には地形の起伏の変化や斜面林も見られ、緑豊かな景観が形成されています。
- 住宅団地が市街地の随所に整備され、団地内は多くの緑を有していることもあり、市街地景観の中でも重要な要素となっています。これらの住宅団地は、高度経済成長などによる都市の拡大を背景に開発されていることから、直方体状の集合住宅が何棟も集積して建っているなど画一的な街並みとなっており、千葉市の特徴的な景観を形成しています。近年では住宅団地のリノベーションが進んでおり、今後外観の変化が予想されます。
- 郊外部には、あすみが丘やおゆみ野などの、緑が多く、まとまりのある街並みを持つ個性的な住宅地も整備されています。



花見川団地



西千葉



おゆみ野 学園前



あすみが丘



千葉市の顔となる都心の景観

千葉市には、歴史のある既成市街地である千葉都心、臨海部の埋め立てにより整備された幕張新都心、そして、副都心として位置づけられた蘇我副都心があり、多様な都市機能を導入した整備が進められています。近年では、こうした都市部においてオープンスペースを利活用したゆとりある都市空間の形成や柔軟性のあるまちづくりへのニーズも高まっています。

- 千葉駅を中心とする千葉都心では、商業・業務系の施設が立地しており、千葉駅から中央公園に至る一帯や千葉県庁周辺においては、風格のある都市景観が形成されています。
- 幕張新都心においては、業務地や住宅地の新しい都市のイメージを伝える景観が形成されています。
- 蘇我副都心においては、既成市街地と臨海部の一体的な整備による緑豊かな景観の形成が進められています。
- 都心には多様な都市機能のほか、駐車場も集中しており、街並みの景観や連続性に影響を与えています。



千葉都心(中央公園プロムナード)



千葉都心(千葉駅西口)



幕張新都心(幕張メッセ)



幕張新都心(国際大通り)



蘇我副都心(フクダ電子アリーナ)



蘇我副都心(ハーバーシティ蘇我)



緑と水辺、谷津が広がる田園の景観

若葉区から緑区にかけての一带や花見川区の花見川沿いなどには、里山となっている樹林、農地、集落などの良好な田園が広がり、本市の大きな景観の特色となっています。

- 住宅の広がる市街地に近接して、谷津田や里山などの多くの自然が残されており、緑豊かな景観となっています。特にいずみグリーンビレッジとして位置づけられた若葉区東部地域には、千葉市のなかでも自然環境に恵まれた地域となっており、湧水、池沼、谷津などの多様な自然資源が分布しています。
- 台地上には畑を主とする農地が広がり、屋敷林に包まれた集落が点在して、伸びやかな田園景観を呈しています。こうした田園景観は、長い年月をかけて人々の営みにより形成されています。
- 谷津田の保全活動も展開され、里山景観の保全・再生とともに、自然との触れ合いの場が提供されています。



富田町の農地と屋敷林



天戸町の田園景観



小倉町の谷津田



御殿町の屋敷林と集落景観

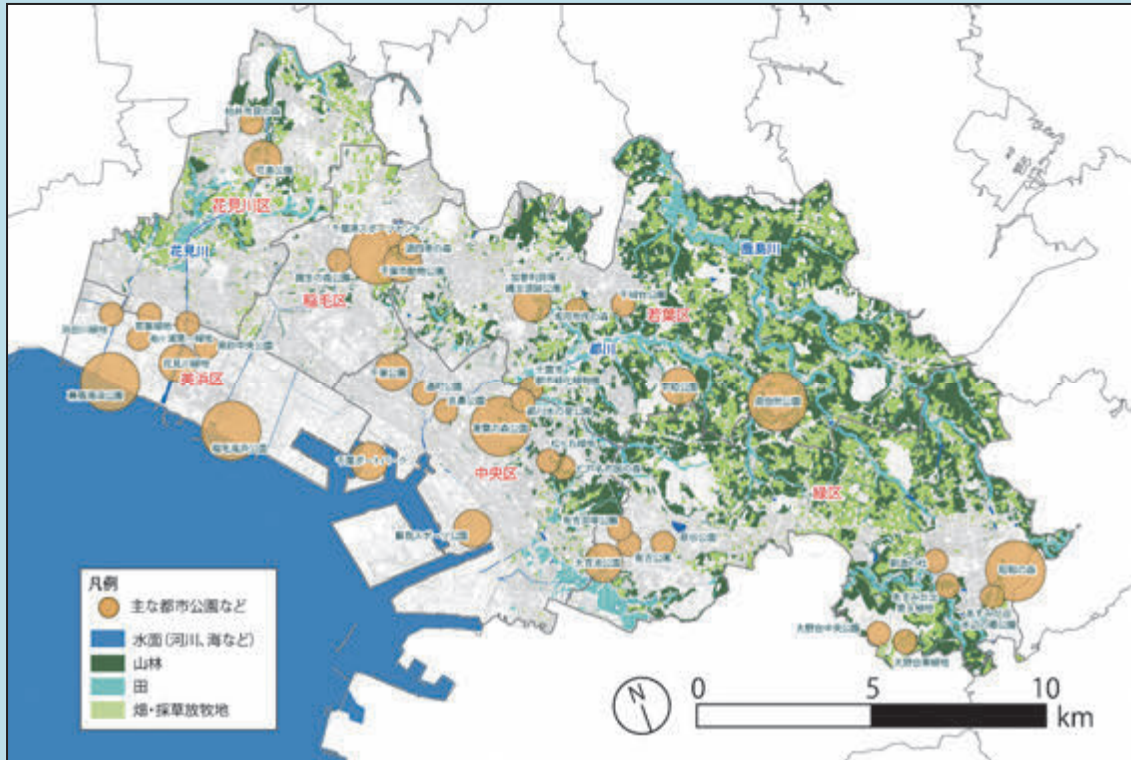


堂谷津の里(谷津田の保全活動)



コラム「緑と水辺の分布」

若葉区、緑区、花見川区の花見川沿いなどに中心に、森林や田畑などの自然が広がっているほか、市内の各地にまとまった規模の公園や緑地が点在しており、市内の至るところで身近な自然を楽しめる環境となっています。



都市計画基礎調査(H28年)を基に作成

コラム「農業を身近に感じられる風景」

千葉市には、普段農業に接する機会がない人でも、農業を気軽に体験できる施設があります。都心からわずか1時間ほどで豊かな自然や農の生業に触れ合える、恵まれた環境を有しています。



農業体験や季節のお花鑑賞などが楽しめる「富田さとにわ耕園」



千葉市乳牛育成牧場の跡地を活用した観光農園「千葉ウシノヒロバ」



多くの人の目にふれる幹線道路沿道の景観

東京と千葉都心の湾岸部を結ぶ国道14号・357号、千葉都心から放射状にのびる国道16号などによって幹線道路網が形成されています。このような幹線道路とその沿道は、多くの人の目にふれる景観の骨格となっています。

- 郊外にのびる国道16号、国道51号などの幹線道路沿道においては、商業系の施設が立地していますが、屋外広告物等により、全体的に緑と調和しない無秩序な景観となっています。
- 国道14号・357号沿いの一部の崖線には、かつての海岸線の面影を残す斜面林が連続しています。



国道16号(長沼町付近)



国道16号(穴川インターチェンジ付近)



国道51号



国道14号・357号(稲丘町付近)



表情豊かな河川周辺の景観

千葉市には大きな河川はなく、いずれも低地の谷津の間をぬって緩やかに流れる中小の河川です。主な河川は、東京湾に注ぐ都川とその支流の坂月川、支川都川、葭川、花見川(印旛放水路)などや、印旛沼に注ぐ鹿島川などがあります。郊外を流れる河川周辺には樹林や農地が多く残されており、うるおいや自然の豊かさを身近に感じさせる景観となっています。

- 花見川、都川、坂月川、鹿島川などの周辺には、周辺の斜面林の緑とあいまって良好な景観が形成されています。特に、花見川の花島観音一帯においては、豊かな樹林地と一体となった自然景観の骨格として豊かな緑と水辺の景観が形成されています。
- 中心市街地を流れる葭川沿いなどにはプロムナードが整備され、沿川の街並みやモノレールと一体となった親水空間が形成されています。
- 支川都川、坂月川、花見川沿いには、ピオトープやサイクリングロードが整備されるなど、市民に親しまれています。
- 内陸部から東京湾へと市内を貫いて流れている花見川や都川では郊外を流れる上・中流部と、市街地を流れる下流部で大きく異なった景観特性があります。



花見川



鹿島川



支川都川



坂月川



都川



葭川

コラム「河川の表情」

内陸部から東京湾へと市内を貫いて流れている花見川や都川では郊外を流れる上・中流部と、市街地を流れる下流部で景観特性が大きく異なっており、それぞれの場所で違った表情を見せてくれています。



花見川・都川ともに、内陸部を流れる上流では、豊かな自然に彩られた河川沿い景観となっており、下流に進むにつれ、都市的な河川沿い景観へと変化していきます。また、それぞれの場所で、川幅や河川断面も変化しています。



時の流れを伝える景観

景観は、時刻や季節などの時の移り変わりとともに姿を変えます。このような時の変化を景観形成に活かしている取り組みもみられます。

また、千葉市は、恵まれた気候風土を背景にした旧石器時代からの長い歴史を有しており、貝塚、古墳や中世の城址などが固有の歴史的な景観をつくり出しています。近世は人とモノが行き交う地域の物流拠点としてにぎわいを見せていてましたが、城下町ではなかったことから、この時代の受け継ぐべき景観資源は限られています。

- 貝塚、古墳や寺社などの歴史的な景観を伝える資源が点在しています。
- 千葉神社や亥鼻城(千葉城)跡に建つ郷土博物館及びその周辺には、地域に定着した歴史的なイメージを残した景観が形成されています。
- 埋立地と元々の陸地の境界となっている国道14号・357号沿いに位置し、かつて海岸線を臨む眺望絶景の地であった稲毛の浅間神社境内と周辺に広がる松林は、埋め立てによって失われた景勝地の面影を残しています。
- 江戸時代の初めに、徳川家康が東金に鷹狩りに出かけるために整備された御成街道沿いには、御茶屋御殿跡があるほか、街道の一部に長屋門などの歴史を感じさせる景観が残っています。
- 「マクハリイルミ」、「ルミラージュちば」、「千葉ポートタワー」、「さんばしひろば(千葉みなとの公園緑地)」などのイルミネーションや公共施設のライトアップ、ナイトタイムエコノミーの推進による夜間におけるにぎわいの創出など、時間の変化を積極的に活かした景観形成が行われています。



千葉神社



加曽利貝塚



亥鼻山にある郷土博物館



セントラルアーチのライトアップ

コラム「市内に点在する文化財」

千葉市には、文化財に指定・登録されている歴史的な建造物や史跡などが点在しており、これらは千葉市の歩みを物語る貴重な景観資源となっています。

■文化財の例



旧川崎銀行千葉支店本館は、千葉都心の中心市街地の中に立地する、昭和2年に竣工されたネオ・ルネッサンス様式の建築物です。現在は千葉市美術館のさや堂ホール(市民ホール)として旧銀行本館建物を「さや堂方式」で包み込んで保存されています。

旧川崎銀行千葉支店本館(千葉市指定有形文化財)



旧生浜町役場庁舎は、JR浜野駅から15分ほど歩いた場所にある、昭和7年に建築された木造二階建ての洋風建築物です。千葉市内では数少ない昭和初期の洋風建築物のひとつで、壁面が鮮やかなライトブルーに塗装されており、海が近くにあることを予感させるような爽やかな印象の外観が特徴です。

旧生浜町役場庁舎(千葉市指定有形文化財)



明治41年に建てられた煉瓦造りの建築物です。元々は鉄道連隊材料廠として建設されたもので、大正時代には千葉陸軍兵器支廠となり、戦後は大蔵省、国鉄と引き継がれ、昭和60年に千葉経済学園の所有となり現在に至ります。千葉経済大学周辺の道路から煉瓦部分を垣間見ることができます。

鉄道連隊材料廠煉瓦建築(千葉県指定有形文化財)



文化財マップ(京成千原線 学園前駅周辺)

市文化財課では、文化財をめぐるおすすめコースなどを紹介した文化財マップを公開しています。文化財などの歴史的な景観資源をきっかけに、その地域の歴史や文化などについても触れることができます。



市民や団体を主体とした活動や取り組みによる景観

景観は、人間の営みや活動によって、生き生きとした表情を与えるだけでなく、身近な景観づくりを支えている重要な役割を果たしています。特に、祭りやイベントなどの営みも、人が集まるということによって、にぎわいや楽しさといった魅力とともに、季節感を与えています。

また、本市では、市民や団体による緑を中心とした活動などが活発に行われており、良好な景観づくりに寄与しています。

- 千葉駅周辺などは、飲食店のテラス営業等、屋外空間の利用による日常的に居心地のよい空間が形成されています。
- 魅力あるイベントが定期的に行われており、多くの人々を集め、にぎわいのある表情をつくり出しています。
- 花のあふれるまちづくりを目指し、市民が主体となった花を活かした活動などが行われており、身近な景観づくりに役立っています。



千葉駅西口でのテラス営業



パラソルギャラリー



幕張ビーチ花火フェスタ



千葉の親子三代夏祭り



市民団体による花壇の管理作業



企業の協力によるプランターへの花植え



モノレールが結ぶ上空と地上の景観

千葉都市モノレールは、懸垂型モノレールとして営業距離世界最長(15.2km)のギネス認定(2001年6月)を受けています。

千葉市の景観に関するアンケート調査(令和3年度実施)では、モノレールは「千葉市のシンボリックな景観」の1つにあげられており、モノレールが上空を走行している景観は、千葉市の景観特性の1つであるといえます。一方で「景観を損ねている原因やモノ」と感じる方もいますが、モノレールから見下ろす風景も、市内を空から見下ろしているような感覚になれる、千葉市でしか見られない景観といえます。特に千葉公園周辺、千葉市動物公園周辺、坂月川周辺等は、台地と低地が入り組んだ立地特性も相まって、開放的で特徴的な景観となっています。



- モノレールが上空を走行する風景は、一目で千葉市とわかるシンボル性の高い景観となっています。
- モノレールは市内を鳥の目で見降ろす視点場となっており、千葉市の地形的特性を俯瞰的に眺めることができます。
- モノレールの車体デザインや車体広告は、交通事業者と連携し、都市景観の向上に資するよう取り組んでいます。



千葉公園から見上げたモノレール



アーバンフライヤー(新車両)車体広告



モノレールから見る千葉公園の綿打池



モノレールから見る動物公園

コラム「千葉市の都市アイデンティティ」

千葉市では平成 28 年に「千葉市都市アイデンティティ戦略プラン」を策定し、『加曽利貝塚』『オオガハス』『千葉氏』『海辺』の千葉市固有の4つの地域資源を起点・基準点として、都市アイデンティティの確立を目指しています。



加曽利貝塚は、8字形をした日本最大級の貝塚を伴う集落遺跡です。

加曽利貝塚に縄文人が住み始めたのは今から約 7,000 年前、巨大な貝塚ができたのは今から約 5,000 年前の縄文時代中期といわれており、それから約 2,000 年もの間、繁栄が続きました。

加曽利貝塚・・・日本最大級の貝塚・縄文人の生活の証



オオガハスは、昭和 26(1951)年、東京大学検見川厚生農場で発掘された古代ハスの実を植物学者大賀一郎博士がよみがえらせた奇跡の花です。発掘された実は、今から約 2,000 年前のものとされており、世界最古の花といわれています。

オオガハス・・・古代のロマンを秘めた世界最古の花



千葉氏は桓武天皇の血を引く関東の名族です。平安時代後期の大治元(1126)年に千葉常重(つねしげ)が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移したことにより、本市の都市としての歴史が始まったといわれています。常重の子、常胤(つねたね)は、源頼朝の再起を助け、鎌倉幕府の創設に重要な役割を果たしました。

千葉氏・・・千葉市の礎を築いた一族



千葉市の人工海浜は、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜の3つから成り、日本一の総延長 4.3 kmを誇ります。かつては海苔や貝類などの内湾漁業の場であったとともに、保養地として海水浴や潮干狩りのシーズンには多くの人でにぎわっていた海岸線は、今も人々の憩いの場であり、本市ならではのにぎわいを創出しています。

海辺・・・海辺とまちが調和するアーバンビーチ

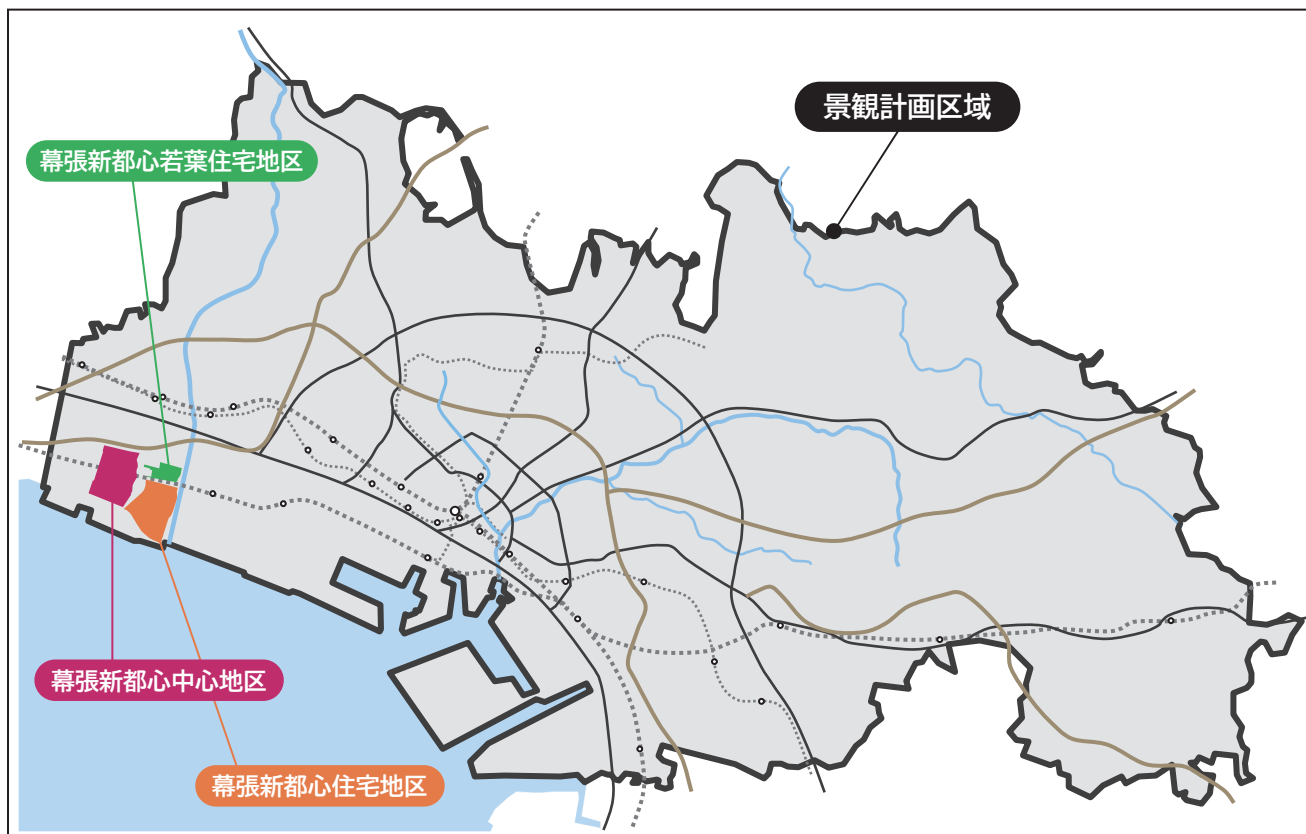
第2章 景観計画の区域

【景観法第8条第2項第1号】

2-1 景観計画区域の設定

特徴のある市全域において景観をさらに美しく魅力あるものとし、次世代へと継承していくため、また、景観法に基づく施策を積極的に活用していくため、千葉市全域を景観計画の区域(景観計画区域)とします。

■景観計画区域



2-2 景観形成推進地区

景観計画区域内において、地域の特性を活かし、先導的な景観形成を図る必要がある特定の地区を「景観形成推進地区」として位置づけます。

景観形成推進地区は、市が主導的な役割を果たす地区と市民の発意による地区を想定し、いずれも地域の市民や事業者等との合意に基づいて、より積極的な景観形成の推進を図ります。

- 幕張新都心中心地区 (平成24年千葉市告示第849号)
- 幕張新都心若葉住宅地区 (平成31年千葉市告示第3号)
- 幕張新都心住宅地区 (令和4年千葉市告示第797号)

■ 区域図

● 幕張新都心中心地区(約112.3ha)



● 幕張新都心若葉住宅地区(約22.8ha)



● 幕張新都心住宅地区(約89.7ha)



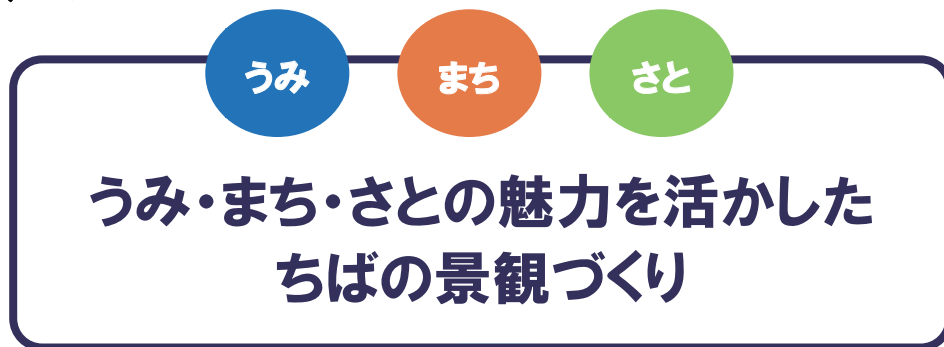
第3章 景観形成の目標と方針

景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針 【景観法第8条第3項】

3-1 景観形成の目標と基本方針

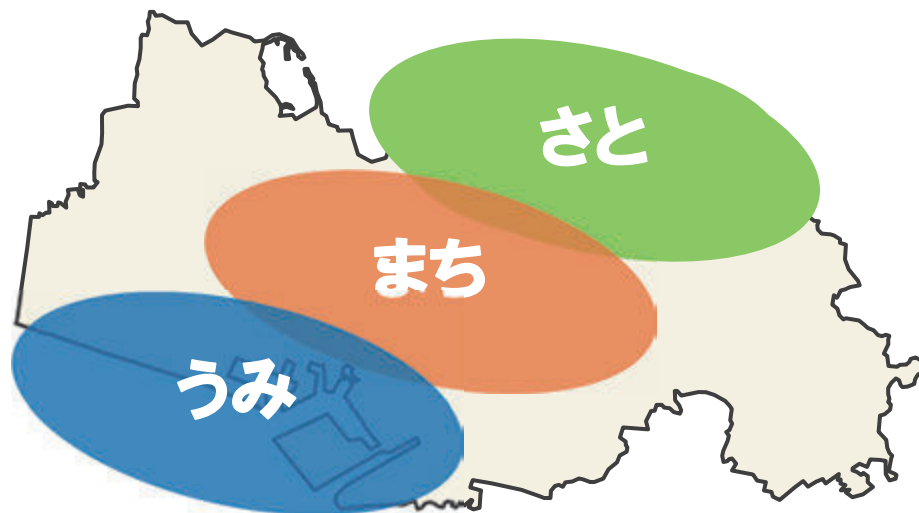
景観形成の理念を具体的に展開するために、千葉市の景観特性を踏まえ、景観形成のテーマと、景観形成の柱となる5つの目標・基本方針を設定します。

■景観形成のテーマ



千葉市の景観は、海浜部の「うみ」の景観、市街地の「まち」の景観、田園の「さと」の景観に大きく区分できることが特徴です。

このような「うみ」「まち」「さと」のそれぞれの特徴と魅力を活かし、市民・事業者・市の協働によって育む、千葉市らしい景観づくりを目指します。



海

市街地

河川

道路

■景観形成の5つの目標と基本方針

目標1

うみにふさわしい景観形成

- 海を近づけ、海を身近に感じさせる
- 海際を魅力的にする
- 海からの景観を整える

目標2

まちの魅力を引き立てる景観形成

- 地域の特性を活かしたまとまりのある街並み景観をつくる
- 千葉市のシンボルとなる景観をつくる
- まちの身近な拠点景観をつくる
- まちをつなぐ快適な景観の軸をつくる
- 人が快適で憩うことができる景観をつくる

目標4

時をきざむ景観形成

- 時の中の景観をつくる
- 季節の移り変わりを活かした景観をつくる
- 歴史のある景観を継承する
- 時とともに豊かになる景観をつくる
- 新しいまちの景観資源を育成する

目標3

さとや緑・水・地形を大切にした景観形成

- 緑を保全・育成する
- 水辺を保全・活用する
- 地形の起伏を保全・活用する
- 良好な緑や水辺の景観をつくる
- 生態系に配慮する

目標5

市民・事業者・市が育む景観形成

- 市民が身近に感じる景観をつくる
- 市民・事業者と市によるパートナーシップを確立する
- 優れた景観を生み出す仕組みを整える

さと

崖

住宅地

寺社

谷津田

雑木林

畑



目標1

うみにふさわしい景観形成

都市の発展の歴史や市民生活とのかかわりが深い海は、千葉市にとって欠くことのできない存在です。埋め立てなどによって海が存在が希薄になり、市民から遠い存在となってしまいましたが、近年では、海辺の活性化の取り組みなどによって、積極的に海際に人を引きつける努力が進められています。今後も取り組みを継続し、都市全体にとっても海との関係を回復していくことが大切です。

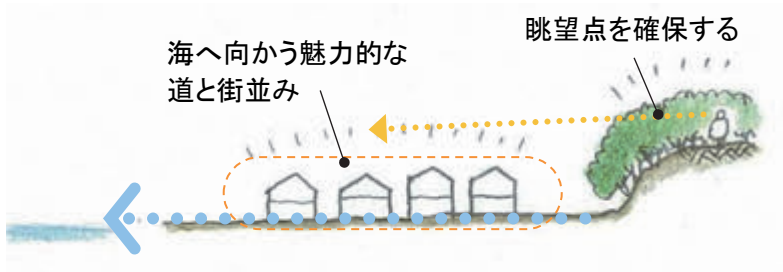
この目標は、海を市民の生活に密着したものとするため、海と市街地の結びつきを強め、海の魅力を活かした景観形成を目指すものです。

■基本方針

●海を近づけ、海を身近に感じさせる

空間的、イメージ的に分断され、遠い存在となった海を、市街地との結びつきを強めることによって、身近に感じさせる景観形成を図ります。

- 海への見通しを確保する
- 海へ向かう魅力的な道と街並みをつくる
- 海を望める場所や眺望点を市街地に確保する
- かつての海際の部分の記憶を大切にする
- 海際に人を引き寄せる機会をつくる



海浜松風通り



浅間神社の松林



海浜大通り(撮影者:tb0824 さん)



●海際を魅力的にする

埋め立てなどによって市民から遠い存在となってしまった水際線を、今後の土地利用などを踏まえながら、できる限り市民に開放し、市民が海の景観を共有できるような、また海際の魅力を引き出す街並み景観の創造を目指します。

- 市民に開かれた水際線を増やす
- 海を望む場所や道を整える
- 海際にふさわしい街並みをつくる
- 海際にふさわしく、つながりのある緑を育成する



美浜大橋付近からの夕日



稲毛海浜公園 (THE SURF OCEAN TERRACE)



千葉中央港旅客船棧橋



蘇我副都心 (ハーバーシティ蘇我)



いなげの浜

●海からの景観を整える

海を見るだけでなく、海から見ても、港湾を有する国際都市にふさわしい美しい景観形成を目指します。

- 海から見た施設群のシルエットやスカイラインに配慮する
- 海から海際を見る機会をつくる



海から見た幕張新都心



目標2 まちの魅力を引き立てる景観形成

近年では、市民が共有できる千葉市らしい個性の創出を求める動きが高まっています。そのためには、それぞれのまちの特性を見きわめ、あるいは育てながら、まちとまちのつながりをつくることが求められます。

この目標は、快適で人間性豊かな都市空間の創出を図り、市民がやすらぎやうるおい、楽しさやにぎわいを感じ、まちに対する誇りや愛着を育む景観形成を目指すものです。

■基本方針

●地域の特性を活かしたまとまりのある街並み景観をつくる

まちの特性や景観資源を個性として育て、まとまりやつながりのある街並み景観の形成を図ります。

- まちの歴史に根ざし、周辺との調和のとれた街並み景観の形成を図る
- にぎわいや落ち着きなど、まちにふさわしい個性ある街並み景観の形成を図る



おゆみ野



あすみが丘

●千葉市のシンボルとなる景観をつくる

千葉市らしさの形成を図るうえで、重要な顔となる3都心について、シンボルとなる景観形成を図ります。

- 千葉市を代表する都心にふさわしい先進性や風格を備えた景観形成を図る
- 都心空間の骨格となる快適な歩行者空間を創出する
- 回遊性を高め、楽しさやにぎわいなどの魅力あるまちの表情をつくる



中央公園プロムナード



新宿公園プロムナード



臨港公園プロムナード

●まちな身近な拠点景観をつくる

市民の生活に密接にかかわる主要な駅や区役所などの周辺については、地区の中心であることから、まちな顔にふさわしい個性と魅力を備えた拠点の景観形成を図ります。

- まちな顔となる拠点としての景観形成を図る
- 周辺の特徴や景観資源を活かした界隈を育てる
- 回遊性のある身近な道のネットワークをつくる



鎌取駅前広場

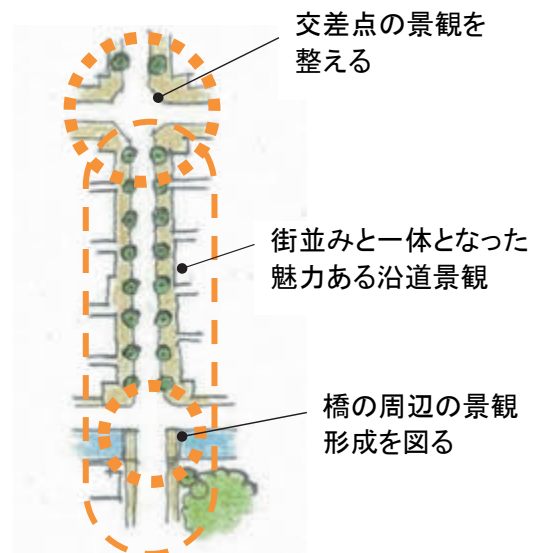


土気駅前広場

●まちをつなぐ快適な景観の軸をつくる

まちとまちをつなぎ、市街地の骨格を形成している交通網によって、周辺と一体となった景観形成を図ります。

- 市街地の骨格となり、周辺の街並みと調和したうらおいのある沿道景観の形成を図る
- 鉄道、モノレールや自動車専用道などとその沿線・沿道景観の形成を図る
- 結節点(交差点・橋の周辺)の景観形成を図る



●人が快適で憩うことができる景観をつくる

すべての人が安全で快適に住まい、働き、憩うことができる景観形成を目指します。また、景観を阻害する要因や、違和感や不快感を感じさせる過度な表現を避けて、快適な環境づくりに努めます。

- 安全で快適な歩行者空間をつくる
- ヒューマンスケールに配慮する
- 高齢者や障がい者などの利用に配慮する
- 景観を阻害する要因を避ける
- グランドレベルがまちに開かれた景観をつくる



開放的な設えの地域拠点
(幕張ベイタウン・コア)

目標3

さとや緑・水・地形を大切にした景観形成

樹枝状に発達した谷津による微地形や谷津を流れる河川、点在する斜面林や屋敷林、郊外部の樹林地と農地がつくり出す里の景観、あるいは生き物の生息空間でもある谷津田など、千葉市は東京圏において恵まれた自然景観を誇っています。

これらの緑や水辺、あるいはそれらの基盤となる地形の構造は、緑と水辺が豊かな本市を強く印象づけるものであり、また個性ある景観形成を進める大きな手がかりとなるものです。

この目標は、これらの緑、水辺、地形といった要素を貴重な財産として守り育て、郊外に広がる里の風景を大切にするとともに、緑や水辺を創出し、うるおいやつながりのある景観形成を目指すものです。

■基本方針

●緑を保全・育成する

緑豊かな千葉市を印象づけている樹林などの緑や郊外に広がる田園の景観を保全し、景観の貴重な基盤として育成を図ります。

- つながりやまとまりのある樹林を保全・育成する
- 地域の特性を活かした緑のネットワークをつくる
- 農地のある景観を保全する



小倉町の農地と屋敷林



保全された大草町の谷津田

●水辺を保全・活用する

千葉市の景観を特徴づけ、身近な景観の骨格となる河川や池沼の水辺空間の保全・活用を図ります。

- 河川・池沼や周辺にある緑を保全する
- 水辺に親しめる憩いの場や道をつくる
- 水辺に調和する街並みをつくる
- 橋の景観に配慮する



坂月川ビオトープ

● 地形の起伏を保全・活用する

千葉市の景観的な特徴であるひだの多い微地形を大切にし、地形の起伏が感じられる景観形成を図ります。

- 谷津の緑や崖線の斜面林を保全する
- 地形の起伏やつながりを大切にする
- 眺望点や坂道の景観を大切にする
- 湧水やせせらぎを保全する



市街地の背景となる斜面林(原町)



坂月川沿いの斜面林

● 良好な緑や水辺の景観をつくる

残された緑を保全・活用するとともに、良質な緑や水辺の空間を積極的に確保して、うるおいのある景観形成を図ります。

- 緑を保全・活用・創出したネットワークをつくる
- 身近に緑や水辺に親しめる場をつくる
- 緑に調和する施設や街並みをつくる

● 生態系に配慮する

河川や池などの水や水辺空間、緑、土を基盤とした生態系の秩序の回復に努め、人と生き物が共生できる環境づくりを目指します。

- 土地の保水性を高め、水の循環に配慮する
- 生き物の生息環境に配慮する
- 市民が自然とふれあえる環境に配慮する
- 水質の浄化に配慮する

目標4

時をきざむ景観形成

景観は、時刻や季節など時の移り変わりとともに姿を変え、私たちに時の変化によって異なる印象を与えます。また、長い年月を経て形成されてきた景観は奥深い表情をつくり出します。

景観を考えるときには、このように過去から未来へ向かう時の流れの中でとらえる視点が必要です。つまり景観形成は、まさに時をきざむ行為であるということができるといえるでしょう。良好な景観は一朝一夕にできるものではなく、時間の積み重ねを経ながら財産として維持し、または守り育てていくことが求められます。したがって、まちの歴史を大切にするとともに、未来においても受け継がれていくまちの記憶を、今からつくり出すことが必要となります。

この目標は、人々に育まれてきたまちの歴史を顕在化し、時の流れの中で生きていく景観形成を目指すものです。

■基本方針

●時の中の景観をつくる

一日の時間の変化に配慮し、深みや印象に残る表情づくりを進めます。

- 夜明け、夕暮れ時や夜間の特性を活かした景観形成を図る
- 質の高い光による景観形成を図る



ポートタワーの
ライトアップ (上)いなげの浜(撮影者:jackal.418 さん)
(下)海浜幕張駅南口シェルターのライトアップ

ポートタワー展望室からの臨港公園
プロムナード
(撮影者:takahitoyagami さん)

●季節の移り変わりを活かした景観をつくる

季節の移り変わりの中での景観形成を考える視点を確保し、地域の特性を活かした地域にふさわしい魅力ある景観の形成を目指します。

- 四季の変化を取り入れた表情をつくる
- イベントなどの歳時にあわせて演出をする



四季の道



富田コスモスまつり

●歴史のある景観を継承する

先人の歩みやまちの記憶を次代に引き継ぐための重要な手がかりとして、また、まちの魅力を高めるものとして、人々の営みの風景や歴史的な景観資源の保全・活用を図ります。

- 貝塚や遺跡、歴史的建造物などの歴史的な景観資源を保全・活用する
- まちの記憶を伝える街道や集落を活かす



御成街道と長屋門



旧神谷伝兵衛稲毛別荘

●時とともに豊かになる景観をつくる

時間の経過に配慮し、長い年月の中で豊かな表情が形成されていく景観の形成を目指します。

- 自然素材を活用する
- 植物の生長を考慮した計画をつくる
- 長期的な時間の経過や維持管理に配慮する
- 時間の経過に対する景観づくりのプログラムをつくる



京葉銀行千葉みなと本部の壁面緑化

●新しいまちの景観資源を育成する

まちが育んできた特性を踏まえ、将来のまちの景観的な資源として次代に継承されていくための仕組みづくりに努めます。

- まちの将来像を踏まえた景観の骨格やつながりをつくる
- 市民の参加によるまちの記憶をつくる

目標5

市民・事業者・市が育む景観形成

景観形成は人とのつながりが大切です。特にこれからは、市と協力しながら推進される、市民に身近な景観形成が求められます。そのため、これまでに掲げているそれぞれの目標を、いかに市民にわかりやすい形で、あるいは市民・事業者などの参加や協力を得ながら進めるかという視点が不可欠です。

千葉市独自の都市文化は、このような市民とのつながりに配慮することによって形成されていくでしょう。そして、このようにして生み出された景観は、次代へと受け継がれる共有財産といえます。

この目標は、新しい時代の要請の中で、市民・事業者と市が手を取り合いながら、個性ある千葉市の景観形成を目指すものです。

■基本方針

●市民が身近に感じる景観をつくる

市民にわかりやすく、身近で親しみのある景観づくりを、市民・事業者・市がそれぞれの立場から進めます。

- 花や生垣などによる身近な場所の緑化を図る
- 親しみの持てる質の高い公共空間をつくる
- 地域の個性や歴史を再発見する機会や景観づくりについて学習できるプログラムをつくる



ブラウシア(集合住宅)の植栽空間



花の美術館のハンギングバスケット



幕張ベイタウン・コア



瑞穂小学校のパーゴラ

●市民・事業者と市によるパートナーシップを確立する

市民・事業者の主体的な参加や活動が期待できる体制づくりや、市民・事業者と市の協力体制づくりを目指します。

- 市民・事業者と市が共有できる景観に関する情報のネットワークをつくる
- 市民・事業者の主体的な景観形成を育成する
- 市民・事業者の参加や創意工夫を活かすことができる場や仕組みをつくる



小学生による花植え



市民参加のワークショップ



YohaS (千葉公園)

●優れた景観を生み出す仕組みを整える

良好な景観の形成を推進するための仕組みづくりや環境づくりを進めます。

- 庁内における連携や調整の仕組みを強化する
- 景観の向上を目指した人材の活用を図る
- 優れた景観の取り組みの表彰や普及を図る



千葉市都市文化賞受賞作品
(ZOZO 本社屋 2021年度グランプリ)

3-2 景観ゾーンの方針

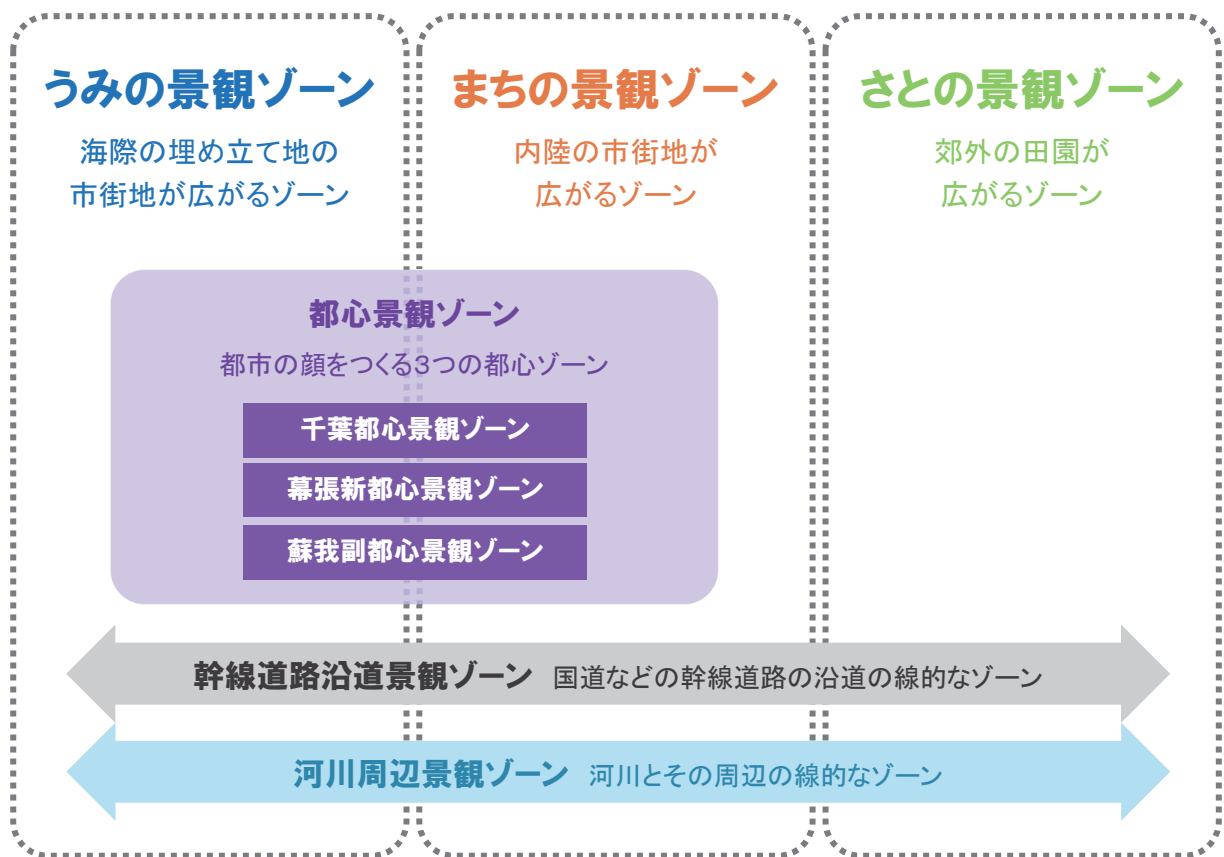
景観形成の目標と基本方針に基づき、それを具体的に展開していくために、景観計画区域を「うみ」「まち」「さと」の景観のイメージを形成しているゾーンごとに区分し、景観形成の方針を設定します。

また、「うみ」「まち」と関連しつつも、特別な景観のイメージを持つゾーンである都市の顔をつくる3つの都心、「うみ」「まち」「さと」を結ぶ国道などの沿道景観として重要な幹線道路の沿道と千葉市の骨格を形成している河川の周辺を抽出し、それぞれに景観形成の方針を設定します。

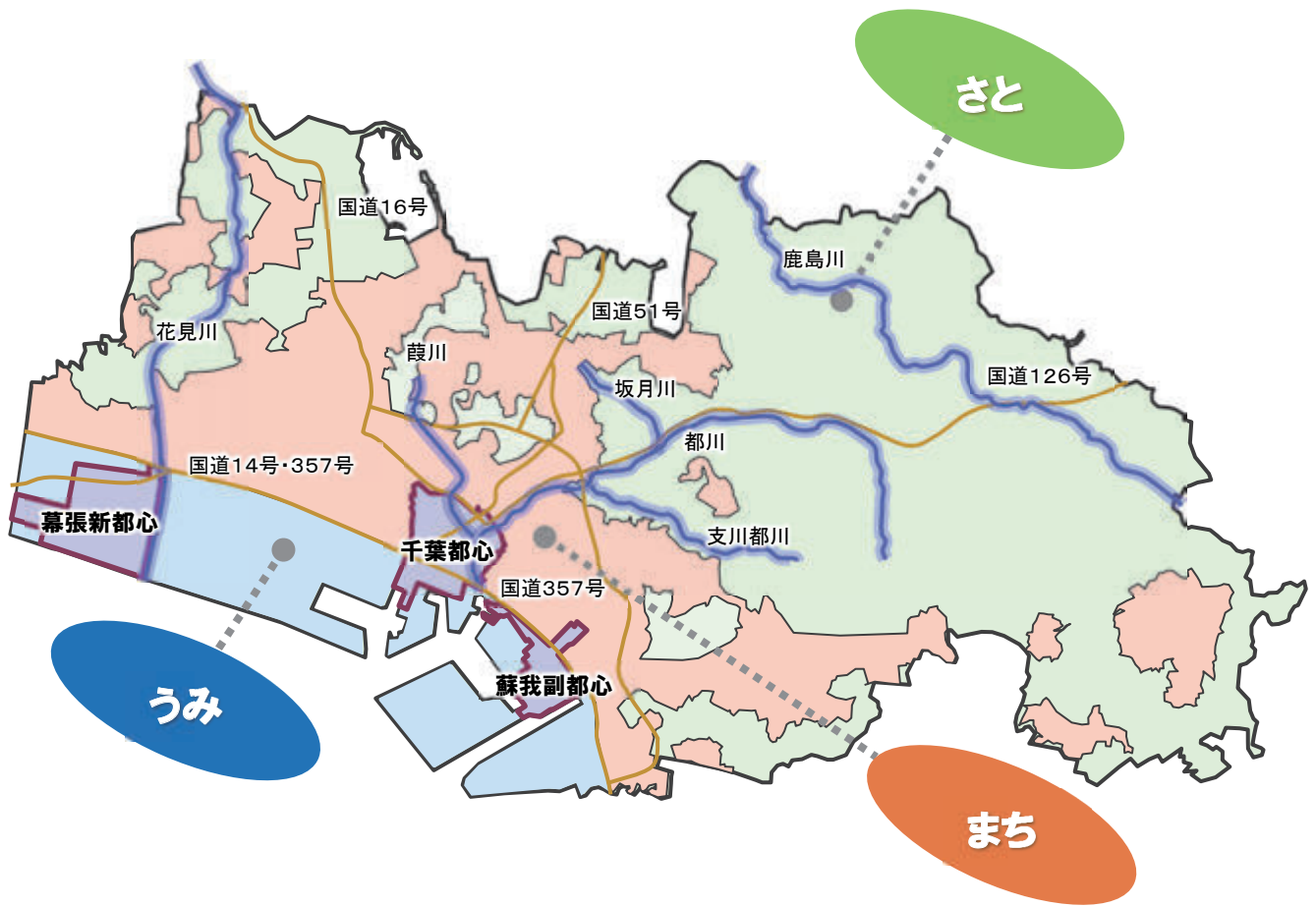
なお、各景観ゾーンの境界部では、隣接するゾーンの方針も参考にするものとします。

ゾーン境界の景観については、コラム「景観ゾーンの境界」P40を参照






■景観ゾーンの構成



■景観ゾーンの区分図



凡例

	うみの景観ゾーン		都心景観ゾーン
	まちの景観ゾーン		幹線道路沿道景観ゾーン
	さとの景観ゾーン		河川周辺景観ゾーン

コラム「景観ゾーンの境界」

それぞれの景観ゾーンにおける景観特性は、必ずしもゾーンの境界線を境に明確に変化するわけではありません。多くの場合、ゾーンの境界線を挟んで、緩やかに景観特性が変化します。

その例として、稲毛付近の国道14号・357号沿いが挙げられます。

国道14号・357号は、かつての海岸線であり、この道路を境とした海側はすべて埋立地となっています。

まちの景観ゾーン側の国道沿いにはかつての海岸線を感じられる斜面林や松林のほか、稲毛地域には埋立てが行われる前の記憶を伝える建造物などの景観資源が残されており、まちの景観ゾーンにも「うみ」を感じる要素が残っています。

うみ・まちの景観ゾーンの境界の例



国道14号・357号沿いの景観
まちの景観ゾーン側に斜面林が広がる



1945年頃(左)と2019年(右)の稲毛付近の航空写真
国道14号・357号を境に埋立地が形成されたことがわかる

稲毛付近は、埋立てが進む以前は文人や財界人にも愛された海辺の保養地であり、まちの景観ゾーンに属する範囲の中にも、かつての海辺の記憶を今に伝える風景がいくつも残されています。これらの景観資源は「稲毛八景」として市民に親しまれています。

かつての海岸沿いを感じさせる景観資源の例(稲毛八景)



千葉市民ギャラリー・いなげ
「電気ブラン」を普及させたことで有名な実業家・神谷伝兵衛の別荘だった建築物。



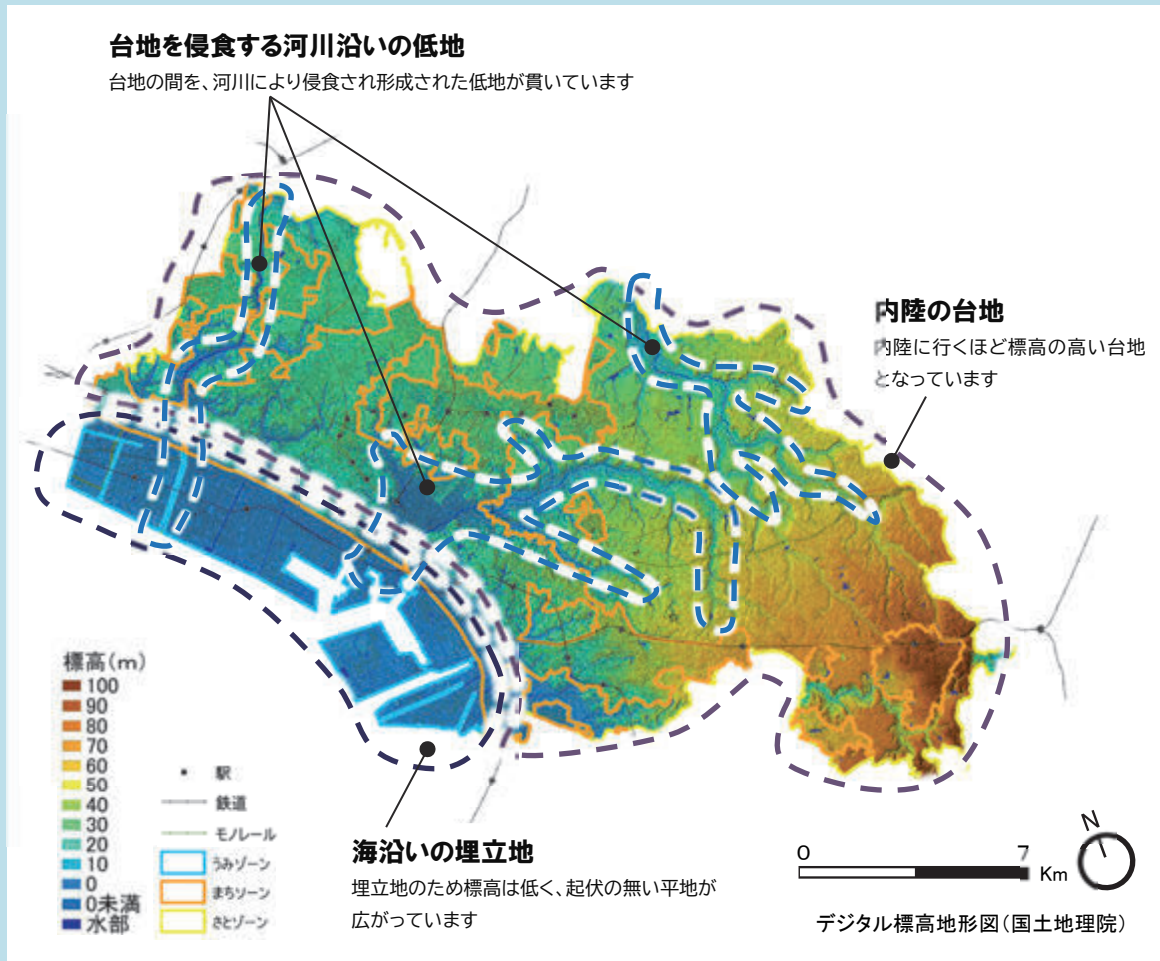
千葉市ゆかりの家・いなげ
中国清朝のラストエンペラー・愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑が居住した、海辺の保養地だった稲毛の当時から伝える木造建築物。

コラム「本市の景観を構成する特徴的な地形」

千葉市は、海沿いの埋立地、内陸の台地、台地を侵食する河川沿いの低地といった3種類の地形で構成されており、うみ・まち・さと、と内陸に進むにしたがって、徐々に標高が高くなっていきます。

また、同じゾーンの中でも、台地上の平地、河川沿いの低地と台地の境目における起伏豊かな土地、といったように、様々な地形の特徴を感じることができます。

こういった複雑な地形は、千葉市の景観を形成する特徴的な要素のひとつとなっており、地形の起伏も踏まえた景観形成について考えていく必要があります。



(1)うみの景観ゾーンの方針

うみの景観イメージを形成する海際の市街化区域においては、海への眺望を確保するとともに、直接海を見ることができなくても、海や空の広がりを感じさせることを重視した景観の形成を図ります。また、「まち」の緑との連続性に配慮し、「うみ」にふさわしい緑豊かな景観の形成に努めます。



●海や空の広がりを感じられる開放感のある景観の形成を図る

海や空のイメージが持つ開放感を阻害しない、また海を身近に感じさせるよう建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮した街並み景観の形成を目指します。



開放感のある海辺の景観

●海への眺望を保全・活用する

海に開かれた空間の確保に努めるとともに、海が直接見ることができる場合は、海への眺望の保全・活用に努めます。

●海の魅力を引き立てる産業景観や夜間景観の形成を図る

臨海部の工業系施設群は、産業の発展を伝えるダイナミックで活力ある景観の形成を目指します。また、工場夜景などの魅力的な海辺の夜景の形成や、それらを眺められる視点場の整備に努めます。



臨海部の工場夜景

●海の魅力を享受できる憩いの場とウォーターフロントの景観の保全・創出を図る

海の魅力を活かした快適な憩いの空間の創出を図り、魅力あるウォーターフロントの景観の形成に努めます。



いなげの浜

● まちの玄関となる駅周辺の調和のとれた景観の形成を図る

検見川浜駅、稲毛海岸駅周辺などにおいては、建築物の規模、配置、形態意匠に配慮し、身近な賑わいのある調和のとれた拠点づくりとともに、海との結びつきを強めるネットワークの形成を目指します。

● 海にふさわしい緑の育成とつながりのある緑の景観の形成を図る

市街地と海を結ぶ道の魅力を高めるよう、快適な歩行者空間の創出を図るとともに、海にふさわしい緑の創出による、うるおいのある景観の形成を目指します。



街路樹が海へと続く歩行者空間

● 海際の記憶を残す景観を継承する

まちの景観ゾーンとの境界である国道14号・357号沿いの松林や斜面林など、かつての海岸の記憶を残す景観の保全に努めます。



海岸の記憶が感じられる斜面林が残る国道14号・357号沿い



海が感じられる海浜大通り

● 住宅団地の再生と合わせた景観の形成を図る

市内には老朽化が進んだ住宅団地が多数立地しており、近年ではそれらのリノベーションも進んでいます。団地の再生にあたっては、周辺の街並みとの調和を図るほか、団地の持つまとまった緑やゆとりある空間といった資源を活かした景観形成に努めます。



リノベーションされた幸町団地

(2) まちの景観ゾーンの方針

まちの景観イメージを形成する内陸の市街化区域においては、人々の暮らしや活動に配慮し、にぎわいやうるおいのある街並み景観の形成を図ります。また、斜面林などの緑と連続する景観形成に努めます。



● 緑豊かで秩序のある街並み景観の形成を図る

建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮するとともに、緑の創出に努め、連続性やまとまりのある街並み景観の形成を目指します。



緑豊かで風格のある千葉神社

● 地形や緑、水辺を保全・活用する

農地や斜面林などの緑や水辺の保全・活用に努めます。

● 風格や歴史を感じさせる資源を保全・活用する

まちの景観に奥行きを与える社寺などの歴史的な資源の保全・活用に努めます。また、周辺においては、歴史的な資源との調和に配慮した景観の形成を図ります。



歴史が感じられる千葉寺

● まちの玄関となる駅周辺の調和のとれた景観の形成を図る

鉄道駅・モノレール駅周辺では、建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、にぎわいやゆとりのある拠点づくりを目指します。



まちの玄関口としてにぎわいが感じられる土気駅前の商業施設

● 眺望が得られる場所を保全・活用する

台地上の眺望できる場所の保全・活用に努めます。また、モノレールも市特有の眺望が得られる視点場及び眺望対象のひとつと捉え、モノレールからの特徴的な眺望やモノレールを眺望する場所の保全・活用にも努めます。



モノレールから動物園を望む 千葉公園からモノレールを望む



海岸の記憶を残す樹林(検見川町)

● **海際の記憶を残す景観を継承する**

うみの景観ゾーンとの境界である国道14号・357号沿いの松林や斜面林などの海岸の記憶を残す景観の保全・活用に努めます。



海岸の記憶が感じられる斜面林が残る
国道14号・357号沿い

● **住宅団地の再生と合わせた景観の形成を図る**

市内には老朽化が進んだ住宅団地が多数立地しており、近年ではそれらのリノベーションも進んでいます。団地の再生にあたっては、周辺の街並みとの調和を図るほか、団地の持つまとまった緑やゆとりある空間といった資源を活かした景観形成に努めます。



緑豊かな花見川団地

● **市街地のそれぞれの特性に応じた夜間景観を形成する**

商業地域ではにぎわいを演出する夜間景観を、住宅地では安心感をもたらす夜間景観の形成を目指します。工業・物流系の地域では、交通安全・防犯対策に資する照明計画とします。



商業・業務地域のにぎわいある夜間
景観(中央公園プロムナード)



にぎわいを演出するイルミネーション
(ルミラージュちば)



足元を照らし安全性が確保された
歩行者空間(そごう千葉店付近)

(3) さとの景観ゾーンの方針

さとの景観イメージを形成する市街化調整区域においては、樹林や農地などの緑や水辺の景観を基調とし、それを阻害しない景観形成を図ります。また、屋敷林などの緑の保全に努めるほか、つながりのある緑の景観をつくることに努めます。



● 農の風景や地形の起伏を大切にした豊かさを感じさせる 田園景観の保全を図る

緑を基調とした周辺の景観と調和するよう、土地の大きな改変を避けるものとします。また、建築物や工作物、屋外広告物等は、低層を基本としたスカイラインを形成するとともに、周辺と調和する形態意匠、素材に配慮した景観の形成を目指します。屋外照明を設置する場合は、自然環境や生態系に対する影響(夜空の明るさや動植物)に配慮するものとします。



農の風景や地形の起伏が感じられる
谷津田の景観(若葉区)

● 緑や水辺を保全・活用する

農地や斜面林や屋敷林などの緑の保全・育成や、池沼などの水辺の保全・活用に努めます。



夜空の明るさに配慮された場所では一
番星が見られる(若葉区)

● 歴史を感じさせる資源を保全・活用する

御成街道や社寺、特別史跡加曾利貝塚などの地域の歴史を伝える資源の保全・活用に努めるとともに、調和のとれた周辺の街並み景観の形成を図ります。



歴史や風情が感じられる街並みや緑
豊かな御成街道と長屋門

(4) 都心景観ゾーンの方針

① 千葉都心景観ゾーン

千葉都心景観ゾーンにおいては、千葉市の顔としてふさわしい風格を備え、誇りの持てる都心を目指し、中心部と臨海部の特性を活かした魅力ある景観の形成を目指します。



● 千葉市の顔にふさわしい風格やにぎわいのある景観の形成を図る

建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、千葉市の中心として緑や水辺を活かした風格のあるシンボリックな景観の形成を図るとともに、都心にふさわしいにぎわいのある街並み景観の形成を目指します。特に、都川、葭川沿いやプロムナード沿道などにおいては、周辺と一体となった景観の形成を図ります。



街路樹や高層の街並みによる風格のあるきぼーる通り

● 都市の記憶を活かした景観の継承を図る

亥鼻山周辺や千葉神社周辺を中心として、歴史を感じさせる景観の継承に努めます。



歴史が感じられる舗装や街並みによる亥鼻山歴史文化の散歩道

● 千葉港や海際の魅力を高める景観の形成を図る

海際のシンボル性を高める魅力ある空間の創出と、海とのつながりや海からの眺めに配慮した街並み景観の形成に努めます。特に臨港公園プロムナード沿道などでは、海や空のイメージが持つ開放感を阻害しない景観の形成を図ります。

● オープンスペースによるにぎわいある景観の形成を図る

道路沿いや河川沿い、公園と隣接する場所などでは、周辺の地域資源を活かしつつ、オープンスペースの創出や活用を図り、ゆとりある都市空間の創出に努めます。人々のにぎわいや、緑による潤いがあふれる、都心にふさわしい景観の形成を図ります。



緑やにぎわいが感じられる千葉銀座通り

● 歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る

千葉都心をめぐる快適な歩行者空間の創出と魅力あるネットワークの形成に努めます。また、ファサードや緑のつながりに配慮し、駐車場が街並みの連続性を損なわないような景観形成を図ります。

● 魅力ある夜間景観の形成を図る

千葉都心の魅力を高め、歩行者に印象的な表情を与える夜間景観の形成を図ります。

②幕張新都心景観ゾーン

幕張新都心景観ゾーンにおいては、国際交流都市として新しい都市イメージの創出とウォーターフロントの魅力を活かした景観の形成を目指します。



●新しい都市イメージにふさわしい洗練された景観の形成を図る

建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、新しい都市イメージを発信する個性ある街並み景観の形成を図ります。



新しい都市のイメージを発信する
業務地区

●海際の魅力を活かした景観の形成を図る

海や空のイメージが持つ開放感を阻害しない、また海とのつながりや海からの眺めに配慮した街並み景観の形成を図ります。



緑やにぎわいが感じられる
幕張ベイタウン

●オープンスペースによる緑豊かでにぎわいあふれる景観の形成を図る

花と緑のオープンスペースの創出に努め、緑豊かでにぎわいがあふれる景観の形成を図ります。



広幅員で緑が連続する歩行者空間の形成が進む幕張新都心若葉住宅地区

●歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る

幕張新都心をめぐる快適な歩行者空間の創出と魅力あるネットワークの形成に努めます。また、ファサードや緑のつながりに配慮し、駐車場が街並みの連続性を損なわないような景観形成を図ります。

●魅力ある夜間景観の形成を図る

幕張新都心の魅力を高め、印象的な表情を与える夜間景観の形成を図ります。



海浜幕張駅前の夜間景観

③蘇我副都心景観ゾーン

蘇我副都心景観ゾーンにおいては、まちの更新・再生とともに、海に開かれた緑豊かな景観の形成を目指します。



●海の魅力とまちの魅力を結び、にぎわいや親しみやすさのある景観の形成を図る

建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、海や空のイメージが持つ開放感を阻害しない、また海とのつながりや魅力ある海際の空間の創出に努めます。また、海からの眺めに配慮した街並み景観の形成を図ります。



開放感のある空間づくりや緑が連続した蘇我副都心

●港と製鉄の歴史・文化が息づく景観の形成を図る

港や製鉄の歴史と文化を伝える工業施設群の景観の活用に努めます。



千葉市蘇我スポーツ公園内の高炉モニュメント

●オープンスペースによる緑豊かでにぎわいあふれる景観の形成を図る

花と緑のオープンスペースの創出に努め、緑豊かでにぎわいがあふれる景観の形成を図ります。

●歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る

蘇我副都心をめぐる快適な歩行者空間の創出と魅力あるネットワークの形成に努めます。また、ファサードや緑のつながりに配慮し、駐車場が街並みの連続性を損なわないような景観形成を図ります。

●魅力ある夜間景観の形成を図る

蘇我副都心の魅力を高め、印象的な表情を与える夜間景観の形成を図ります。また、周辺の工業施設群の活用に努めます。

(5) 幹線道路沿道景観ゾーンの方針

国道などの沿道地域である幹線道路沿道景観ゾーンにおいては、沿道の建築物や屋外広告物等に配慮するとともに、緑を活かした千葉市の都市イメージを高める景観の形成を目指します。



● 道路周辺の緑の保全・活用を図る

うみの景観ゾーンとまちの景観ゾーンの境界となっており、かつての海岸線の記憶を継承する国道14号・357号沿いの松林や斜面林など、道路から見える良好な景観の保全・活用に努めます。



かつての海岸線の記憶を継承する
国道14号・357号と斜面林

● 秩序のある沿道景観の形成を図る

建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、違和感や圧迫感を与えないよう努めます。また、過度な表現や過度な光を生じる照明等を避け、秩序ある沿道景観の形成を目指します。



沿道敷地の緑化によるうるおいのある
国道51号沿道

● 緑豊かな沿道景観の形成を図る

沿道敷地の高木緑化や生垣緑化、オープンスペースの確保に努め、うるおいのある景観の形成を図ります。また、交差点などの結節点では、魅力ある表情づくりに努めます。

● 安全に通行できる幹線道路沿いの夜間景観を形成する

交通安全や防犯対策に配慮した照明を設置し、道路照明との相互関係を考慮した、誰もが安心して通行できる照明計画とします。

(6)河川周辺景観ゾーンの方針

主要な河川の周辺地域である河川周辺景観ゾーンは、河川が流れている場所によって景観特性が大きく異なります。花見川や都川の上・中流部や鹿島川などでは、斜面林などの周辺の緑と水辺が一体となった景観の形成を目指すとともに、水辺を活かした緑豊かな景観の形成を図ります。一方、市街地を流れる花見川や都川の下流部及び葎川などでは、周辺の街並みと一体となった景観形成や、魅力的で連続性のある夜間景観の形成を目指します。



●河川周辺の斜面林などの緑の保全・活用を図る

河川からの眺望景観を保全するため、河川周辺の斜面林などの保全・活用に努めます。



坂月川周辺の斜面林

●水辺の広がりを活かした景観の形成を図る

水辺の景観を阻害しない建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠に配慮し、水辺を引き立てる街並み景観の形成を図ります。また、過度な表現や過度な光を生じる照明等を避け、秩序ある景観の形成を目指します。



花見川周辺の緑豊かな景観

●緑豊かな水辺景観の保全・創出を図る

橋の周辺や水辺の道とのつながりに配慮するとともに、水辺の緑の保全・活用を図り、水辺を活かした良好な景観の形成に努めます。また、人が水辺にふれあうことのできる河川空間の利活用に努めます。

●周辺の市街地と一体となった魅力ある河川沿い空間の創出を図る

花見川・都川の下流部や葎川など、市街地を流れる河川周辺では、河川とその沿川の街並みが一体となった河川空間の創出に努めます。また、河川沿いを散策したくなるような、魅力的で連続性のある夜間景観の形成に努めます。



千葉県庁周辺の街並みと一体となった都川



都川沿いの市街地と一体となったオープンスペース(都川公園)

第4章 景観形成の誘導

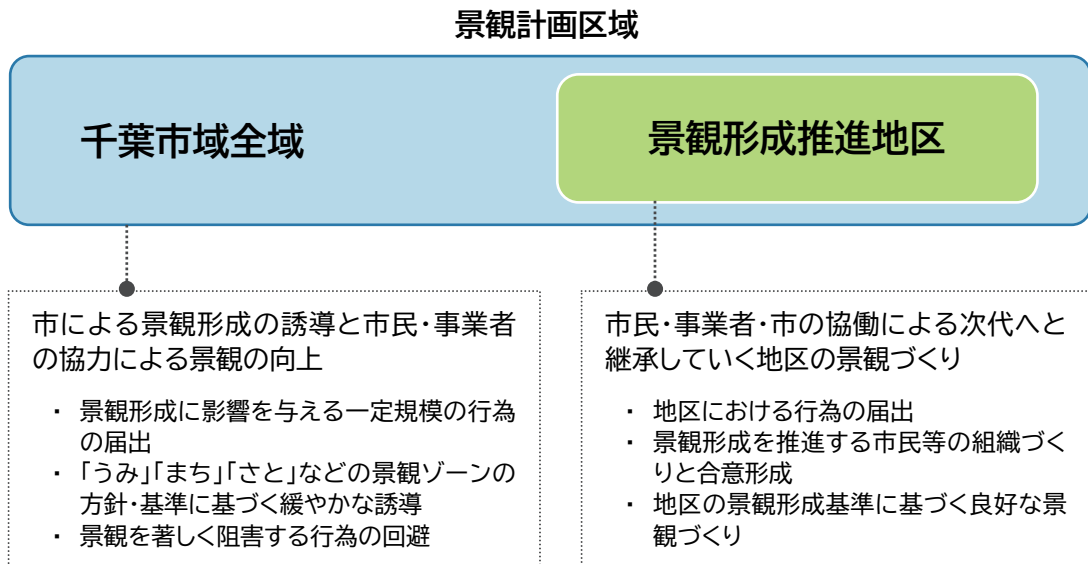
良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項 【景観法第8条第2項第2号】

4-1 基本的な考え方

景観計画区域における建築物等新築等の行為について、良好な景観の形成に向けて誘導していくものとします。このため、本計画では、良好な景観の形成を図るために、市域全域に対するものと、特定の区域に対するものを分けて誘導するものとし、景観形成基準を定めます。

市全域においては、景観形成上大きな影響を与える一定の規模の行為について景観形成を誘導するものとします。また、地域の特性を活かし、良好な景観の形成または保全によって先導的な景観形成を図る必要がある特定の地区を市民・事業者の合意形成に基づき「景観形成推進地区」として位置づけ、地区ごとに景観形成を誘導するものとします。

■景観形成の誘導の考え方



4-2 市全域における景観形成

(1)届出対象行為

市全域において届出を要する行為は、次の表に掲げるいずれかに該当するものとします。

■市全域(景観形成推進地区以外の区域)における届出対象行為

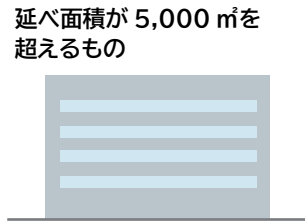
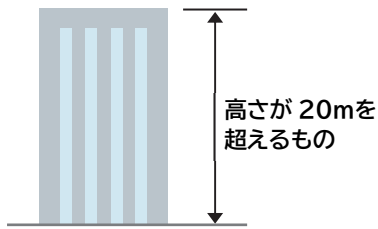
届出が必要な行為	届出が必要な規模	
建築物の新築、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更	市街化区域	高さが20mを超えるもの又は延べ面積が5,000㎡を超えるもの
	市街化調整区域	高さが10mを超えるもの又は延べ面積が1,000㎡を超えるもの
工作物の新設、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更	高さが20mを超えるもの	
開発行為	区域面積が10,000㎡を超えるもの	

景観形成推進地区については、P85を参照

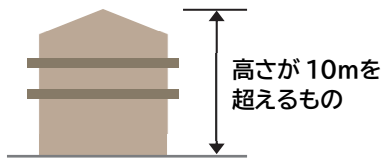
※建築基準法第2条第1項に規定する建築物

建築物※の新築、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更

- 市街化区域……………高さが20mを超えるもの又は延べ面積が5,000㎡を超えるもの

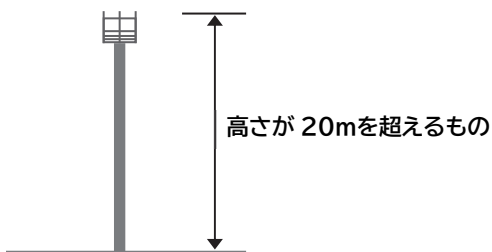


- 市街化調整区域……………高さが10mを超えるもの又は延べ面積が1,000㎡を超えるもの



※千葉市都市景観規則第2条で規定する工作物

工作物※の新設、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更

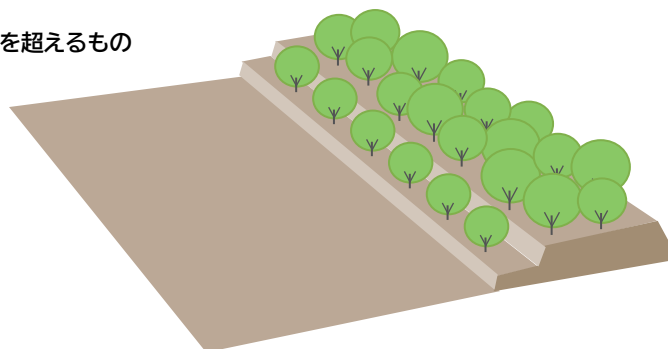


- ・門、塀、垣、さく、擁壁 他
- ・煙突、高架水槽 他
- ・鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱 他
- ・装飾塔、記念塔、物見塔 他
- ・橋りょう、高架道路、高架鉄道 他
- ・製造施設、貯蔵施設、駐車施設、遊戯施設 他
- ・その他市長が指定するもの

※都市計画法第4条第12項に規定する開発行為

開発行為※

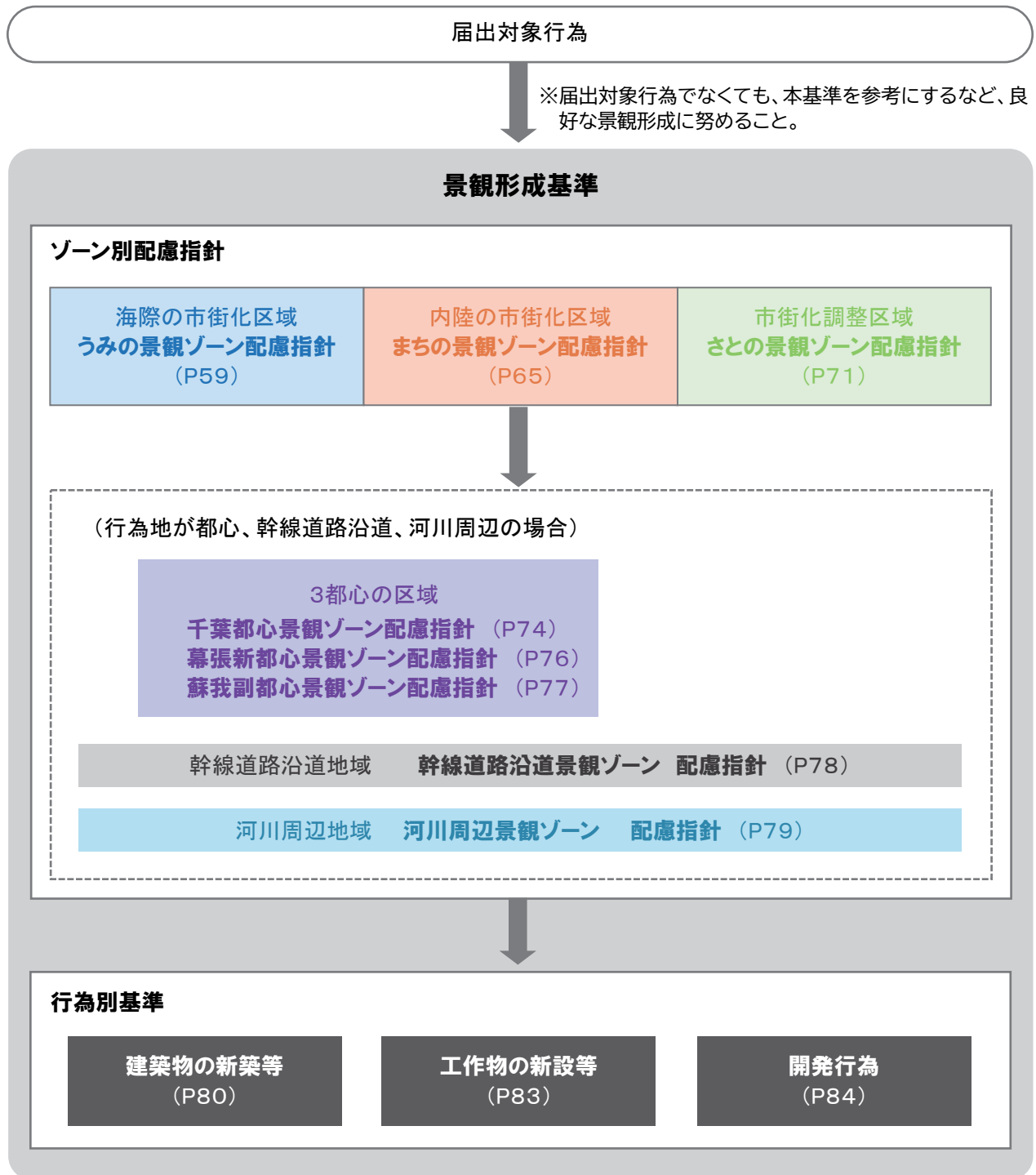
- 区域面積が10,000㎡を超えるもの



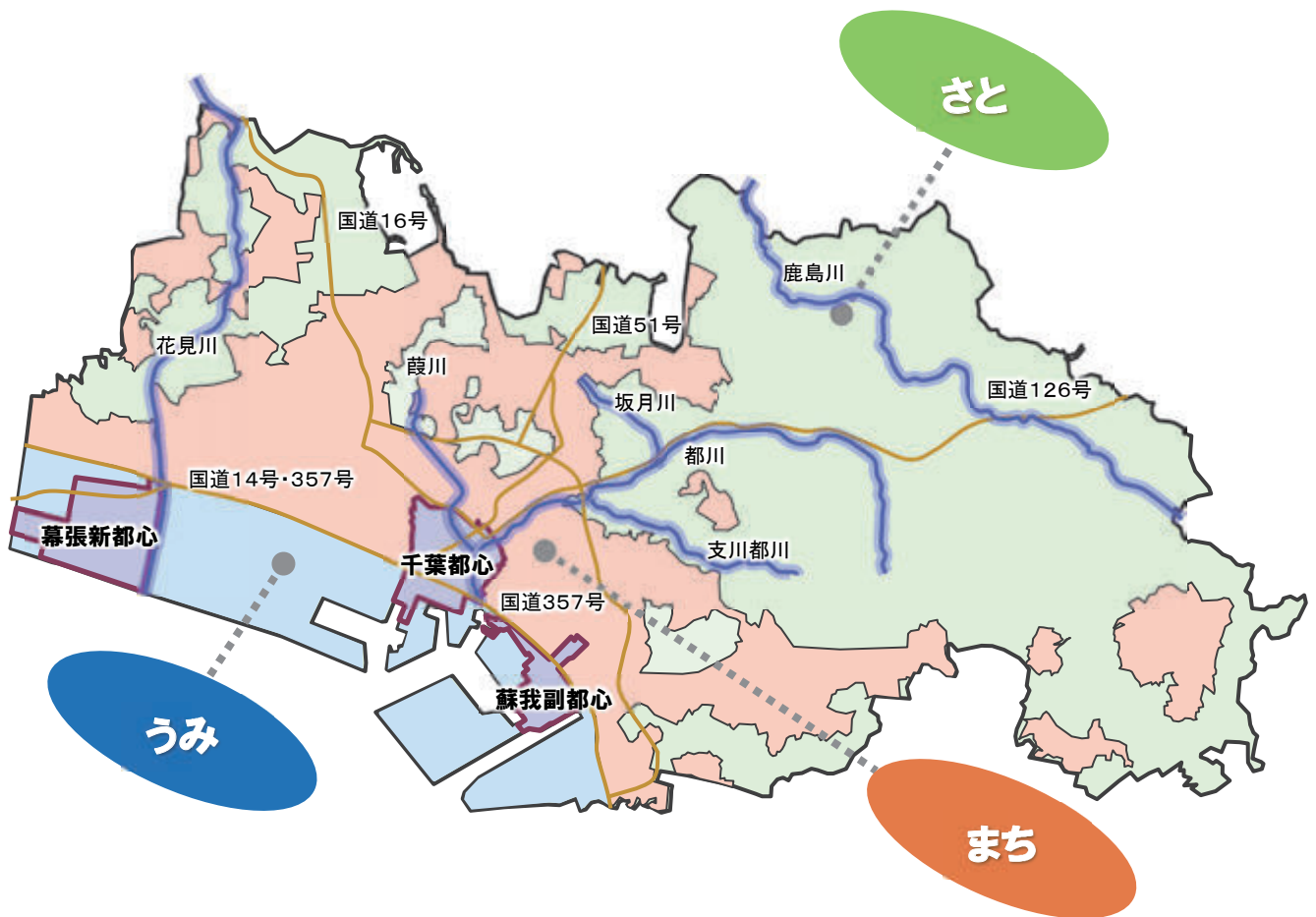
(2)景観形成基準

行為を誘導する景観形成基準を設定します。景観形成基準は、第3章で設定した景観ゾーンごとの方針を踏まえたゾーン別配慮指針と、行為の種類に応じた行為別基準から構成します。

■景観形成基準の構成



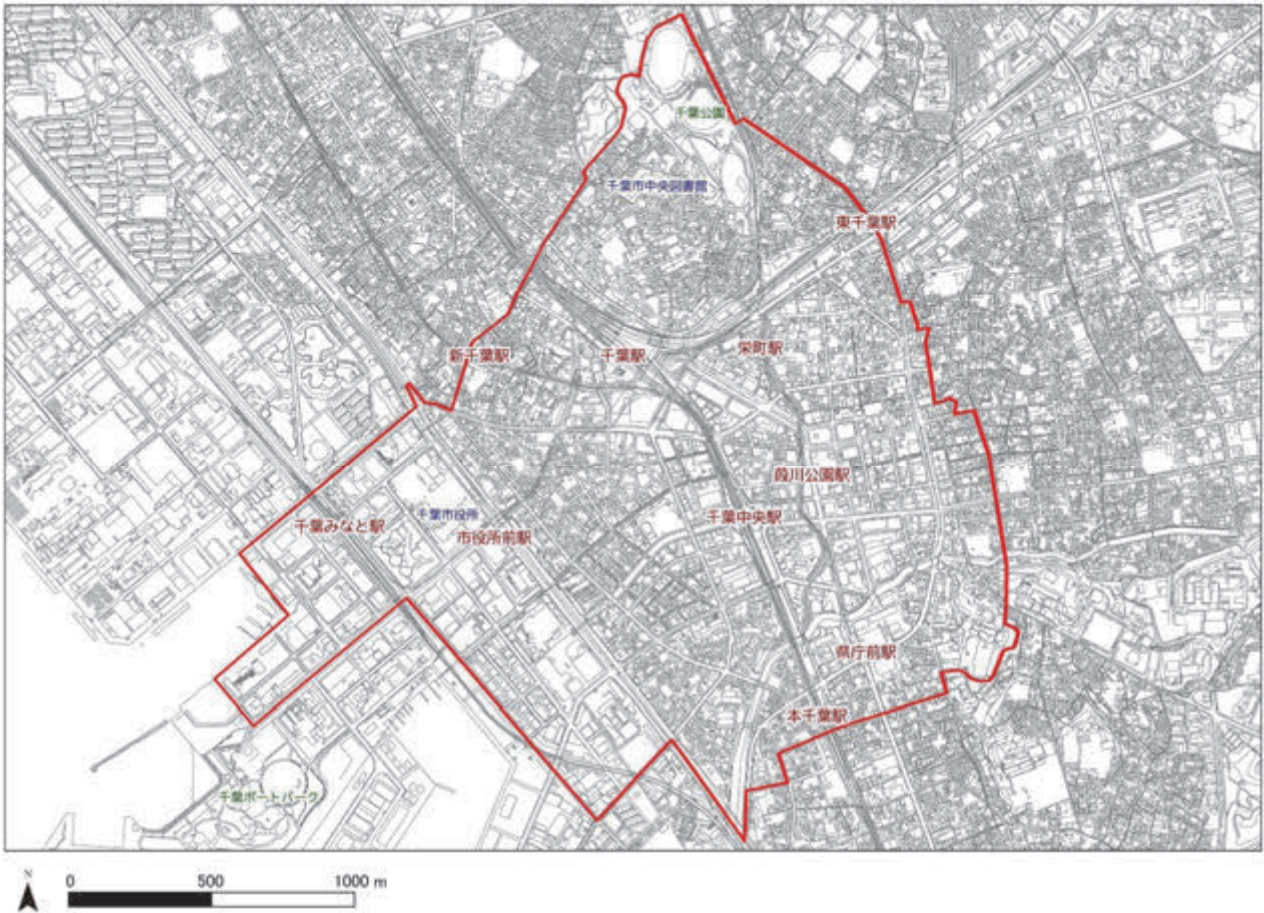
■ゾーン別配慮指針の運用区域図



凡例

景観ゾーン		運用上の区域
うみの景観ゾーン		国道14・357号から海側の市街化区域
まちの景観ゾーン		国道14・357号から陸側の市街化区域
さとの景観ゾーン		市街化調整区域
都心景観ゾーン ※各区域図は次頁	千葉都心景観ゾーン	千葉都心の区域(約400ha)
	幕張新都心景観ゾーン	幕張新都心の区域(約499ha)
	蘇我副都心景観ゾーン	蘇我副都心(蘇我特定地区)の区域(約227ha)
幹線道路沿道ゾーン (国道14号・16号・51号・126号・357号)		国道などの幹線道路の沿道地域(道路区域より25mの範囲)
河川周辺景観ゾーン (花見川・葎川・都川・坂月川・支川都川・鹿島川)		河川の周辺地域(河川区域より25mの範囲)

■千葉都心景観ゾーンの区域



■幕張新都心景観ゾーンの区域

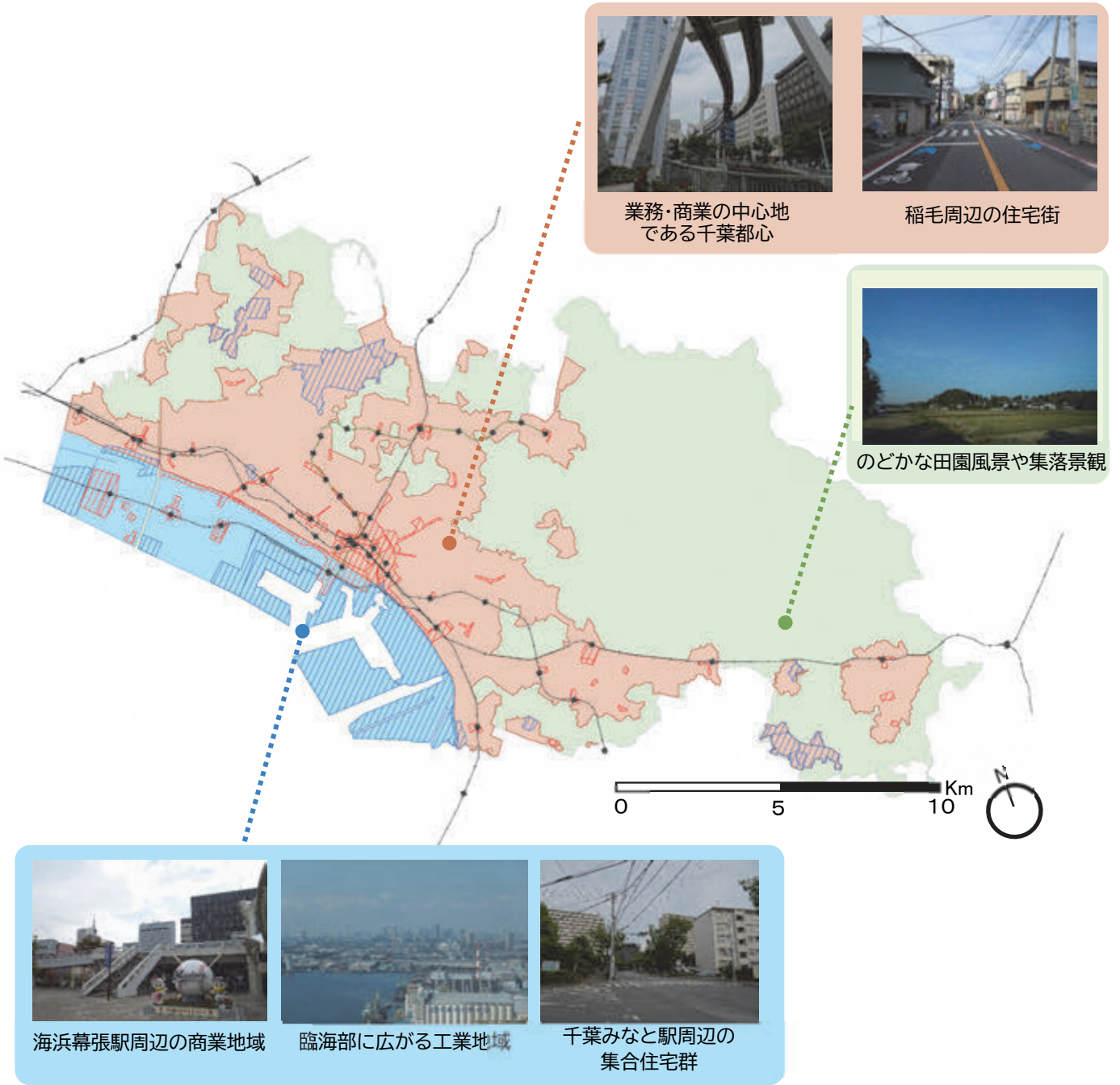


■蘇我副都心景観ゾーンの区域



■景観ゾーンと用途地域の関係

同じゾーン内でも、商業・業務系用途、工業・物流系用途、住居系用途など、用途地域が異なると、景観の様子も異なります(商業地…にぎやかな景観、住宅地…落ち着いた景観 など)。そのため、景観ゾーンごとの方針と合わせて、その場所の用途地域に応じた望ましい景観についても考え、工夫する必要があります。次ページ以降に示される各ゾーンの用途別イメージや用途別色彩基準を参考に、それぞれの場所に合ったきめ細やかな景観形成を誘導するものとします。



景観ゾーン	用途		
	商業・業務系	工業・物流系	住居系
うみの景観ゾーン			
まちの景観ゾーン			
さとの景観ゾーン	※市街化調整区域		

①ゾーン別配慮指針

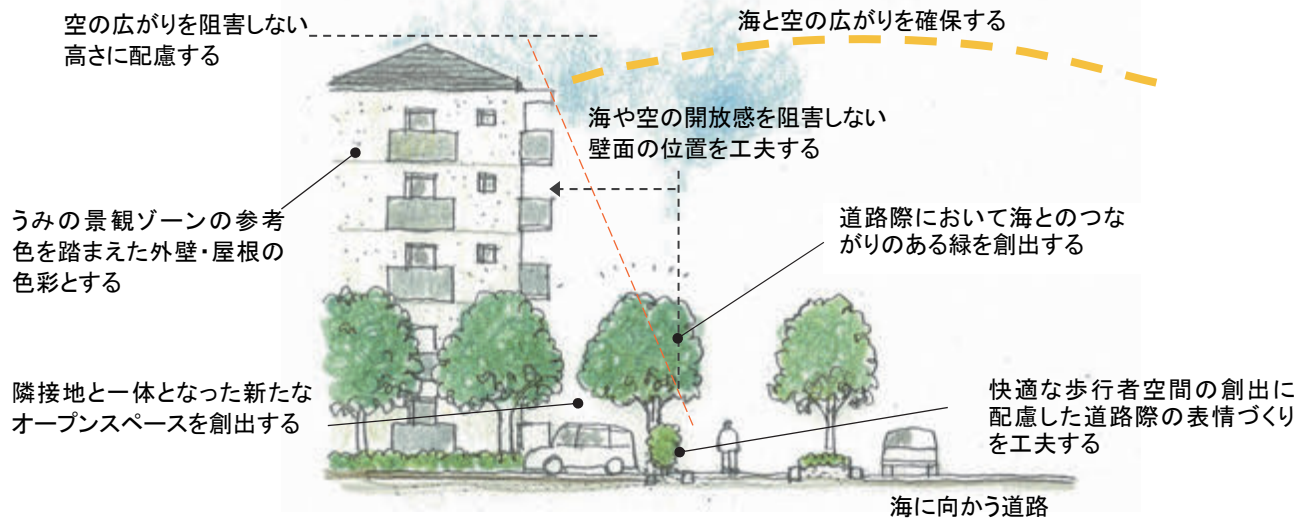
ゾーンごとの景観形成の方針を踏まえた配慮指針を示します。



●うみの景観ゾーン配慮指針

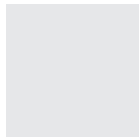
景観形成の方針	配慮指針
●海や空の広がりを感じられる開放感のある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 海や空のイメージが持つ開放感を阻害しない建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫する。 うみの景観ゾーンの参考色を踏まえた色彩を使用する。
●海への眺望を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> 海に開かれた空間の確保に努める。 海を直接見ることができる場合は、海への眺望の保全・活用に努める。
●海の魅力を引き立てる産業景観や夜間景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 臨海部の工業系施設群は、産業の発展を伝えるダイナミックで活力ある景観の形成を図る。また、工場群の特徴的な夜間景観を活かす。 施設の形態意匠や色彩を工夫し、まとまりのある景観の形成を図る。 工場夜景や魅力的な工業系施設群の景観を眺められる視点場の整備を図る。
●海の魅力を享受できる憩いの場とウォーターフロントの景観の保全・創出を図る	<ul style="list-style-type: none"> 海の魅力を活かし、快適な海際の空間の創出に努める。 海に面する部分の魅力ある表情づくりに努める。 隣接する敷地や公共施設と一体となった新たなオープンスペースの創出に努める。 建築物は透過性や開放性の高い外観デザインとし、にぎわいを感じられる空間を創出する。
●まちの玄関となる駅周辺の調和のとれた景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅周辺では、身近なにぎわいや秩序のある街並み景観の形成を図る。
●海にふさわしい緑の育成とつながりのある緑の景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 市街地と海を結ぶ道路際において、快適な歩行者空間の創出に努める。 海にふさわしい緑の創出に努める。
●海際の記憶を残す景観を継承する	<ul style="list-style-type: none"> 国道14号・357号沿い周辺をはじめとした松や斜面林などの海岸の記憶を残す景観の保全に努める。
●住宅団地の再生と合わせた景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 住宅団地については周囲に圧迫感や単調さを与えないように形態意匠及び色彩を工夫したり、周囲を緑化したりする。 住宅団地が持つ既存の緑やゆとりある空間を活かした景観の形成を図る。

■うみの景観ゾーン配慮指針の考え方

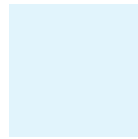


うみの景観ゾーンの参考色 ～さわやかで清潔感と開放性のある明るい色～

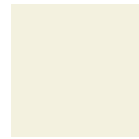
※マンセル表色系
5BG 8 / 1
(色相 明度/彩度)
Nは無彩色をあらわす



N9
(白)



5PB9/2
(ごくうすい水色)



5Y9/1
(黄みの白)



N8
(明るい灰色)

コラム「住宅団地の工夫の例」

- 大きな壁面を分節することによる圧迫感や単調さの軽減



- 壁面や出入り口のロゴデザイン



住宅団地のように大きな壁面では、明るい色はより明度が高く鮮やかに感じられ、暗い色はより暗く感じられます(面積効果)。団地のように同じ建築物が連続する空間では、特にその傾向が強くなります。

そのため、暗い色や彩度の高い色は避け、出入口などにアクセント的に使用すると効果的です。

- 周辺の緑化による潤いのある住環境を形成



住宅団地では、まとまった緑化やゆとりある空間の形成が図られている場合も多く、都市にゆとりや潤いをもたらす貴重な既存ストックにもなっています。

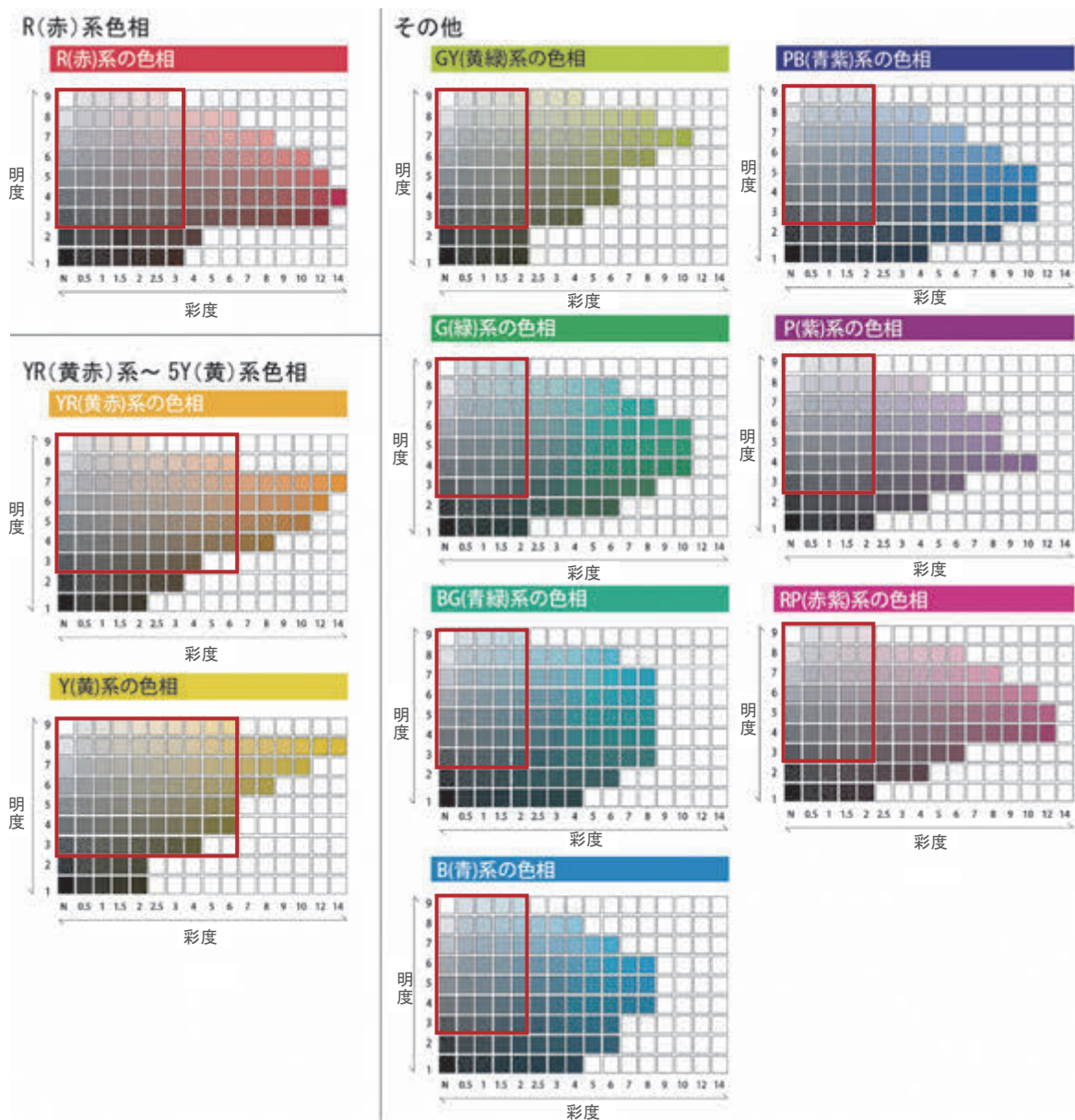
今後も引き続きこうした緑化や空間配置上の工夫を行っていくことで、団地建築物特有の圧迫感や単調さの軽減だけでなく、周辺環境に対するゆとりある空間や緑の潤いの提供に貢献することができます。

■うみの景観ゾーンの色彩基準(住居系用途)

外観(外壁・屋根等)の基準となる色彩は、将来の秩序ある景観の形成を先導する落ち着いたものとし、以下の色彩基準を適用するものとする。

マンセル値における色彩基準

色相	明度	彩度	備考
R(赤)系の色相	3.0以上	3.0以下	※建築物の見付け面積の5分の4以上について適用する。ただし、着色していない木材、石材、レンガ、ガラス等の材料により仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。 ※信号機、道路標識の妨げなど、交通の安全確保に支障がないものとする。こと。(発光や点滅するものも含む。) ※既にガイドライン等で色彩基準がある地区は、その基準を適用する。 ※本基準外の色彩でも、都市景観アドバイザーや市との協議のうえ、良好な景観の形成に支障を及ぼすおそれがないと認める時はこの限りではない。
YR(黄赤)系～5Y(黄)系色相		6.0以下	
その他		2.0以下	
N(無彩色)		-	

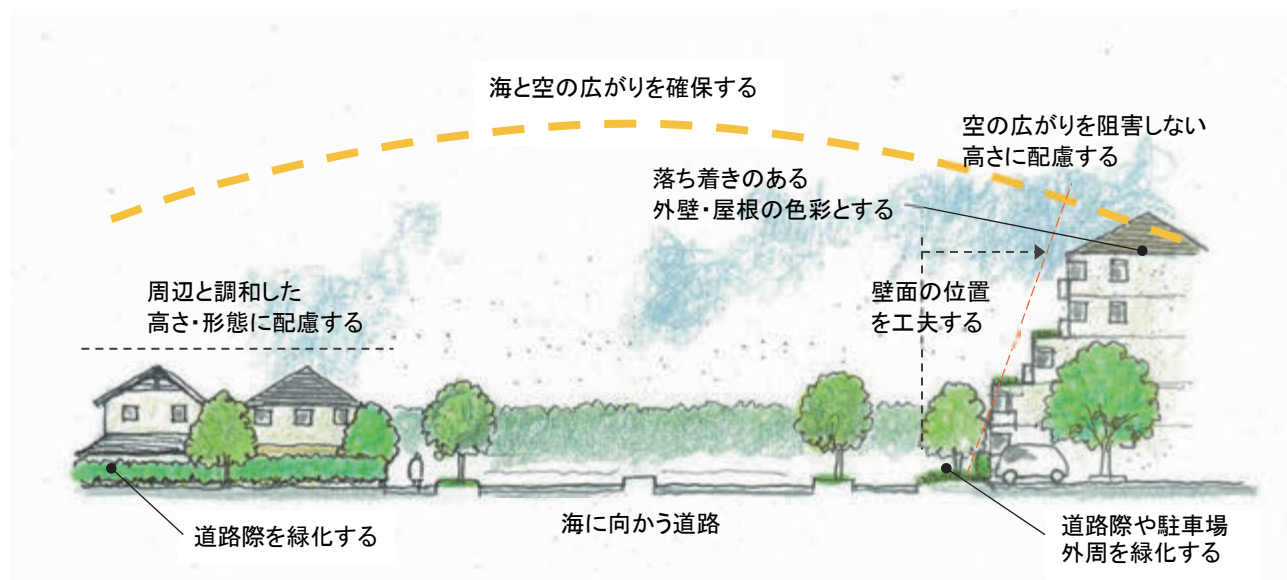


※「アクセント色」を使用する場合は、建築物全体のバランスや周辺建築物との調和に配慮し、できるだけ低層部に集約するように留意してください。(建築物の見付け面積の5分の1未満)

■うみの景観ゾーンのイメージ

(住居系用途)

- ・ 海や空の広がり、周辺との関係に配慮した規模、配置、形態意匠とする
- ・ 海への眺望が得られる場所では、その保全・活用に努める
- ・ 樹木や樹林と調和する明るい色彩による、落ち着いたある街並み景観の形成を図る
- ・ 道路際の緑化などにより、うるおいのある景観の形成を図る
- ・ 屋外広告物は、落ち着いたある色彩とするなど、良好な街並み景観の形成を図る
- ・ 住宅団地では、周辺に対する圧迫感や景観の単調さを軽減させるような形態意匠及び色彩上の工夫や、周辺の緑化を心掛ける

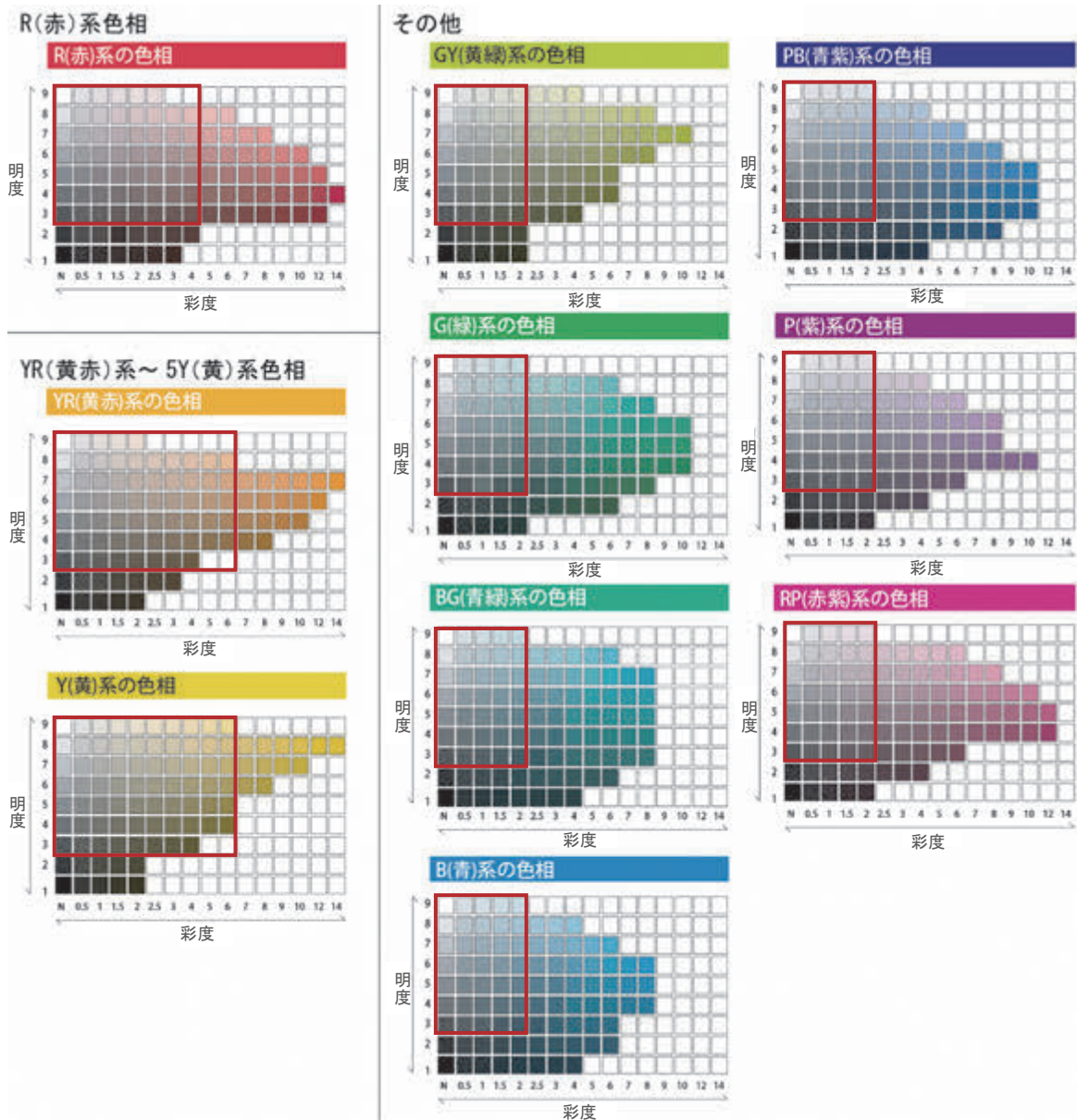


■うみの景観ゾーンの色彩基準(商業・業務系/工業・物流系用途)

外観(外壁・屋根等)の基準となる色彩は、将来の秩序ある景観の形成を先導する落ち着いたものとし、以下の色彩基準を適用するものとする。

マンセル値における色彩基準

色相	明度	彩度	備考
R(赤)系の色相	3.0以上	4.0以下	※建築物の見付け面積の5分の4以上について適用する。ただし、着色していない木材、石材、レンガ、ガラス等の材料により仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。 ※信号機、道路標識の妨げなど、交通の安全確保に支障がないものとする。(発光や点滅するものも含む。) ※既にガイドライン等で色彩基準がある地区は、その基準を適用する。 ※本基準外の色彩でも、都市景観アドバイザーや市との協議のうえ、良好な景観の形成に支障を及ぼすおそれがないと認める時はこの限りではない。
YR(黄赤)系～5Y(黄)系色相		6.0以下	
その他		2.0以下	
N(無彩色)		-	

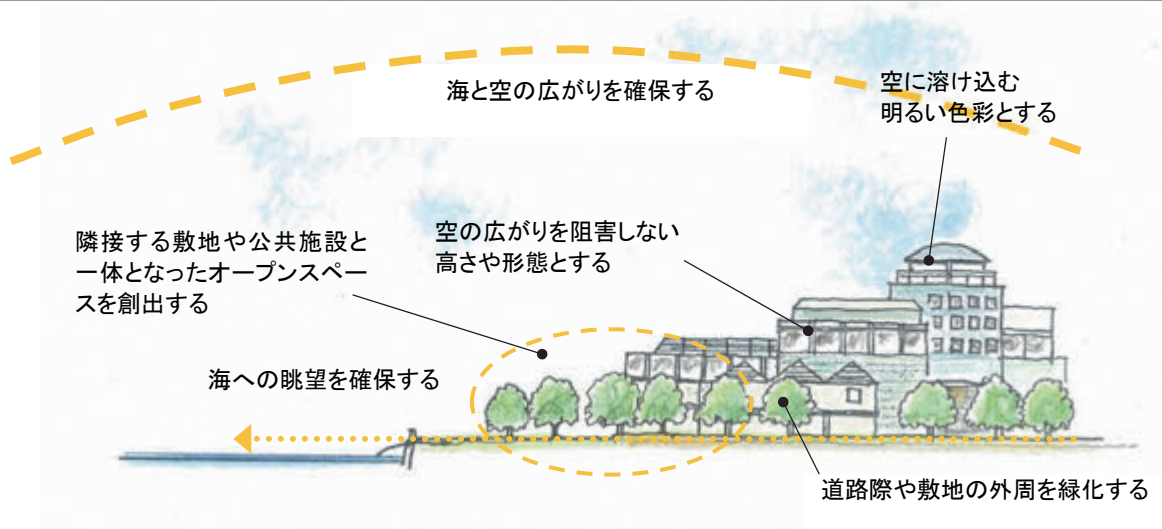


※「アクセント色」を使用する場合は、建築物全体のバランスや周辺建築物との調和に配慮し、できるだけ低層部に集約するように留意してください。(建築物の見付け面積の5分の1未満)

■うみの景観ゾーンのイメージ

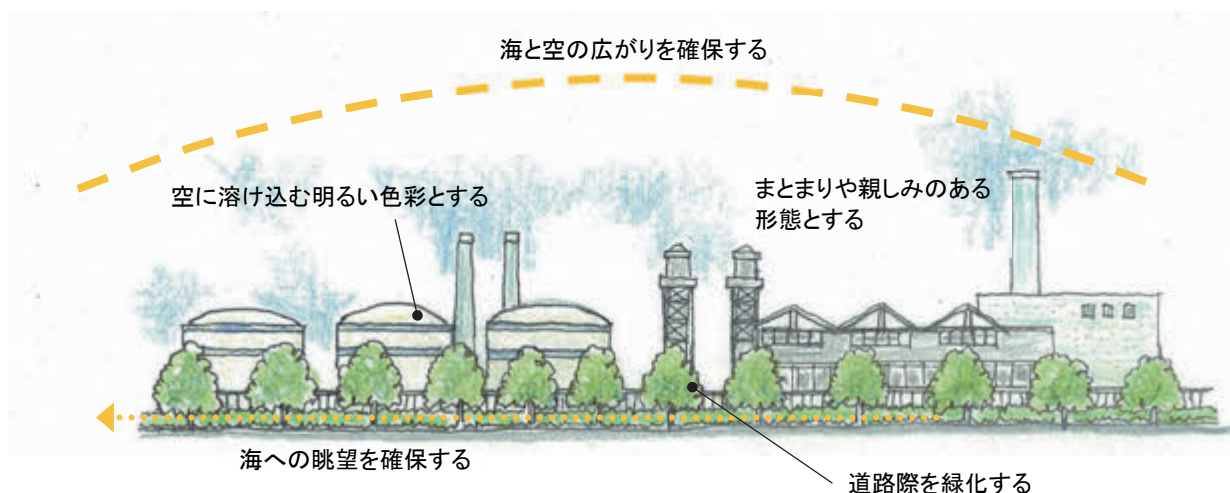
(商業・業務系用途)

- ・ 海や空の広がり、周辺との関係に配慮した規模、配置、形態意匠とする
- ・ 海への眺望が得られる場所では、その保全・活用に努める
- ・ 低層部においては、歩行者の視線に配慮した魅力的でにぎわいを感じられる表情づくりに努める
- ・ 敷地内の緑化や屋上緑化、壁面緑化、プランター緑化等により、緑豊かな景観の形成に努める
- ・ 屋外広告物は、過度な表現を避けて周辺との調和を図る
- ・ 魅力的でにぎわいを感じられる夜間景観の形成を図る
- ・ オープンスペースの創出や活用により、魅力的でゆとりある都市空間の創出を図る



(工業・物流系用途)

- ・ 活力を感じさせる臨海工業地帯の景観形成を図る
- ・ 施設の景観の活用やまとまりや親しみのある施設景観の形成を図る
- ・ 海への眺望が得られる場所では、その保全・活用に努める
- ・ 沿道の緑化や塀・柵の工夫等により、うるおいやゆとりを与える景観の形成に努める
- ・ 屋外広告物は、過度な表現を避けて周辺との調和を図る
- ・ 魅力ある夜間景観の形成を図る

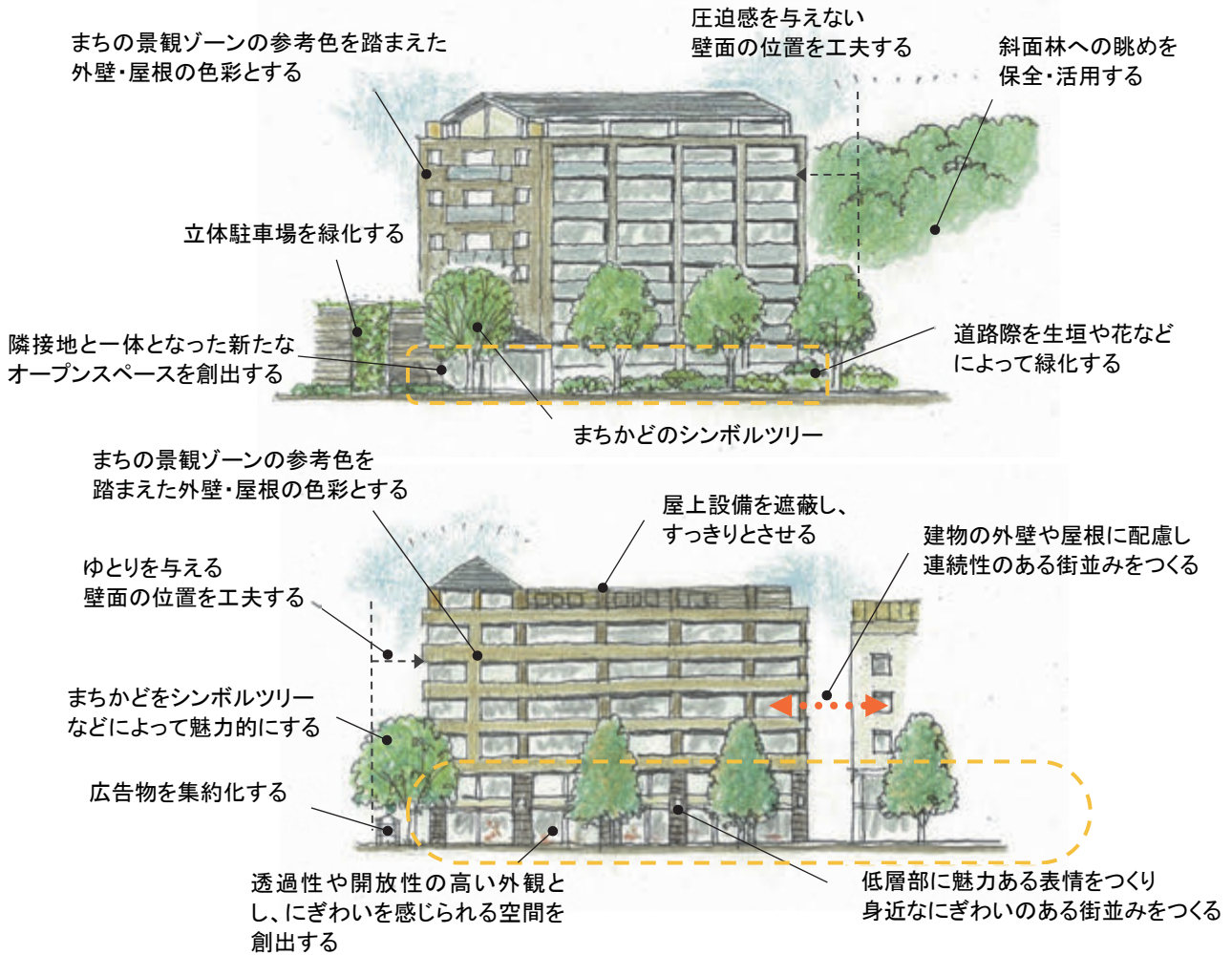


●まちの景観ゾーン配慮指針



景観形成の方針	配慮指針
●緑豊かで秩序のある街並み景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫し、圧迫感を与えず、連続性やまとまりのある街並み景観の形成を図る。 ・ 敷地内の緑の保全や緑化に努める。 ・ まちの景観ゾーンの参考色を踏まえた色彩を使用する。 ・ 隣接する敷地や公共施設と一体となった新たなオープンスペースの創出に努める。
●地形や緑、水辺を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地、斜面林や水辺の保全・活用に努める。 ・ 大規模な擁壁や法面を生じない造成に努める。 ・ 台地に大規模建築物を建設する際は、周囲からの見え方に配慮する。
●風格や歴史を感じさせる資源を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社寺や歴史を物語る建築物などの地域資源との調和に配慮する。
●まちの玄関となる駅周辺の調和のとれた景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅・モノレール駅周辺では、建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫し、にぎわいやゆとりのある街並み景観の形成を図る。 ・ 建築物は透過性や開放性の高い外観デザインとし、にぎわいが感じられる空間を創出する。
●眺望が得られる場所を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台地上の眺望できる場所の保全・活用に努める。 ・ モノレールからの眺望を阻害しないように色彩や形態意匠に配慮する。特に、千葉公園や千葉市動物公園、坂月川周辺等はモノレールから視界が開けて見える特徴的な立地・地形であるため、周辺の建築物や工作物の色彩・形態意匠はモノレールからの見え方に配慮したものとする。
●海際の記憶を残す景観を継承する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道14号・357号沿い周辺をはじめとした松林や斜面林などの海岸の記憶を残す景観の保全・活用に努める。
●住宅団地の再生と合わせた景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅団地については周囲に圧迫感や単調さを与えないように形態意匠及び色彩を工夫したり、周囲を緑化したりする。 ・ 住宅団地が持つ既存の緑やゆとりある空間を活かした景観の形成を図る。
●市街地のそれぞれの特性に応じた夜間景観を形成する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業地域では、低層部において、店舗から漏れ出す光や街灯などによってにぎわいを演出する。 ・ 住宅地や公園の周辺等では、過度な光の使用は控えながらも、エントランス部分や植栽へ照明を設置し、道路沿いを明るくすることにより歩行者に安心感をもたらす。

■まちの景観ゾーン配慮指針の考え方



まちの景観ゾーンの参考色 ～人が生き生き見えて風格や良質な質感を感じる落ち着いた色～

※マンセル表色系
5YR 5 / 2
(色相 明度/彩度)
Nは無彩色をあらわす

5YR5/2 (灰みの茶色)	10YR9/0.5 (黄みの白)	10YR8/2 (明るい灰みの黄赤)	5PB9/1 (青みの白)

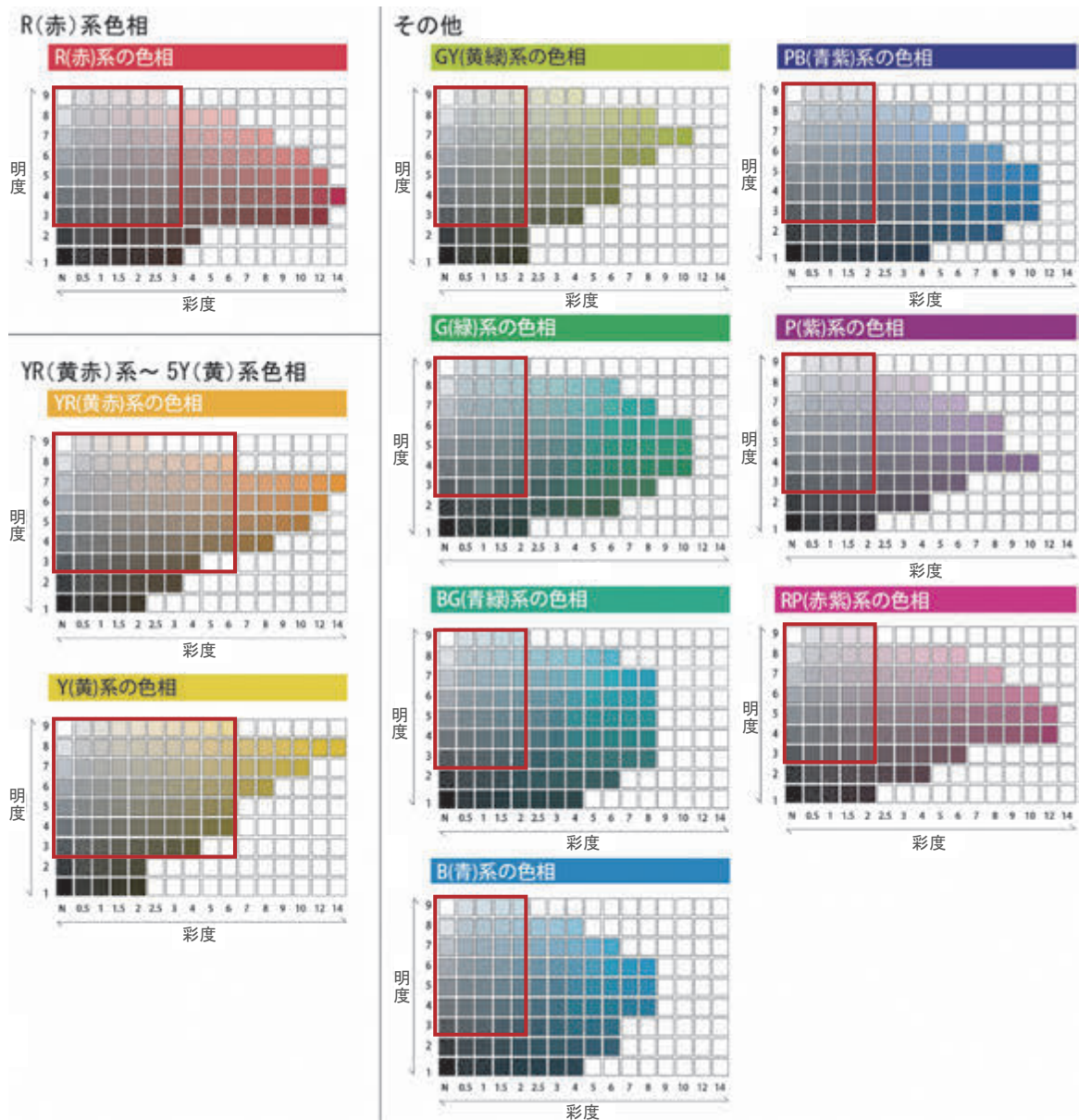
外壁の工夫については、コラム「住宅団地の工夫の例」P60 を参照

■まちの景観ゾーンの色彩基準(住居系用途)

外観(外壁・屋根等)の基準となる色彩は、将来の秩序ある景観の形成を先導する落ち着いたものとし、以下の色彩基準を適用するものとする。

マンセル値における色彩基準

色相	明度	彩度	備考
R(赤)系の色相	3.0以上	3.0以下	※建築物の見付け面積の5分の4以上について適用する。ただし、着色していない木材、石材、レンガ、ガラス等の材料により仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。 ※信号機、道路標識の妨げなど、交通の安全確保に支障がないものとする。(発光や点滅するものも含む。) ※既にガイドライン等で色彩基準がある地区は、その基準を適用する。 ※本基準外の色彩でも、都市景観アドバイザーや市との協議のうえ、良好な景観の形成に支障を及ぼすおそれがないと認める時はこの限りではない。
YR(黄赤)系～5Y(黄)系色相		6.0以下	
その他		2.0以下	
N(無彩色)		-	

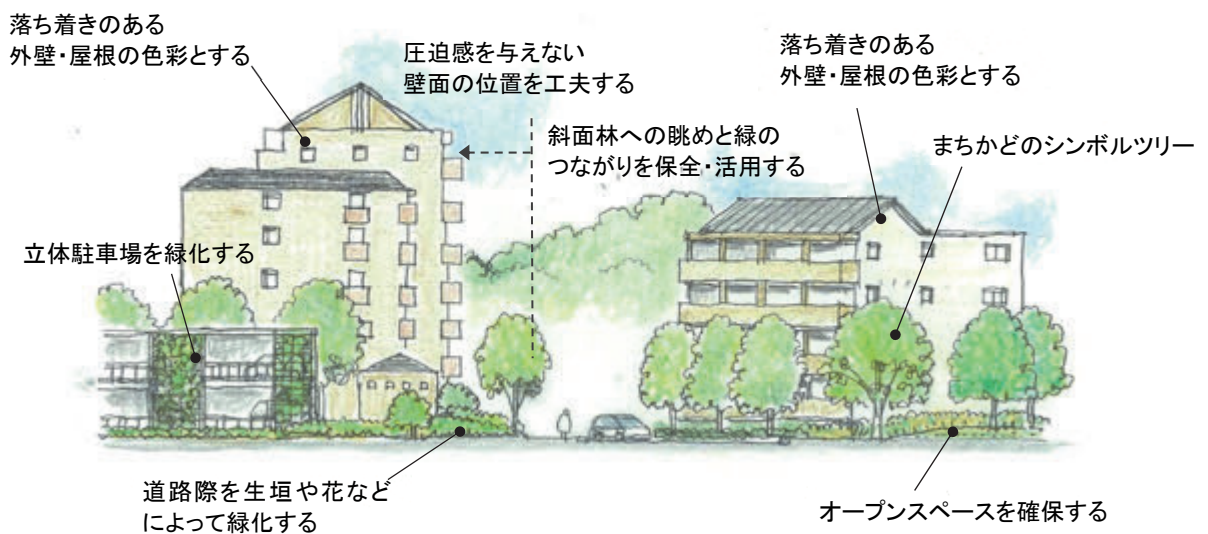
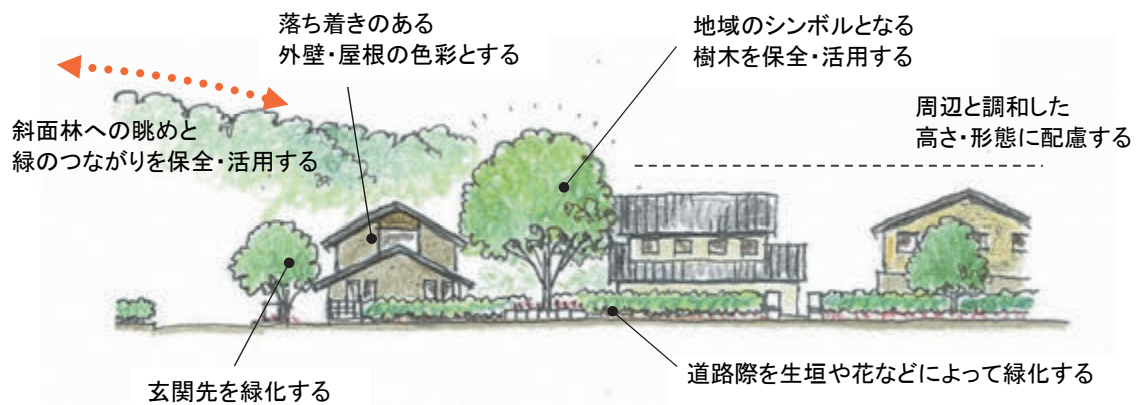


※「アクセント色」を使用する場合は、建築物全体のバランスや周辺建築物との調和に配慮し、できるだけ低層部に集約するように留意してください。(建築物の見付け面積の5分の1未満)

■まちの景観ゾーンのイメージ

(住居系用途)

- ・ 地形の起伏や斜面林などの既存の樹林等の保全・活用を図る
- ・ 周辺との関係に配慮した規模、配置、形態意匠とする
- ・ 樹木や樹林と調和する色彩による落ち着いた街並み景観の形成を図る
- ・ 生垣緑化などによる敷地の緑化に努めるとともに、緑豊かな景観の形成を図る
- ・ 塀や擁壁を設置する場合は、自然素材とするなど、周辺との調和を図る
- ・ 屋外広告物は、落ち着いた色彩とするなど、良好な街並み景観の形成に配慮する
- ・ 落ち着いた安心感のある夜間景観の形成を図る
- ・ 住宅団地では、周辺に対する圧迫感や景観の単調さを軽減させるような形態意匠及び色彩上の工夫や、周辺の緑化を心掛ける

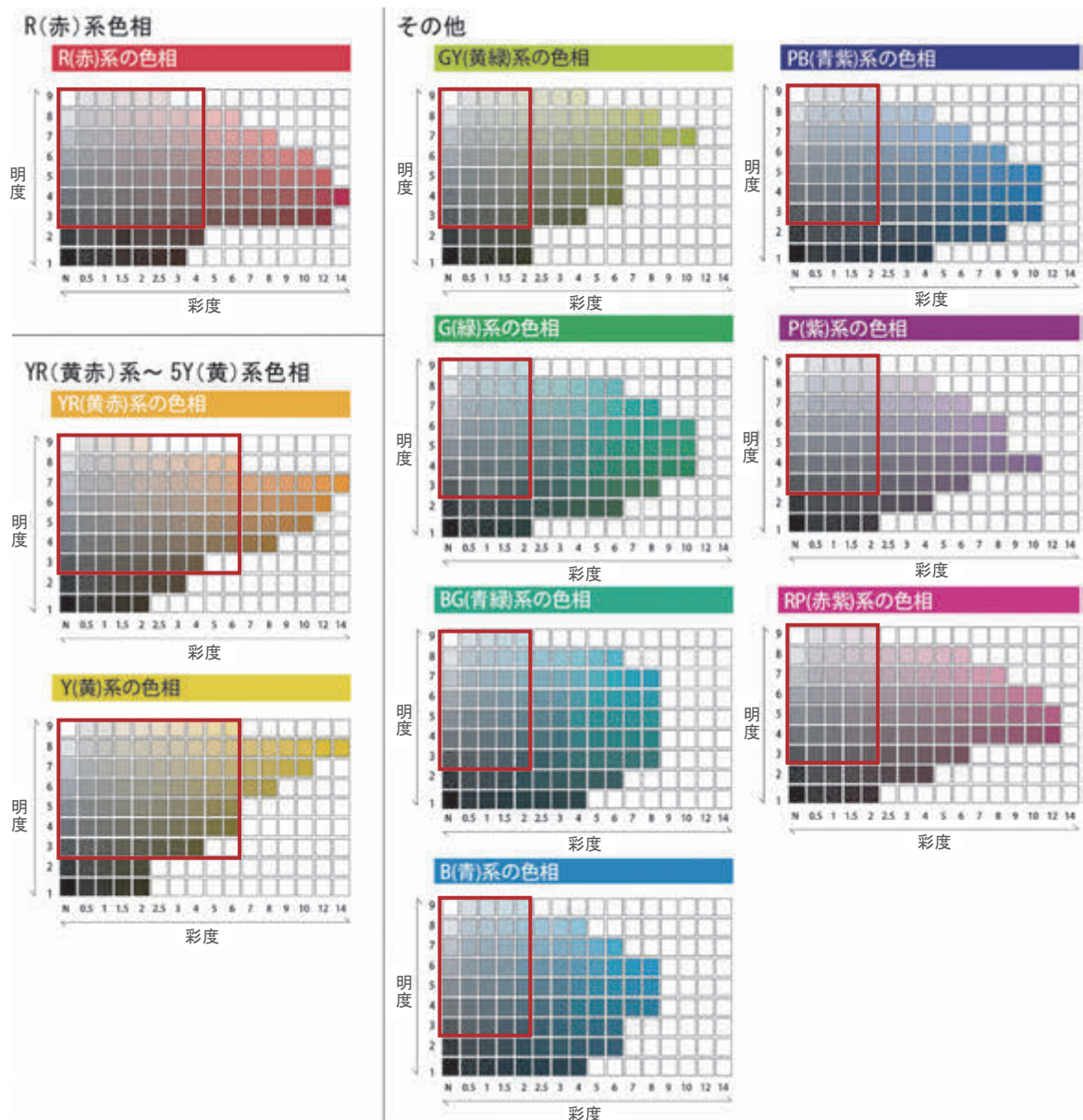


■まちの景観ゾーンの色彩基準(商業・業務系/工業・物流系用途)

外観(外壁・屋根等)の基準となる色彩は、将来の秩序ある景観の形成を先導する落ち着いたものとし、以下の色彩基準を適用するものとする。

マンセル値における色彩基準

色相	明度	彩度	備考
R(赤)系の色相	3.0以上	4.0以下	※建築物の見付け面積の5分の4以上について適用する。ただし、着色していない木材、石材、レンガ、ガラス等の材料により仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。 ※信号機、道路標識の妨げなど、交通の安全確保に支障がないものとする。(発光や点滅するものも含む) ※既にガイドライン等で色彩基準がある地区は、その基準を適用する。 ※本基準外の色彩でも、都市景観アドバイザーや市との協議のうえ、良好な景観の形成に支障を及ぼすおそれがないと認める時はこの限りではない。
YR(黄赤)系～5Y(黄)系色相		6.0以下	
その他		2.0以下	
N(無彩色)		-	

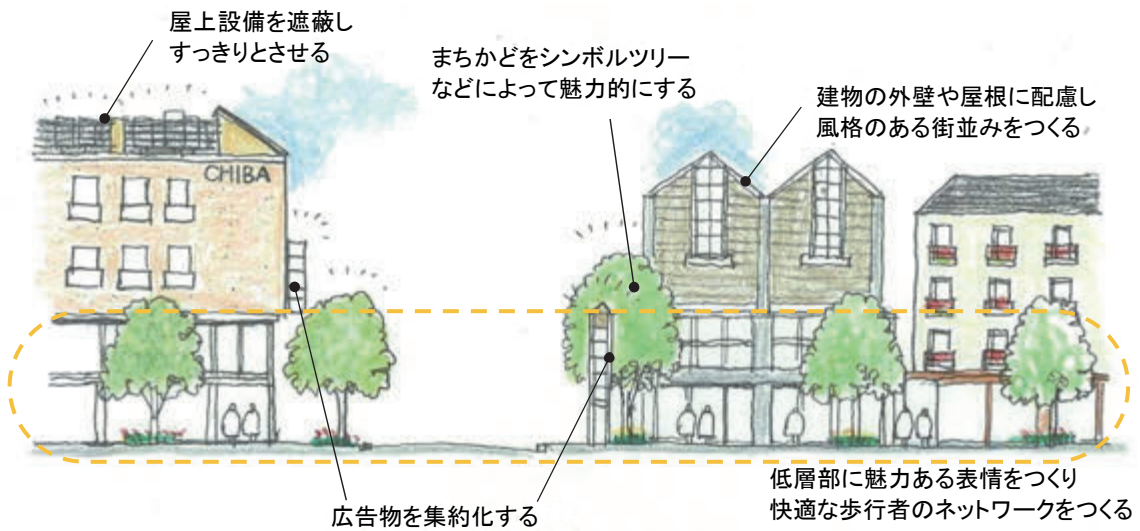


※「アクセント色」を使用する場合は、建築物全体のバランスや周辺建築物との調和に配慮し、できるだけ低層部に集約するように留意してください。(建築物の見付け面積の5分の1未満)

■まちの景観ゾーンのイメージ

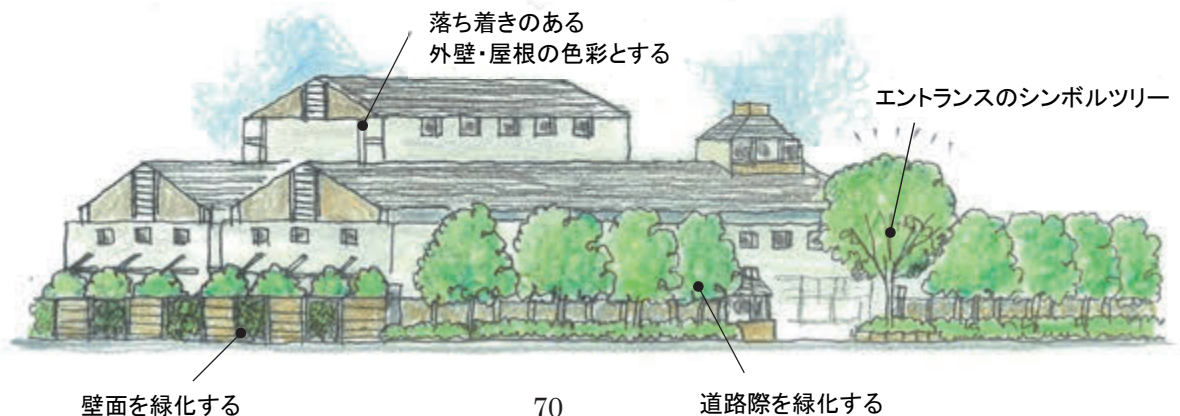
(商業・業務系用途)

- ・ 周辺との関係や連続性に配慮した規模、配置、形態意匠とする
- ・ 低層部においては、歩行者の視線に配慮した魅力的でにぎわいを感じられる表情づくりに努める
- ・ 敷地内の緑化や屋上緑化、壁面緑化、プランター緑化等により、緑豊かな景観の形成に努める
- ・ 屋外広告物は、過度な表現を避けて周辺との調和を図る
- ・ 魅力的でにぎわいを感じられる夜間景観の形成を図る
- ・ オープンスペースの創出や活用により、魅力的でゆとりある都市空間の創出を図る



(工業・物流系用途)

- ・ 周辺との関係に配慮した規模、配置、形態意匠とする
- ・ まとまりや親しみのある施設景観の形成を図る
- ・ 沿道の緑化や塀・柵の工夫等により、うるおいやゆとりを与える景観の形成に努める
- ・ 屋外広告物は、過度な表現を避けて周辺との調和を図る
- ・ 道路沿いに照明を設け、夜間でも安全に通行できる照明計画とする

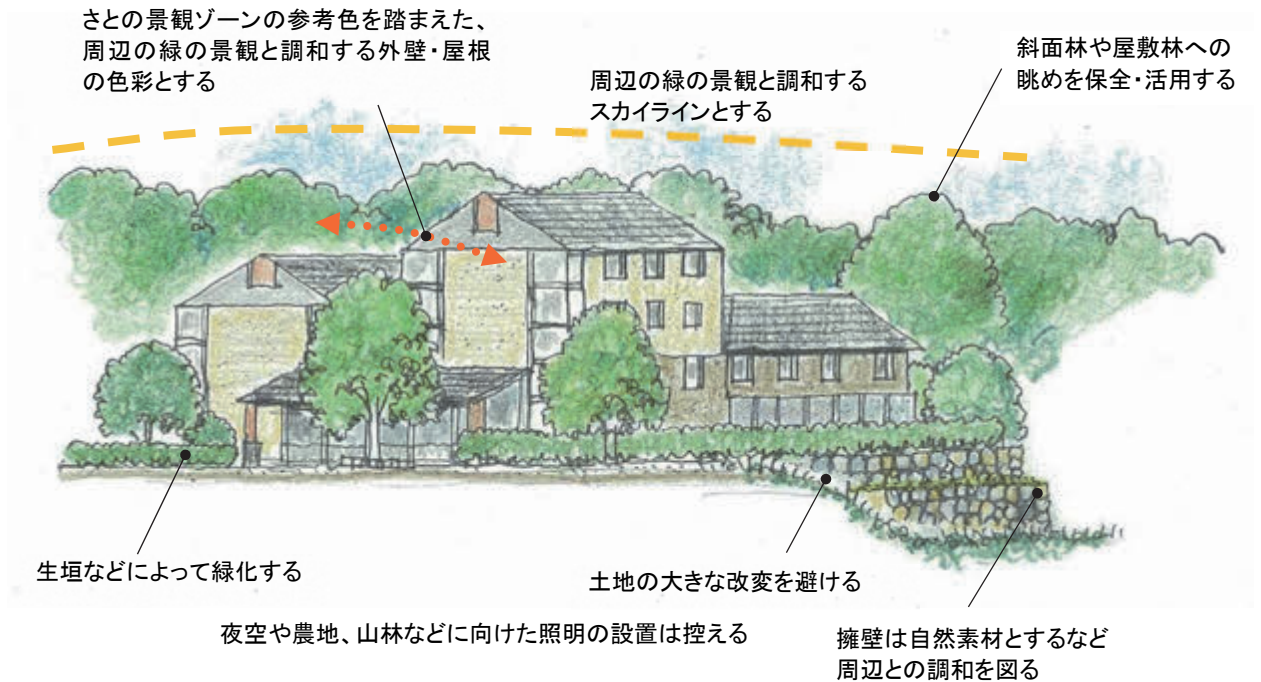


●さとの景観ゾーン配慮指針



景観形成の方針	配慮指針
●農の風景や地形の起伏を大切にしたい、豊かさを感じさせる田園景観の保全を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の景観と調和するよう、土地の大きな改変を避ける。 ・ 建築物や工作物、屋外広告物等は低層を基本としたスカイラインを形成するとともに、周辺と調和する形態意匠、素材を工夫する。 ・ さとの景観ゾーンの参考色を踏まえた色彩を使用する。 ・ 自然環境や生態系への影響に配慮し、過度な光の使用や、夜空や農地、山林などに向けた照明の設置は控える。
●緑や水辺を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地、斜面林や池沼などの保全・活用に努める。 ・ 屋敷林などの緑の保全や生垣緑化などに努める。
●歴史を感じさせる資源を保全・活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街道や社寺、特別史跡加曾利貝塚などの地域の歴史を伝える景観資源の保全・活用に努める。

■さとの景観ゾーン配慮指針の考え方



さとの景観ゾーンの参考色 ～緑と水辺が引き立つおだやかなやすらぎを与える色～

※マンセル表色系
5YR 5 / 3
(色相 明度/彩度)



5YR5/3
(灰みの茶色)



5YR4/2
(灰みの茶色)



5YR7/2
(明るい灰みの黄赤)



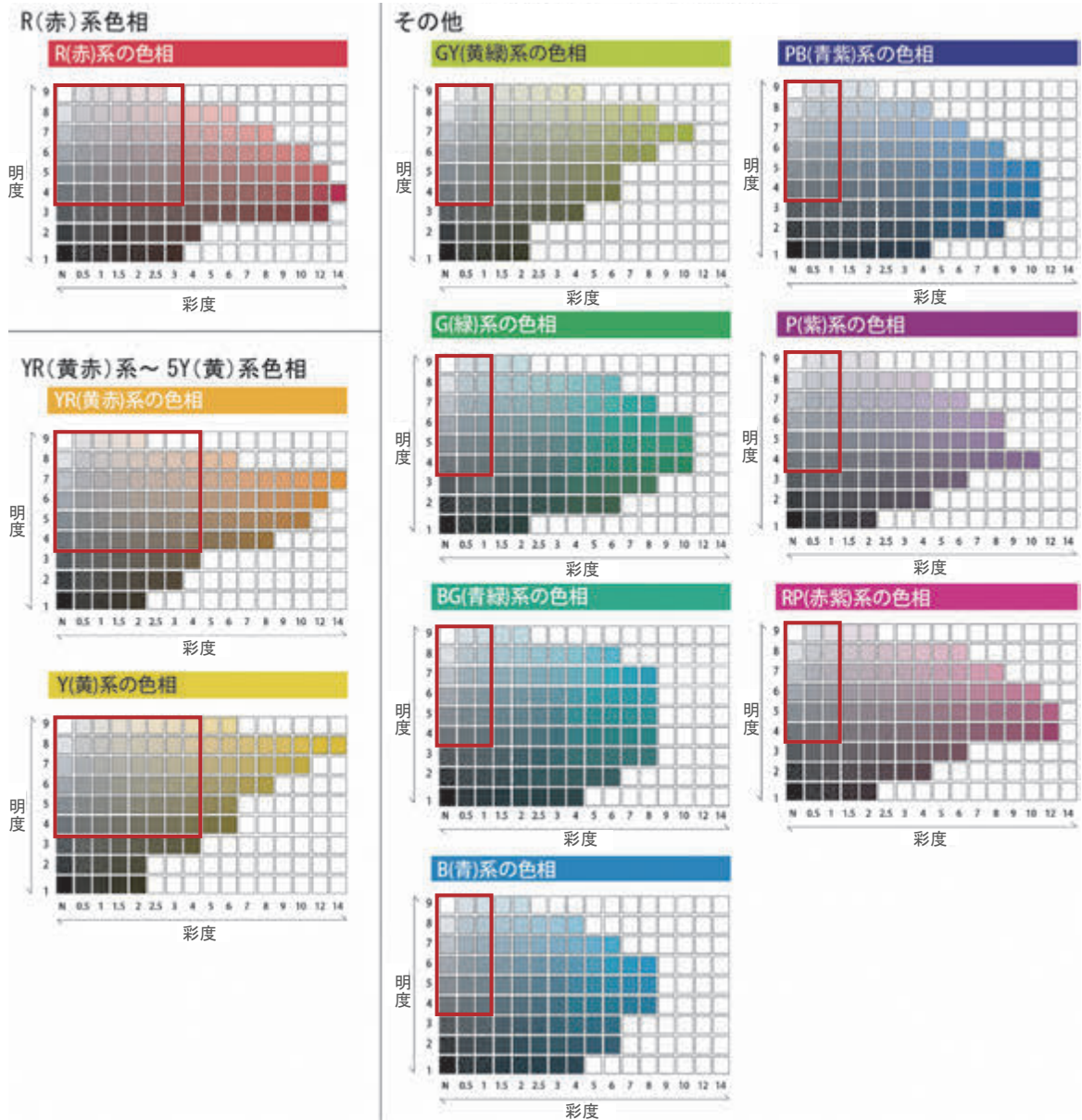
5YR7/3
(明るい灰みの黄赤)

■さとの景観ゾーンの色彩基準

外観(外壁・屋根等)の基準となる色彩は、将来の秩序ある景観の形成を先導する落ち着いたものとし、以下の色彩基準を適用するものとする。

マンセル値における色彩基準

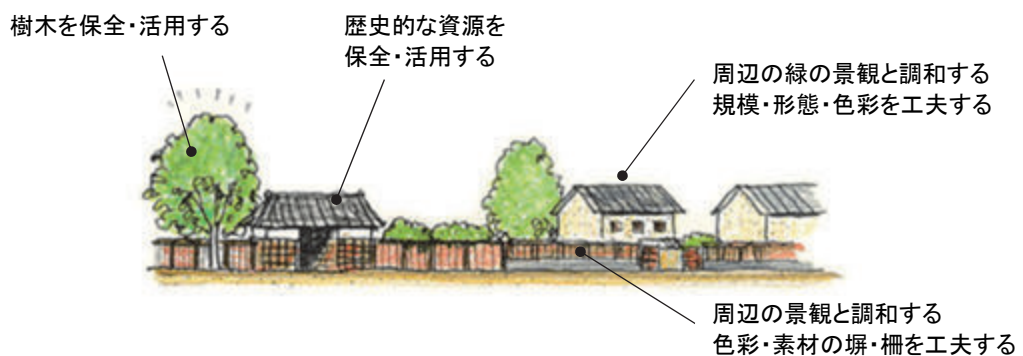
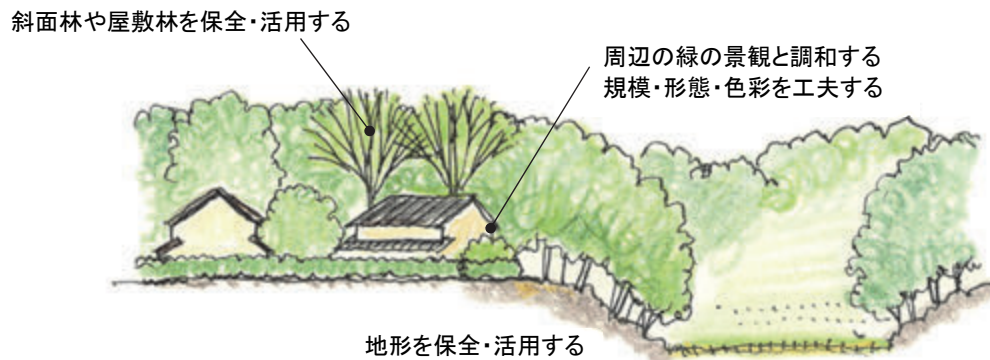
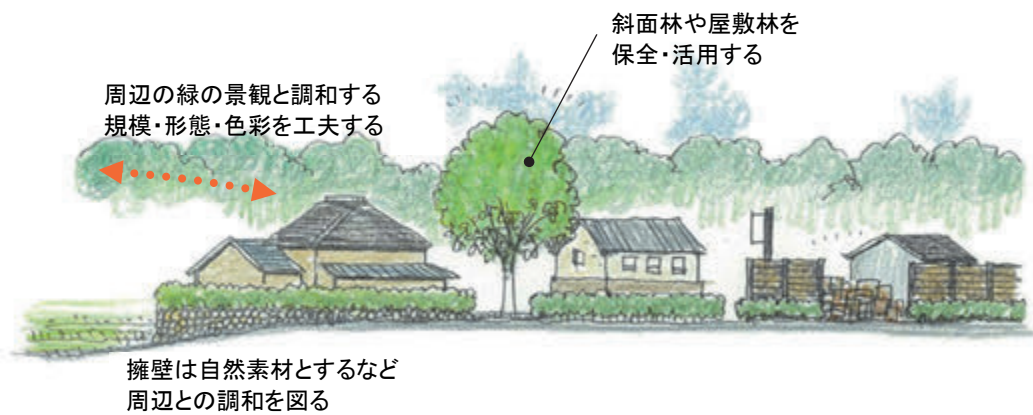
色相	明度	彩度	備考
R(赤)系の色相	4.0以上	3.0以下	※建築物の見付け面積の5分の4以上について適用する。ただし、着色していない木材、石材、レンガ、ガラス等の材料により仕上げられる部分の色彩はこの限りでない。 ※信号機、道路標識の妨げなど、交通の安全確保に支障がないものとする。(発光や点滅するものも含む。) ※既にガイドライン等で色彩基準がある地区は、その基準を適用する。 ※本基準外の色彩でも、都市景観アドバイザーや市との協議のうえ、良好な景観の形成に支障を及ぼすおそれがないと認める時はこの限りではない。
YR(黄赤)系～5Y(黄)系色相		4.0以下	
その他		1.0以下	
N(無彩色)		-	



※「アクセント色」を使用する場合は、建築物全体のバランスや周辺建築物との調和に配慮し、できるだけ低層部に集約するように留意してください。(建築物の見付け面積の5分の1未満)

■さとの景観ゾーンのイメージ

- ・ 地形の起伏の保全・活用を図る
- ・ 屋敷林・生垣の保全や敷地の緑化に努める
- ・ 周辺の緑の景観と調和する規模、配置、形態意匠とする
- ・ 樹木や樹林と調和する色彩による、落ち着いたある街並み景観の形成を図る
- ・ 塀や擁壁を設置する場合は、自然素材とするなど、周辺との調和を図る
- ・ 屋外広告物は、落ち着いたある色彩とするなど、良好な景観の形成に努める
- ・ 照明は夜間の安全に寄与するものに留め、過度な光の使用や、夜空や自然地向けた照明の設置は控える

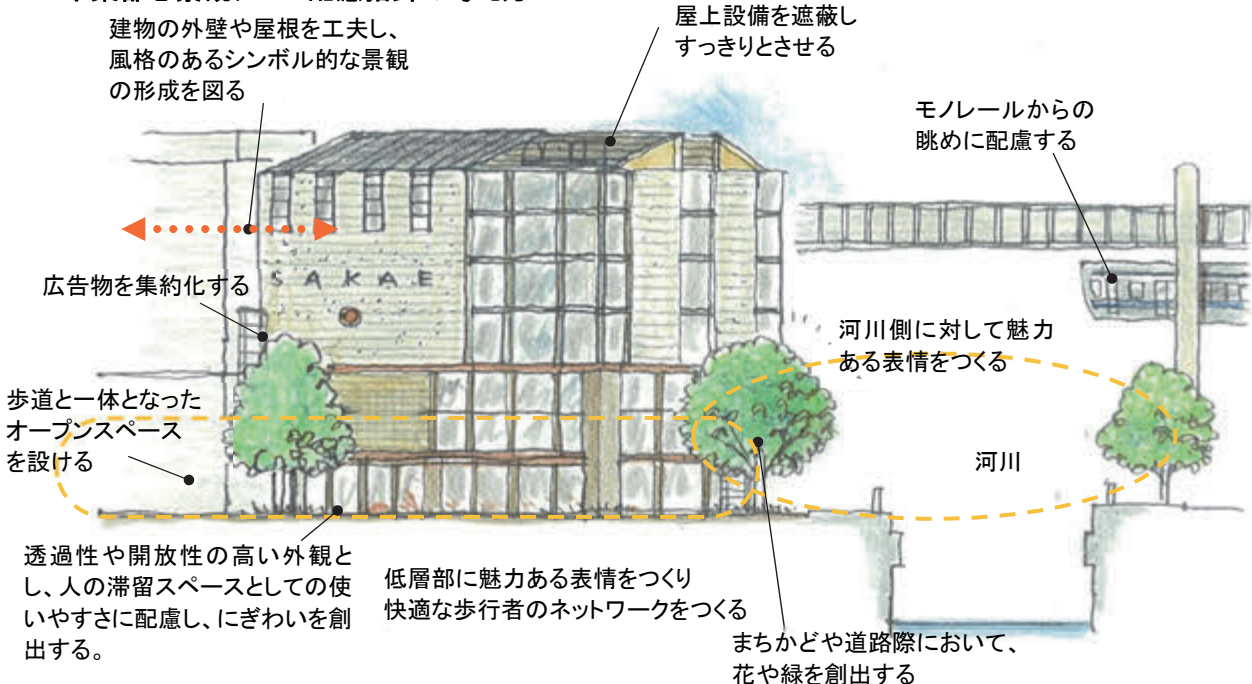


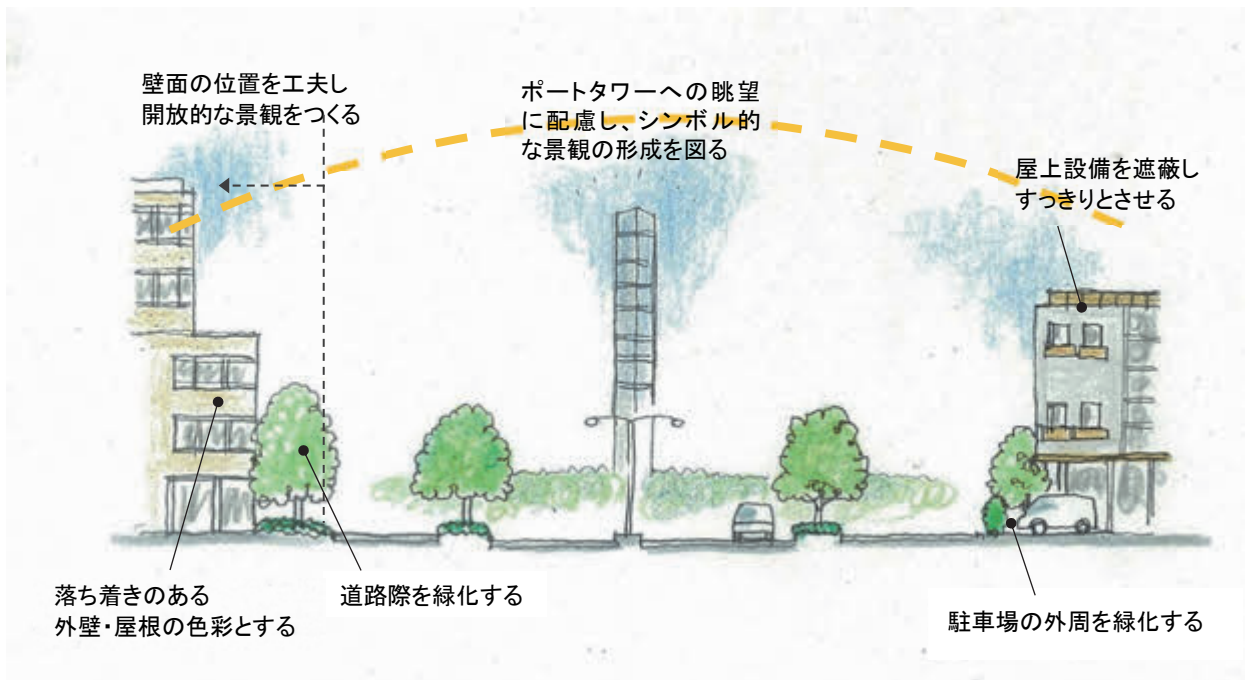
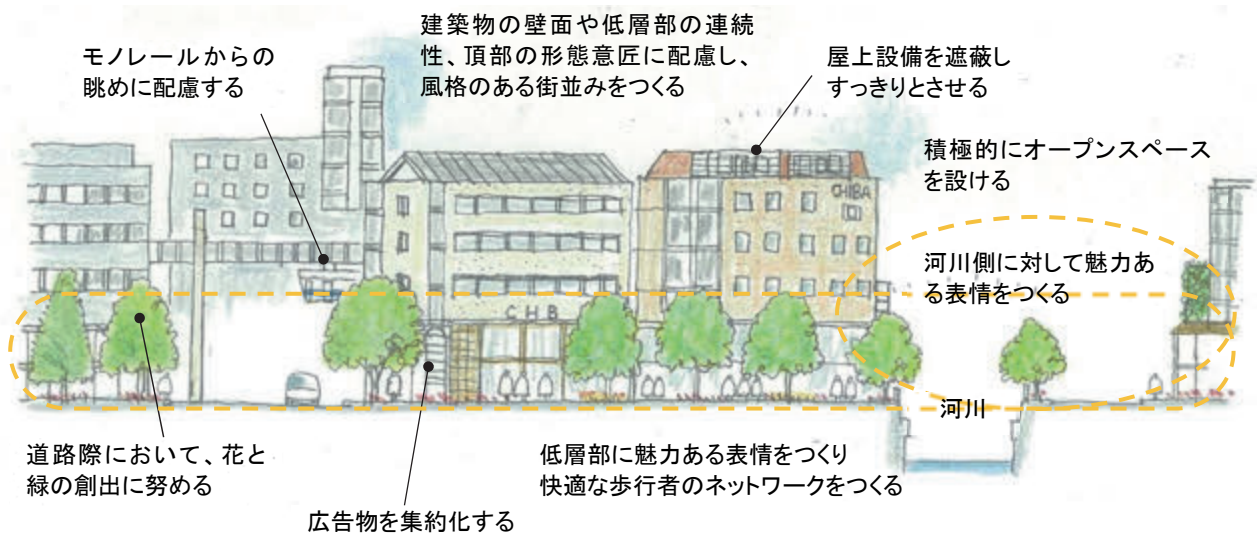


●千葉都心景観ゾーン配慮指針

景観形成の方針	配慮指針
●千葉市の顔にふさわしい風格やにぎわいのある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫し、千葉市の中心として緑や水辺を活かした風格のあるシンボリックな景観の形成を図る。 都心にふさわしいにぎわいのある表情づくりに努める。 都川や葭川沿いでは、水辺を活かし、河川と一体となった魅力ある表情づくりに努める。特にモノレールと並走する葭川は、千葉都心の顔となるような空間となるよう沿川空間の魅力向上に努める。 モノレールからの眺めに配慮する。 建築物は透過性や開放性の高い外観デザインとし、建物1階とオープンスペースのデザインや人の滞留スペースとしての使いやすさに配慮し、にぎわいが感じられる空間を創出する。
●都市の記憶を活かした景観の継承を図る	<ul style="list-style-type: none"> 亥鼻山周辺や千葉神社周辺など、歴史を感じさせる落ち着いた景観の継承に努める。
●千葉港や海際の魅力を高める景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 海際のシンボル性を高める魅力ある空間の創出を図る。 海とのつながりや海からの眺めに配慮した街並み景観の形成を図る。
●オープンスペースによるにぎわいある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にオープンスペースを設け、歩道と一体となった快適かつ歩いて楽しい空間の創出やひとの滞留を促す空間となるよう、整備・活用する。
●歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 道路際において、花と緑の創出に努める。 低層部に魅力ある表情の歩行者空間の創出に努め、ネットワークの形成を図る。 駐車場を整備する際は、敷地際を緑化するなどの工夫をし、街並みの連続性を損なったり、無機質な印象を与えたりしないような配慮をする。駐車場出入口によりにぎわいの歩行者空間が分断される場合は他にふさわしい設置位置がないか検討する等配慮する。
●魅力ある夜間景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 千葉都心の魅力を高め、歩行者に印象的な表情を与える夜間景観の形成を図る。

■千葉都心景観ゾーン配慮指針の考え方



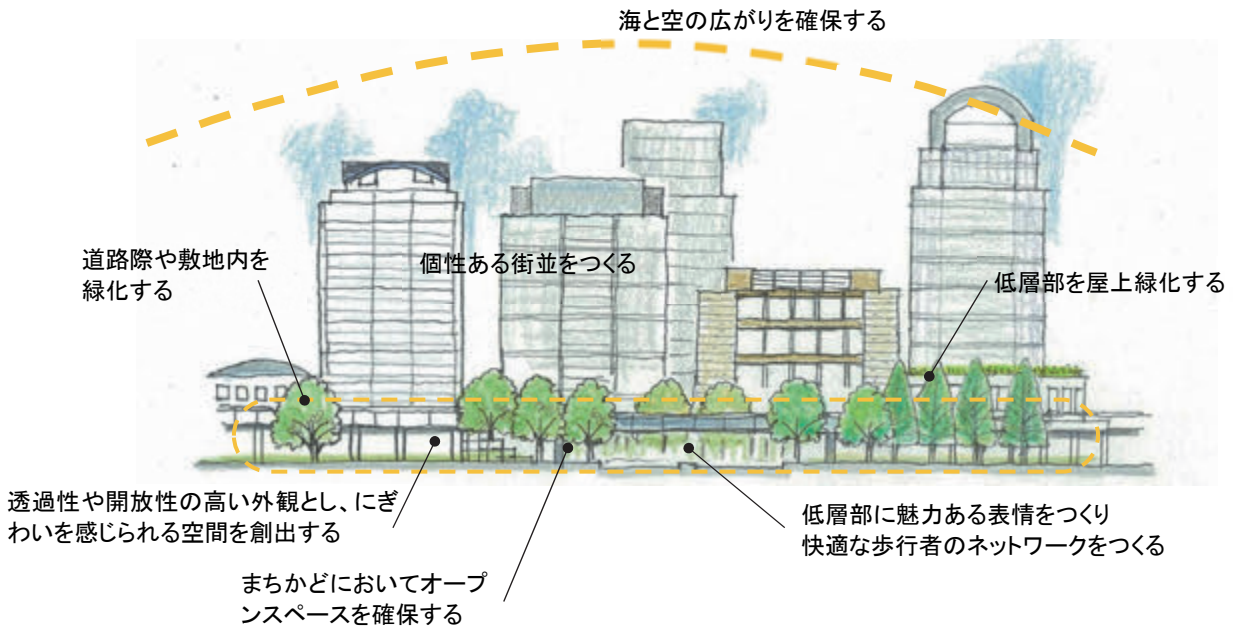




●幕張新都心景観ゾーン配慮指針

景観形成の方針	配慮指針
●新しい都市イメージにふさわしい洗練された景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫し、新しい都市イメージを発信する個性ある街並み景観の形成を図る。 建築物は透過性や開放性の高い外観デザインとし、にぎわいが感じられる空間を創出する。
●海際の魅力を活かした景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある海際の空間や開放感のある空間の創出に努める。 海とのつながりや海からの眺めに配慮する。
●オープンスペースによる緑豊かでにぎわいあふれる景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 壁面の位置の工夫等により、花と緑が豊かで人々が憩い、にぎわうことのできるオープンスペースの創出に努める。
●歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 低層部に魅力ある表情の歩行者空間の創出に努め、ネットワークの形成に配慮する。 駐車場を整備する際は、敷地際を緑化するなどの工夫をし、街並みの連続性を損なったり、無機質な印象を与えたりしないような配慮をする。駐車場出入口によりにぎわいの歩行者空間が分断される場合は他にふさわしい設置位置がないか検討する等配慮する。
●魅力ある夜間景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 幕張新都心の魅力を高める夜間景観の形成を図る。

■幕張新都心景観ゾーン配慮指針の考え方

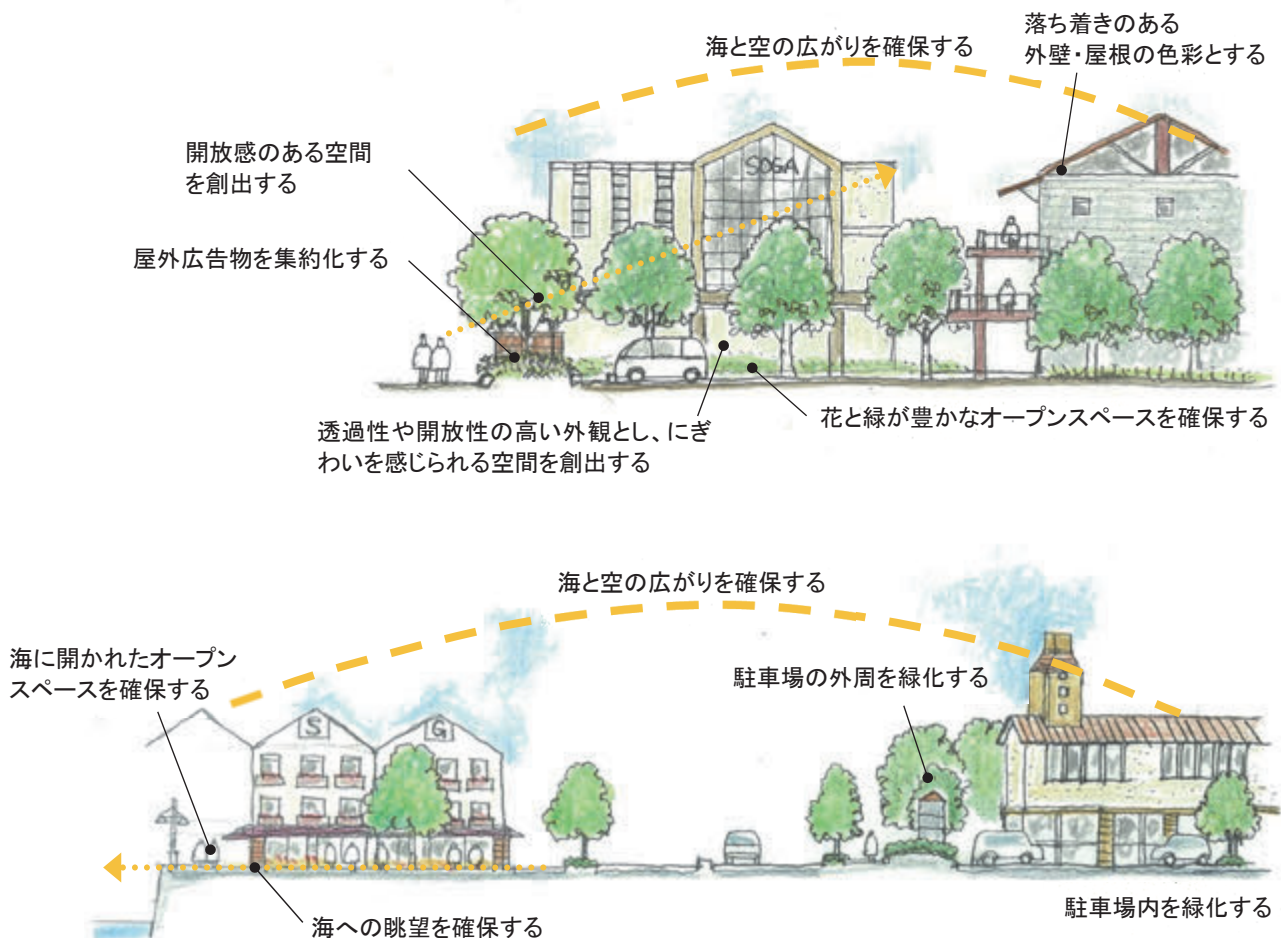




●蘇我副都心景観ゾーン配慮指針

景観形成の方針	配慮指針
●海の魅力とまちの魅力を結び、にぎわいや親しみやすさのある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫し、魅力ある海際の空間や開放感のある空間の創出に努める。 ・海とのつながりや海からの眺めに配慮する。 ・建築物は透過性や開放性の高い外観デザインとし、にぎわいが感じられる空間を創出する。
●港と製鉄の歴史・文化が息づく景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・港や製鉄の歴史と文化を伝える工業施設群の景観の活用に努める。
●オープンスペースによる緑豊かでにぎわいあふれる景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面の位置の工夫等により、花と緑が豊かで人々が憩い、にぎわうことができるオープンスペースの創出に努める。
●歩行者の回遊性に配慮した快適で親しみのある景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・低層部に魅力ある表情の歩行者空間の創出に努め、ネットワークの形成を図る。 ・駐車場を整備する際は、敷地際を緑化するなどの工夫をし、街並みの連続性を損なったり、無機質な印象を与えたりしないような配慮をする。駐車場出入口によりにぎわいの歩行者空間が分断される場合は他にふさわしい設置位置がないか検討する等配慮する。
●魅力ある夜間景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・蘇我副都心の魅力を高める夜間景観の創出を図る。 ・工業施設群の形態を活かした景観形成に努める。

■蘇我副都心景観ゾーン配慮指針の考え方

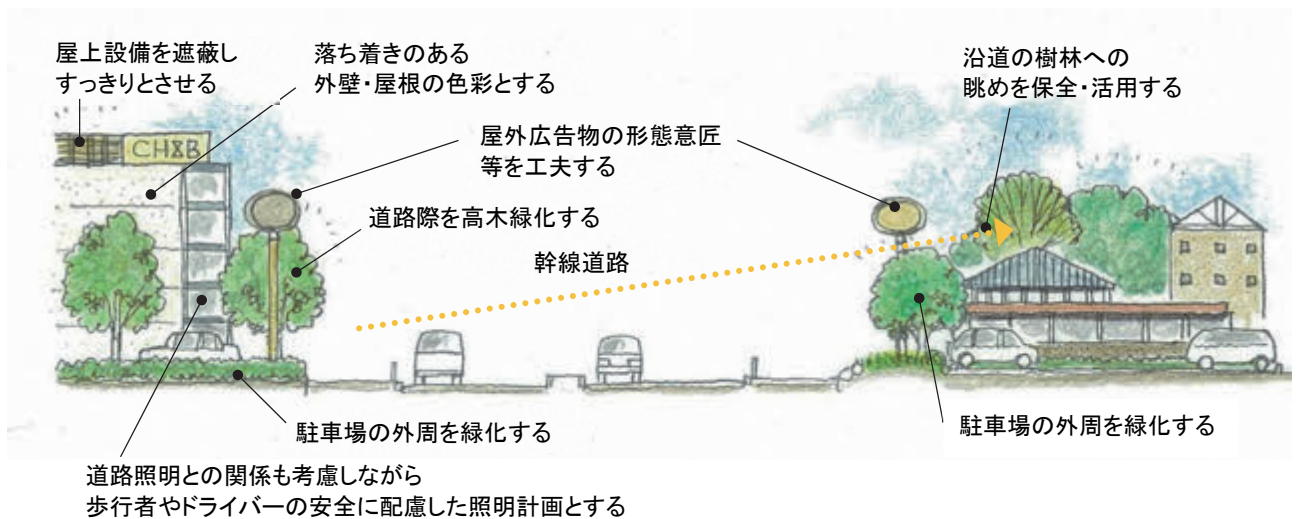




● 幹線道路沿道景観ゾーン配慮指針

景観形成の方針	配慮指針
● 道路周辺の緑の保全・活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> 道路から見える斜面林などの景観の保全・活用に努める。 周辺の緑とのつながりに配慮する。
● 秩序のある沿道景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 違和感や圧迫感を与えない建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫する。 大規模な擁壁や法面を生じない造成に努める。
● 緑豊かな沿道景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 道路際の高木緑化や生垣緑化、オープンスペースの確保に努める。 交差点などの結節点では、魅力ある表情づくりに努める。
● 安全に通ることができる幹線道路沿いの夜間景観を形成する	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の低層部からの漏れ光を利用し、歩行者空間の足元を明るく照らすよう努める。 照明を設置する際は、歩行者やドライバーの目線からまぶしくないように配慮するとともに、道路照明との相互関係も考慮した照明計画とする。

■ 幹線道路沿道景観ゾーン配慮指針の考え方



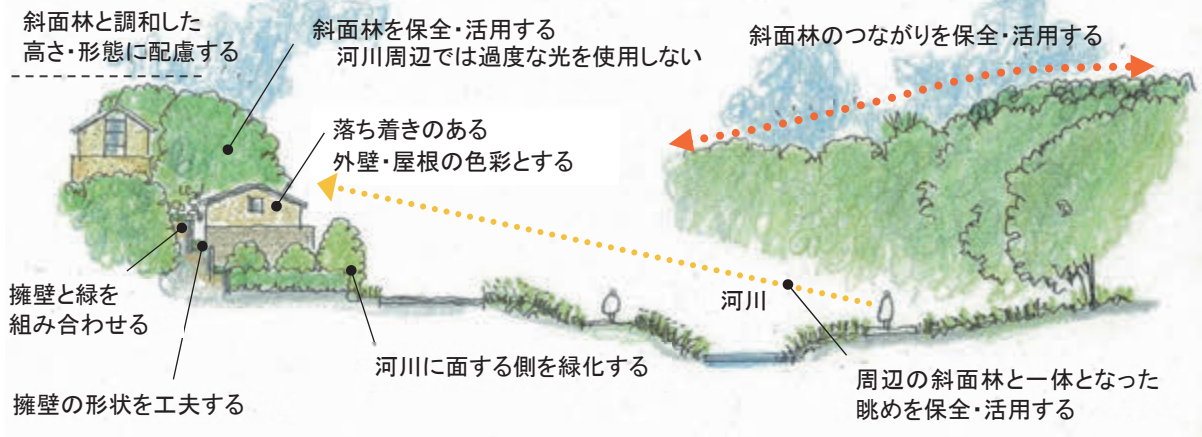


●河川周辺景観ゾーン配慮指針

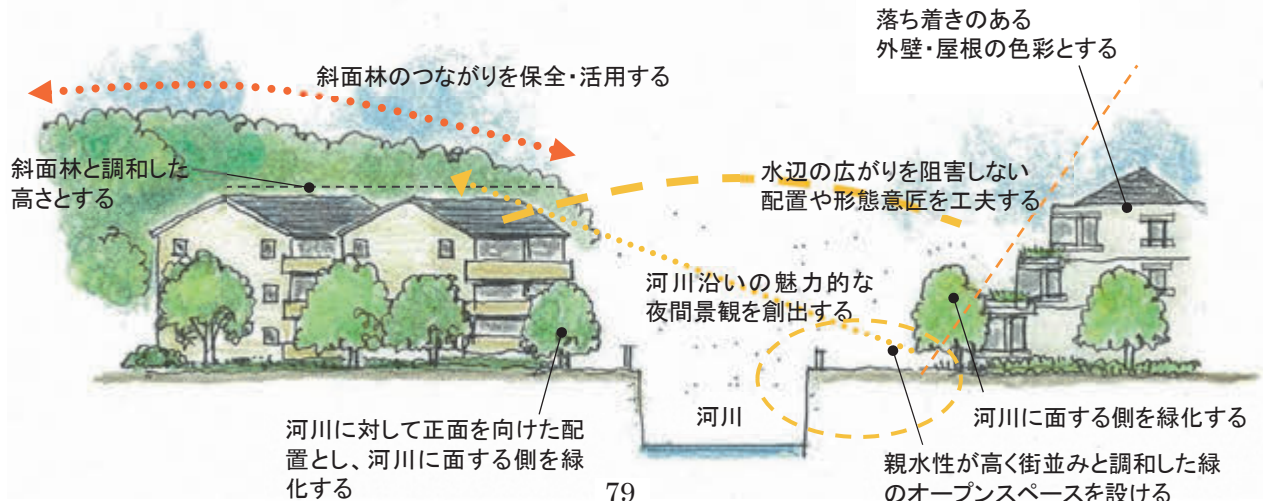
景観形成の方針	配慮指針
●河川周辺の斜面林などの緑の保全・活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> 河川からの眺望景観を保全するため、河川周辺の斜面林などの保全・活用に努める。 花見川や坂月川の橋などの眺望できる場所からの眺めに配慮する。 周辺の緑とのつながりに配慮する。
●水辺の広がりを活かした景観の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 水辺の広がりを阻害せず、緑や水辺と調和する建築物や工作物、屋外広告物等の規模、配置、形態意匠を工夫する。 大規模な擁壁や法面を生じない造成に努める。 自然豊かな水辺空間の周辺では過度な光を使用しないように配慮する。
●緑豊かな水辺景観の保全・創出を図る	<ul style="list-style-type: none"> 河川に面する側の緑の創出を図る。 橋の周辺や水辺の道とのつながりに配慮する。
●周辺の市街地と一体となった魅力ある河川沿い空間の創出を図る	<ul style="list-style-type: none"> 建築物は、河川に対して正面を向けた配置となるよう配慮する。 河川沿いには積極的に緑地やオープンスペースを設けるよう努める。 河川沿いは統一感のある色彩・意匠とし、一体感のある景観の形成に努める。 主に市街地の中の河川沿いでは、低層部からの漏れ光などを活用して、河川沿いを散策したくなるような魅力的で連続性のある夜間景観の創出に努める。

■河川周辺景観ゾーン配慮指針の考え方

(「さとの景観ゾーン」内の場合)



(「うみの景観ゾーン」や「まちの景観ゾーン」内の場合)



②行為別基準

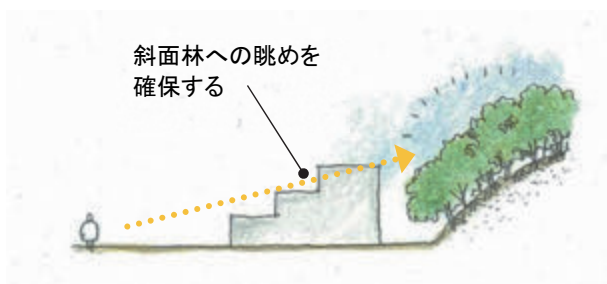
行為の種類ごとの景観形成の基準を示します。

●建築物の新築、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更

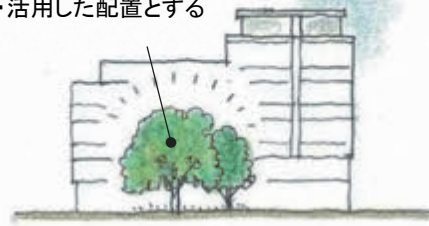
行為別基準

[配置に関する事項]

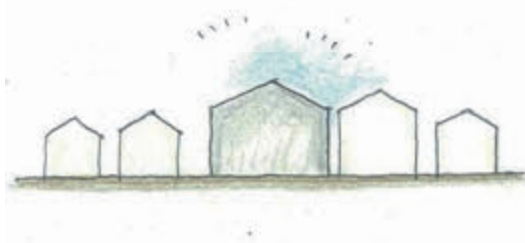
- 周辺からの見え方に配慮し、良好な景観を阻害しない規模、配置とするよう工夫する。特に台地に大規模建築物を計画する場合は、周囲に対する圧迫感や眺望の阻害を生じないか十分に検討する。
- 地形の起伏の保全・活用に努める。
- 地域の歴史や文化を伝える既存の樹木や樹林、斜面林等の保全・活用に努める。
- 道路との関係に配慮し、圧迫感を与えず、オープンスペースの確保や良好な街並み景観の形成に資する配置を工夫する。



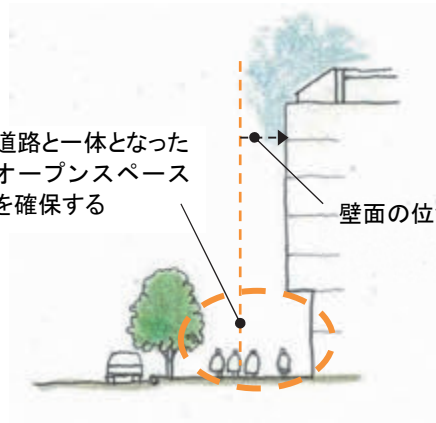
既存の樹木や樹林を
保全・活用した配置とする



規模は周辺の街並みとの調和を図る



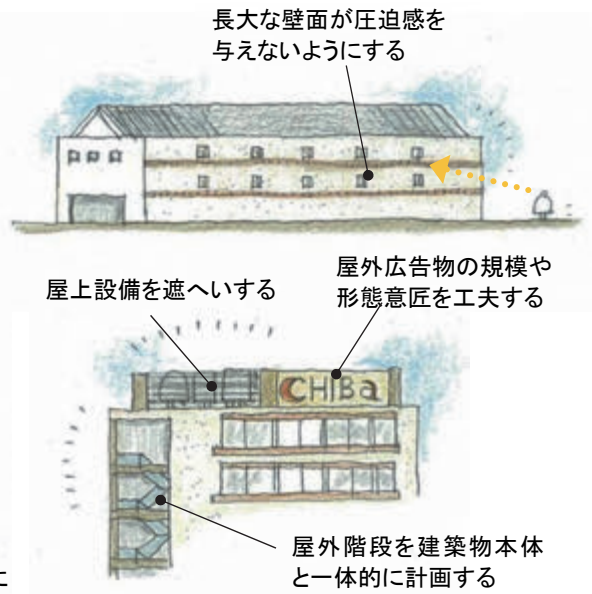
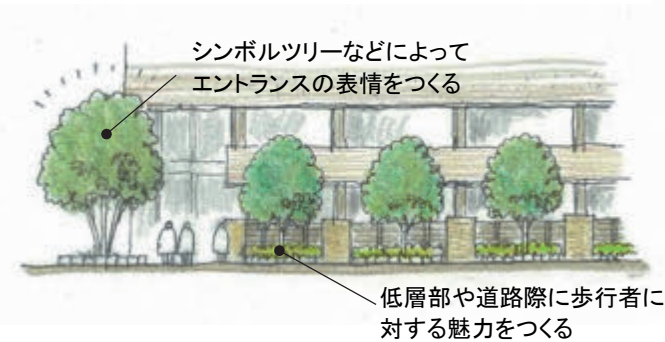
道路と一体となった
オープンスペース
を確保する



行為別基準

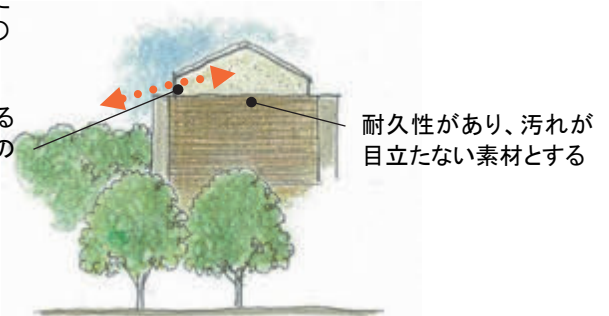
【形態意匠に関する事項】

- 長大な壁面を生じる場合は、開口部や壁面構成等により、圧迫感を与えないよう工夫する。
- 低層部やエントランスは、歩行者に対する魅力ある表情づくりを工夫する。
- 屋外広告物は、周辺からの見え方に配慮した位置、規模、形態意匠とするとともに、集約化に努める。
- 建築物に付帯する屋外設備等は、周辺からの見え方に配慮し、建築物本体との一体的な処理による配置、形態意匠、遮へい等により、露出しないよう工夫する。



- 外壁・屋根等の素材は、耐久性があり、汚れが目立たないものとし、光沢のあるものや反射光を生じる素材の過度な使用は避けるものとする。

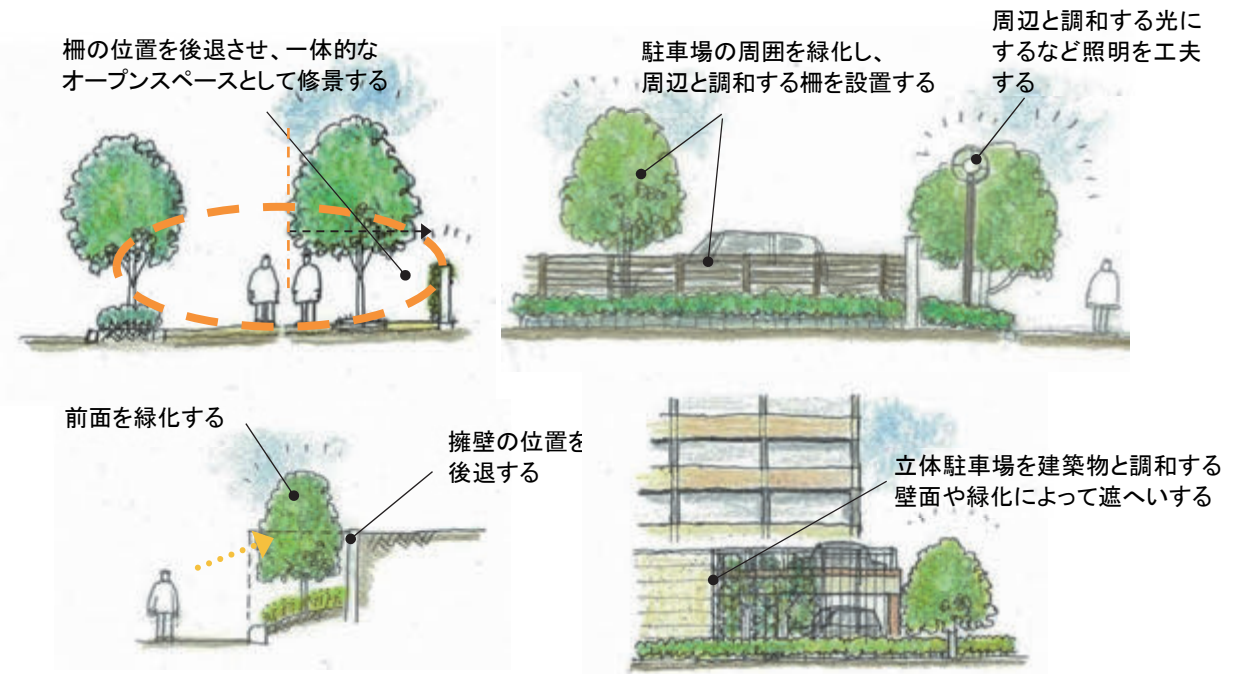
周辺の緑を引き立てる落ち着いた色彩の外壁とする



行為別基準

【敷地に関する事項】

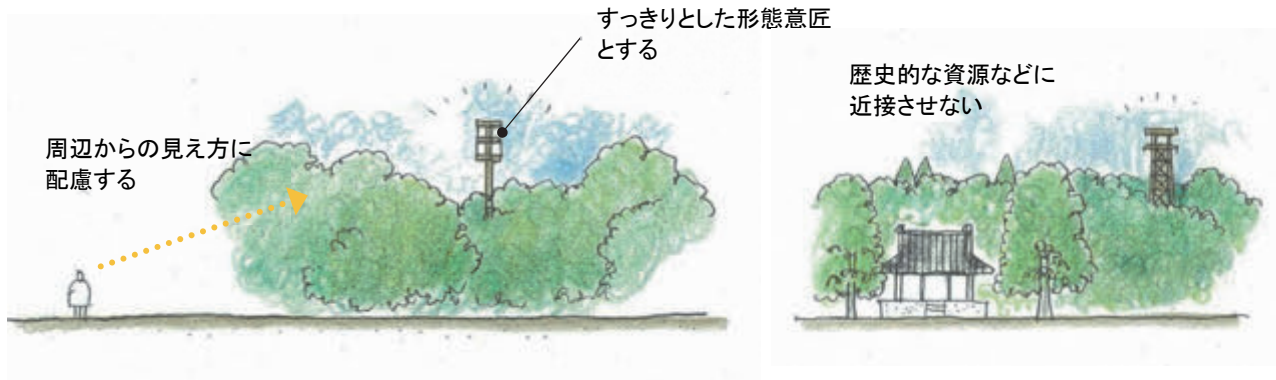
- 道路境界部は、緑の創出や道路と一体となったオープンスペースの修景等に努めるとともに、塀や柵等を設置する場合は、設置位置、高さ、形態意匠等に配慮し、うるおいやゆとりを与えるよう工夫する。
- 擁壁・法面は、圧迫感を与えない高さに抑えるとともに、自然素材の活用、周辺と調和する形態意匠、位置の後退による前面の緑化等を工夫する。
- 照明は、周辺や建築物との調和に配慮した光のあり方を検討するとともに、場所の魅力を引き立てるよう工夫し、回転サーチライト等の過度な光による演出は避けるものとする。
- 駐車場（立体駐車場を含む）、駐輪場、ゴミ置き場等は、道路からの見え方や安全性等に配慮し、周囲の緑化、建築物本体と調和する形態意匠、材質の塀・柵による遮へいを行うなど、乱雑に見えないよう工夫する。
- 緑化を行う際は、その土地の気候や地形条件、敷地環境、維持管理に配慮し、四季を感じさせる樹種や風土に合った樹種、土地に馴染みのある既存種や在来種などの樹木を選ぶ。
- 地植えによる緑化が難しい場所では、壁面や擁壁、屋上を活用し積極的に緑化する。
- 道路や河川沿いなどでは、植栽する空間に見合った樹種選定、将来の姿を念頭に置いた樹木等の配置を考慮したうえで、小規模でも積極的に緑化するようにし、緑が連続するように努める。
- 広場やオープンスペースは、魅力的な空間となるよう努める。



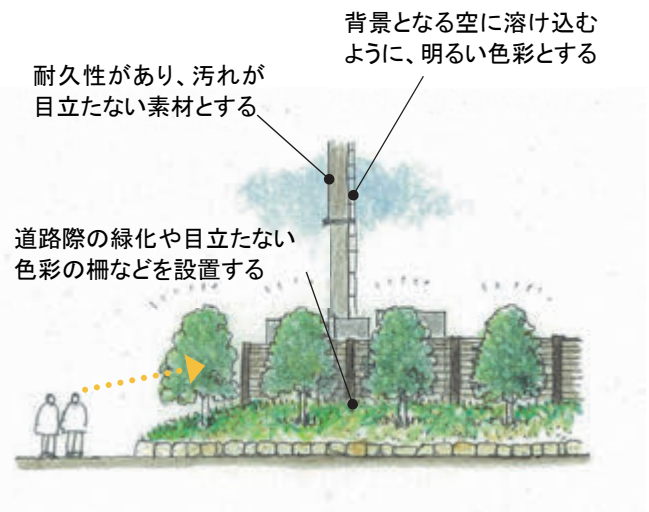
● 工作物の新設、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更

行為別基準

- 周辺からの見え方に配慮し、良好な景観を阻害しない配置、規模とするよう工夫する。
- 周辺との調和を図るとともに、圧迫感や違和感を与えず、すっきりと見える形態意匠とするよう工夫する。
- 建築物に付帯する場合は、建築物との調和を図り、全体としてまとまりのあるものとするよう工夫する。
- 付帯する設備等は、周辺からの見え方に配慮し、工作物本体との一体的な処理による配置、形態意匠、遮へい等により、露出しないよう工夫する。
- 地域の歴史や文化を伝える既存の樹木や樹林、斜面林等の保全・活用に努める。



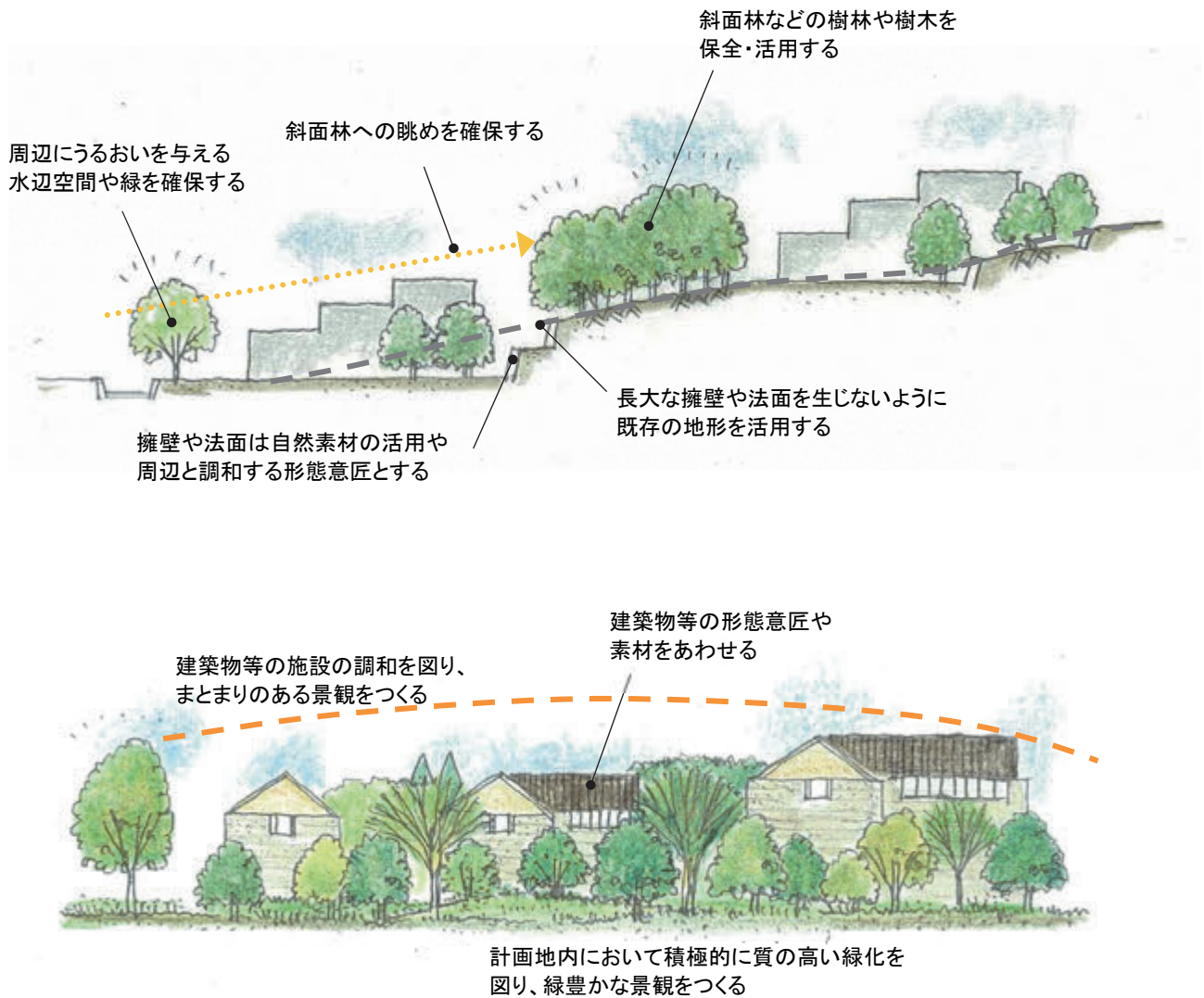
- 素材は、耐久性があり、汚れが目立たないものとし、光沢のあるものや反射光を生じる素材の過度な使用は避けるものとする。
- 道路境界部は、設備機器類を遮へいするよう、緑の創出や道路と一体となったオープンスペースの修景等に努めるとともに、塀や柵等を設置する場合は、設置位置、高さ、形態意匠等に配慮し、うるおいやゆとりを与えるよう工夫する。
- 擁壁・法面は、圧迫感を与えない高さに抑えるとともに、自然素材の活用、周辺と調和する形態意匠、位置の後退による前面の緑化等を工夫する。
- 照明は、周辺や建築物との調和に配慮した光のあり方を検討するとともに、場所の魅力を引き立てるよう工夫し、回転サーチライト等の過度な光による演出は避けるものとする。
- 緑化を行う際は、その土地の気候や地形条件、敷地環境に配慮し、四季を感じさせる樹種や風土に合った樹種、土地に馴染みのある既存種や在来種などの樹木を選ぶ。



● 開発行為

行為別基準

- 計画地内に地域の歴史や文化を伝えたり、ランドマークとなる樹木や樹林がある場合は、保全や移植に努め、やむを得ず伐採する場合は、植樹等により植生の回復を図るよう努める。
- 造成等土地の区画形質の変更を行う場合は、大規模な擁壁、法面を生じないように、既存の地形を活用するなど周辺になじむよう工夫する。
- 擁壁・法面は、圧迫感を与えない高さに抑えけるとともに、自然素材の活用、周辺と調和する形態意匠、位置の後退による前面の緑化等を工夫する。
- 計画地内の建築物等の配置、形態意匠等に配慮し、緑豊かでまとまりのある景観の形成に努める。
- 緑化を行う際は、その土地の気候や地形条件、敷地環境に配慮し、四季を感じさせる樹種や風土に合った樹種、土地に馴染みのある既存種や在来種などの樹木を選ぶ。



4-3 景観形成推進地区における景観形成

(1)届出対象行為

景観形成推進地区において届出を要する行為は、次に掲げる行為としますが、具体的には地区における合意形成に基づき定めるものとします。

- ・建築物の新築、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更
- ・工作物の新設、増築、改築、移転、外観に係る修繕若しくは模様替又は外観の色彩の変更
- ・開発行為
- ・その他地区の特性等に応じて定める行為

(2)景観形成基準

景観形成推進地区における景観形成基準は、地区の特性や合意形成に基づき定めるものとします。現在、景観形成推進地区を定めている地区は、次のとおりです。

- 幕張新都心中心地区 (平成24年千葉市告示第849号)
- 幕張新都心若葉住宅地区 (平成31年千葉市告示第3号)
- 幕張新都心住宅地区 (令和4年千葉市告示第797号)

第5章 景観重要建造物及び景観重要樹木の指定方針

【景観法第8条第2項第3号】

5-1 基本的な考え方

地域における良好な景観資源を保全・活用していくために、景観法第19条及び第28条に基づく景観重要建造物・景観重要樹木を指定します。

景観重要建造物または景観重要樹木は、地域の自然、歴史、文化等からみて、景観上の特徴を有し、道路その他の公共の場所から誰もが容易に眺めることができる次のような建造物または樹木について、所有者と景観総合審議会の意見を聴いたうえで指定するものとします。

5-2 景観重要建造物・景観重要樹木の指定方針

(1) 景観重要建造物の指定方針

景観重要建造物の指定方針は、以下のとおりとします。

■景観重要建造物の指定方針

- シンボルやランドマークとなるなど、千葉市の景観を代表し、地域の特徴的な景観の形成に欠くことのできない建造物
- 地域の暮らし、街道や産業の景観を伝えるなど、地域の自然、歴史、文化を象徴する建造物
- 市民等による維持管理が積極的かつ継続的に行われており、地域に広く親しまれている建造物

(2) 景観重要樹木の指定方針

景観重要樹木の指定方針は、以下のとおりとします。

■景観重要樹木の指定方針

- シンボルやランドマークとなるなど、地域の特徴的な景観の形成に欠くことのできない樹木
- 地域の暮らし、街道や産業の景観を伝えるなど、地域の自然、歴史、文化を象徴する樹木
- 市民等による維持管理が積極的かつ継続的に行われており、地域に広く親しまれている樹木

5-3 景観重要建造物・景観重要樹木の保全・活用の方針

指定した景観重要建造物・景観重要樹木については、適正な維持管理のための保全に努めるとともに、周辺の景観について、景観重要建造物・景観重要樹木と調和が図られるよう誘導するなど、地域の景観形成に向けて活用を図ります。

第6章 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項 【景観法第8条第2項第4号イ】

6-1 基本的な考え方

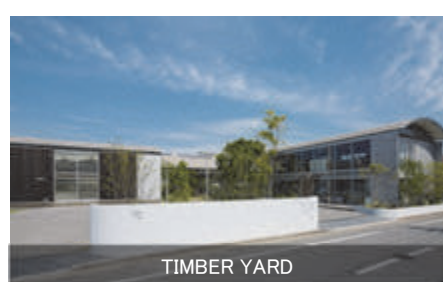
屋外広告物は、市民の生活に必要な情報を提供し、まちににぎわいや活気を与える特性を持っています。しかしながら、色彩や形態などが無秩序な広告物が氾濫してしまうと、本来の特性が失われ、景観を阻害する要因となります。

屋外広告物については、その特性によって良好な景観を形成する重要な要素であるとして、千葉市屋外広告物条例に基づく基準により、適切に誘導・規制していくことを基本とします。

6-2 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限

屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限は、景観計画区域全域においては、周辺との調和を図るよう景観誘導に努めていくものとします。

また、景観形成推進地区を含む特定の地区においては、地区の特性を活かし、住民等の合意形成に基づく詳細なルールを定めていくものとします。



まちににぎわいや活気を与える良好な屋外広告物

第7章 公共施設の整備等に関する事項

【景観法第8条第2項第4号ロ】

7-1 基本的な考え方

公共施設は、景観形成の骨格を形成する重要な施設です。このため、公共施設の整備に当たっては、公共施設景観デザインガイドラインなどを踏まえ、以下の事項に十分に配慮し、良好な景観の形成を先導していくよう努めます。

● 市民の豊かな生活と交流を支え、幅広く親しまれる施設づくり

市民の誰もが安心して快適な生活を送れるようにするため、都市の安全やノーマライゼーションの理念の実現を目指しながら、市民の生活や交流を豊かなものとしていきます。



市民の多様なニーズに配慮する

● 地域にふさわしい景観形成を先導する施設づくり

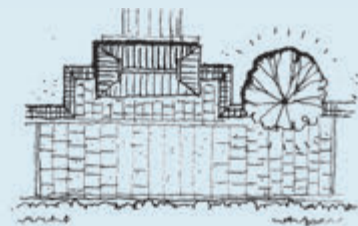
公共施設の整備を、新しいまちをつくる契機としてとらえ、全体との調和を図りながら、地域にふさわしい魅力を持てるものとなるようにしていきます。



周辺との関係や周辺からの見え方に配慮する

● 愛着を育み、次の世代に住みよいまちを残す施設づくり

市民が愛着を持って住み続け、次の世代にもまちの豊かさが継承されるように配慮します。



受け継がれてきた景観を未来へ伝える

7-2 景観重要公共施設の指定方針

本市の景観形成において特に重要な役割を果たす道路、都市公園、河川などの公共施設について、施設管理者等の同意に基づき、景観重要公共施設として指定し、整備及び良好な景観の形成に関する事項を定めるものとします。

景観重要公共施設の指定方針は、次のとおりとします。

■景観重要公共施設の指定方針

- 景観形成の方針を踏まえ、ゾーンの骨格や拠点となる景観の一部を構成する公共施設
- 景観形成推進地区の景観形成を図るうえで重要な役割を果たす公共施設

第8章 景観形成の推進方策

8-1 景観形成の主体の役割

景観形成を推進する主体として、市民・団体・事業者・市は、それぞれ以下の役割を果たすとともに、各主体が連携・協働しながら取り組んでいくものとします。

(1)市民の役割

市民や市民団体などは、自身の主体的な活動が千葉市の景観づくりに果たす役割が大きいことを認識し、景観施策の理解と協力を努めるとともに、景観形成にかかわる場・機会や取り組みの実践などに積極的に参加・協力するものとします。

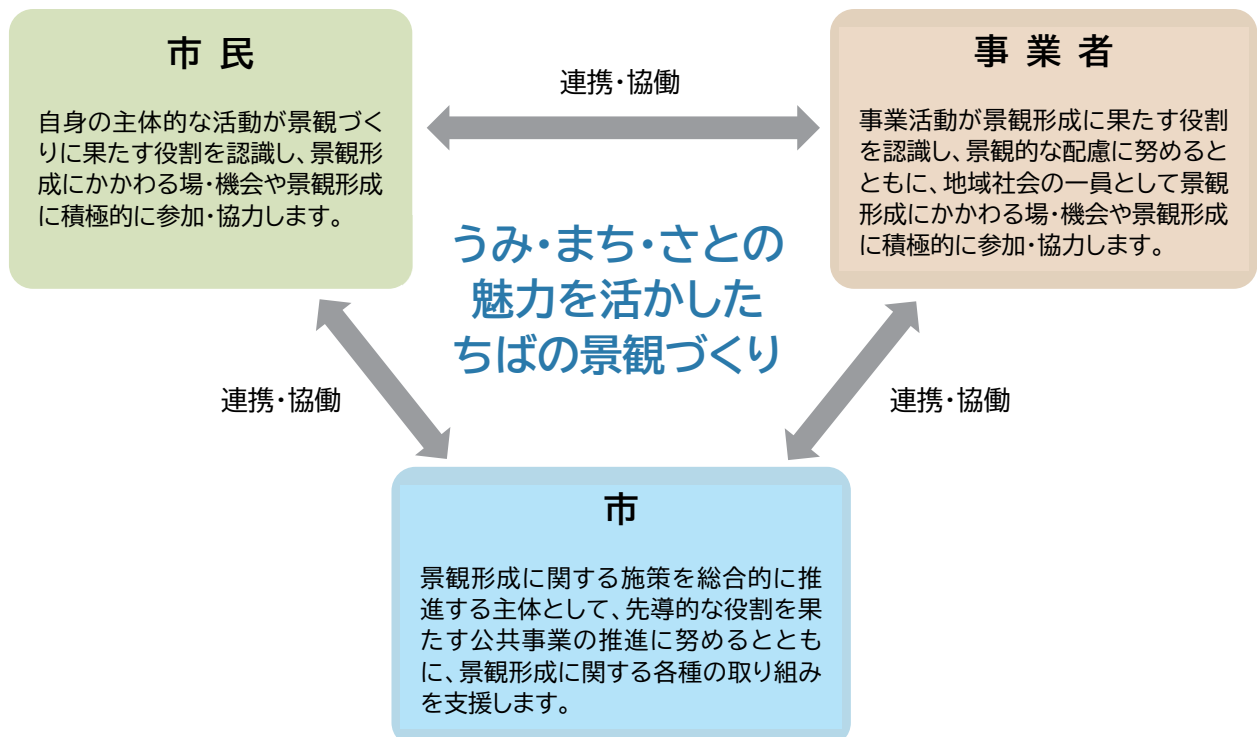
(2)事業者の役割

事業者は、事業活動が千葉市の景観形成に果たす役割が大きいことを認識し、管理する建築物等の景観的な配慮に努めるとともに、市民と同様に地域社会の一員として、景観形成にかかわる場・機会や取り組みの実践などに積極的に参加・協力するものとします。

(3)市の役割

市は、景観形成に関する施策を総合的に推進する役割を担う主体として、先導的な役割を果たす公共事業の推進に努めるとともに、景観計画をはじめとする景観施策の普及・啓発と、市民や事業者の景観形成に関する各種の取り組みの支援を積極的に進めるものとします。

■市民・事業者・市の連携・協働による景観形成



8-2 景観形成の推進方策

千葉市らしい良好な景観形成を図るために、本計画の運用とともに、景観法や関連法による制度等の積極的な活用とあわせ、総合的に景観形成を推進するものとします。

(1) 景観計画の運用・更新

① 景観計画の運用・更新

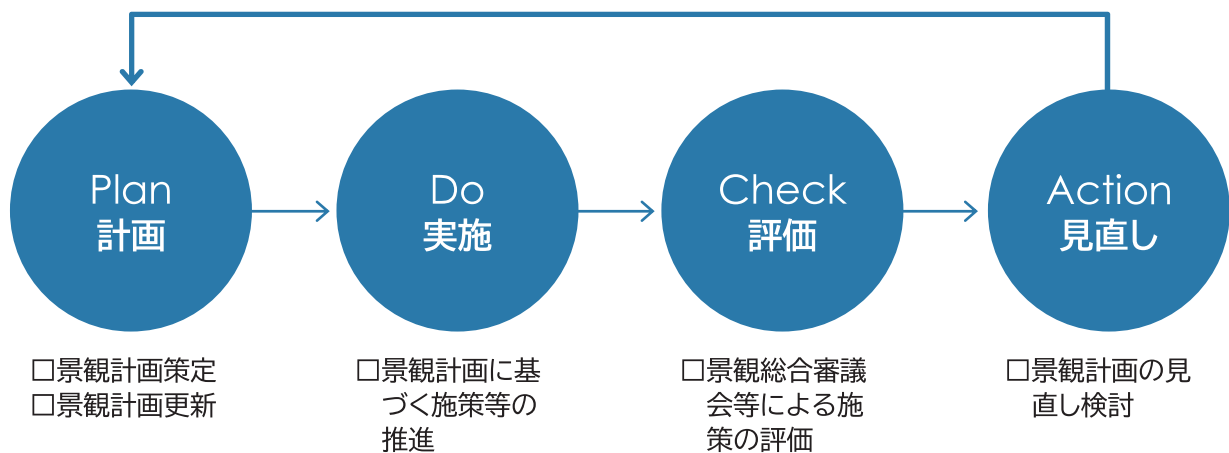
景観計画に基づき、景観形成に大きな影響がある建築物等の新築等に対する誘導を実施するに当たり、良好な景観の保全・形成を図るよう効果的な運用を引き続き検討していくとともに、ガイドラインの作成や屋外広告物条例との連携の強化に努めます。

また、景観形成推進地区の指定等、より実効性の高い取り組みも引き続き推進します。

さらに、土地利用の変化、市民意識の高まり、景観に係わる材料や製品の技術革新などの景観形成に関する環境の変化を踏まえて、適宜内容を検討し、景観計画の更新を行うものとします。

計画の充実・見直しに当たっては、景観総合審議会等の意見を聴きながら、計画の評価を行う PDCA のサイクルに基づき行うものとします。

■ PDCAサイクル



②景観形成推進地区における景観形成の推進

景観計画内では、景観計画区域(=千葉市域全域)に対する景観形成基準を示していますが、景観計画区域内において、地域の特性を活かし、先導的な景観形成を図る必要がある特定の地区は「景観形成推進地区」として位置づけられます(第2章2-2 景観形成推進地区参照)。

景観形成推進地区では、市域全域に対する景観形成基準に加えて、地区内の住民・事業者の合意に基づき定められたその地区独自の景観づくりに向けたよりきめ細やかなルールが設けられます。

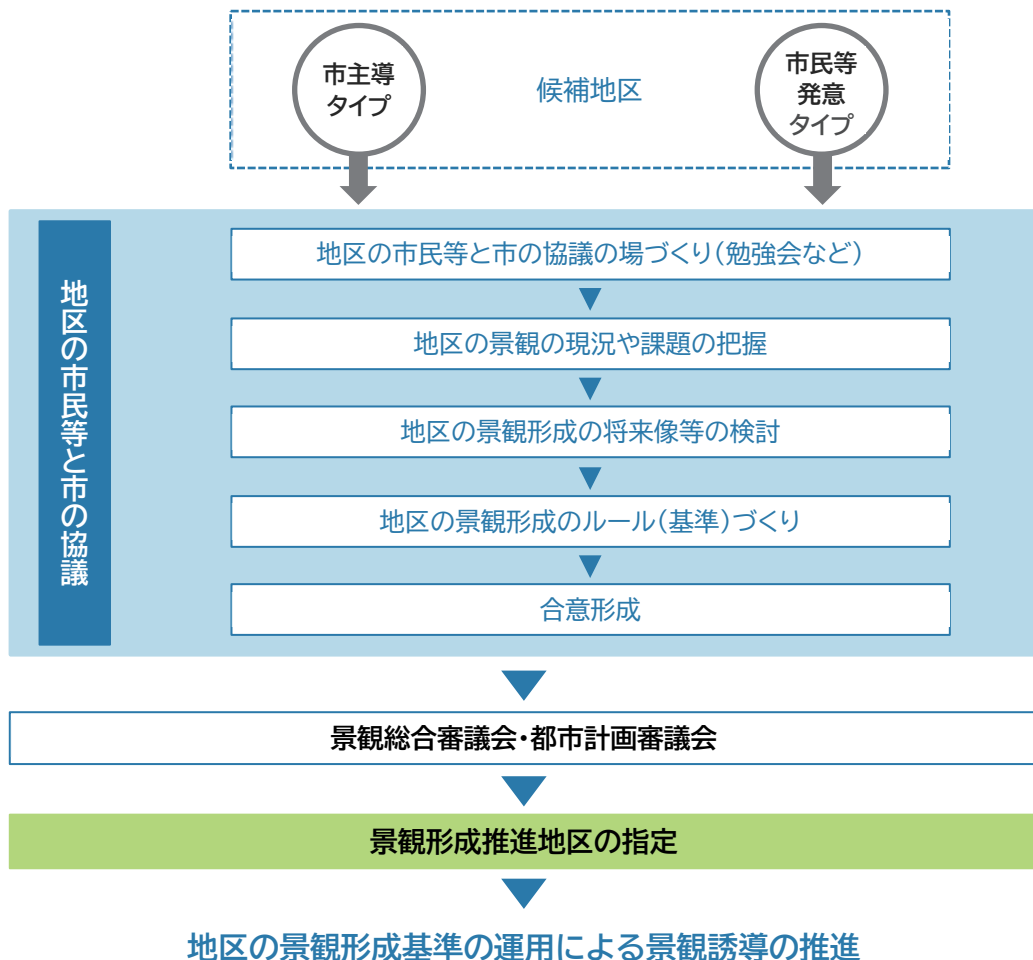
景観形成推進地区の指定を推進することで、それぞれの地区の特性に応じた、よりきめ細かな景観形成を推進することを目指します。

景観形成推進地区は、市が良好な景観形成を図るべき地区を抽出し設定する市主導タイプと、市民等の発意によって主体的に取り組んでいく市民等発意タイプを想定します。



住民が主体となった景観づくりのイメージ

■景観形成推進地区の指定の流れのイメージ



(2)景観形成に関する意識の向上に向けた取り組みの推進

①景観に関する情報提供

市民や事業者の意識啓発を図るために、景観計画の周知に努めていきます。

また、市民等が景観形成について考え、行動するきっかけとなるよう、景観形成に関する情報について、ホームページ・広報誌等によって、市民にわかりやすく情報提供するほか、景観形成にかかわるパンフレットや手引きを作成します。

②景観に関するイベント等の実施

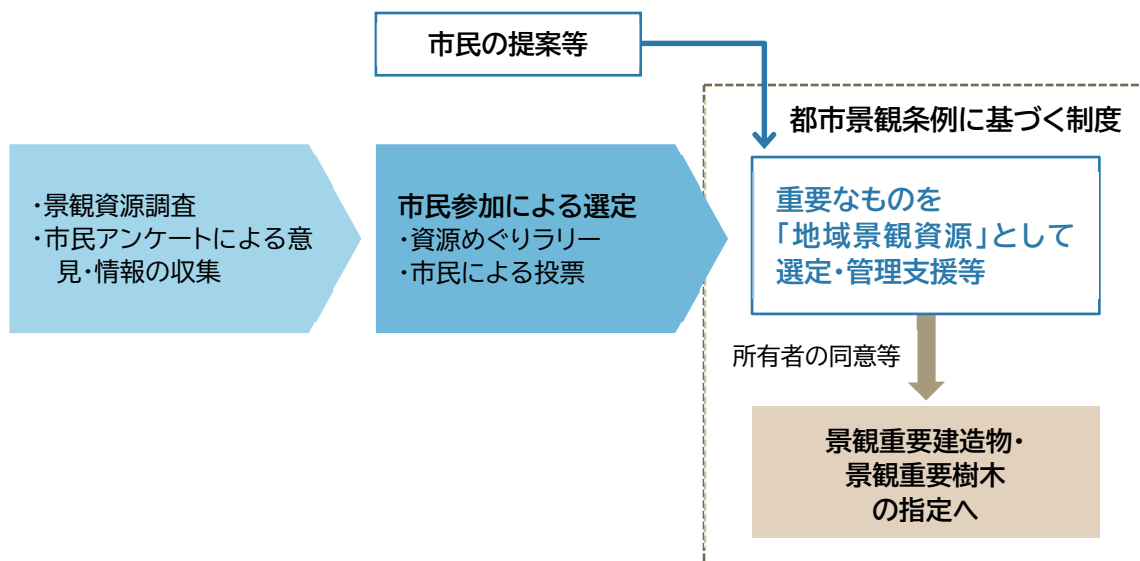
景観に関する意識啓発の機会となるワークショップやまち歩き等の実施や支援を積極的に進めるものとします。

③表彰制度や身近な景観を形成する資源等の発掘

市民が景観形成に関心を持つ契機となり、また景観形成の取り組みを促進するために、良好な景観の形成に貢献した市民・事業者などを表彰する制度の活用を図ります。

また、市民との協働によって、地域の景観資源を発掘し、保全・活用を目指します。

■地域の景観資源の発掘イメージ



■千葉市都市文化賞

千葉市では、良好な都市景観形成に向けた普及啓発事業を継続的に実施しています。

昭和63年度からは都市景観形成に寄与していると認められる優れた建築物を表彰する「千葉市優秀建築賞」を実施してきました。

平成23年度からは名称を「千葉市都市文化賞」と改め、現在は、景観まちづくり部門、景観広告部門、建築文化部門の3つの部門を設けて、幅広く表彰を行っています。また、受賞者への表彰式及び受賞代表者によるプレゼンテーション、パネルディスカッションなどを行う千葉市都市文化賞フォーラムを開催しています。

【千葉市都市文化賞 受賞作品の例】

●2022年グランプリ カフェ 円居（若葉区小倉町）



●2021年グランプリ ZOZO 本社屋（稲毛区緑町1丁目）



●2019年グランプリ 椿森コムナ（中央区椿森1丁目）



●2017年グランプリ 東京クラシック 森のクラブハウス・馬主クラブ棟（若葉区和泉）



●2016年グランプリ パラソルギャラリー（千葉市中央公園プロムナード）



■身近な景観を形成する資源等の発掘に向けた取組

普段の何気ない散歩などでも、周りの景観や歴史を意識して、新たな千葉市の魅力の発見や再認識してもらえるような、きっかけづくりも検討していきます。

【取組実施例：フォトコンテスト】

●千葉市制100周年記念フォトコンテスト 第2回「100年後に残したい千葉市」最優秀賞・優秀賞



稲毛海浜公園
（撮影者:nobi_nobi_baby_kidsさん）



亥鼻公園(千葉市郷土博物館)
（撮影者:jackal.418さん）



千葉公園(撮影者:akahoshi_magicさん)

(3)市民・事業者などとの協働による景観づくり

市民や団体との協働によって景観形成を進める仕組みとして、都市景観デザイン市民団体の認定のほか、市民や事業者などによる主体的な景観形成の取り組みについて、技術的な支援や助成等の支援の仕組みの充実を図ります。

(4)景観形成に資する制度の活用

景観法とともに、都市計画法、建築基準法、都市緑地法などの他の法令に基づく制度や施策について、景観の維持・保全または形成という観点から積極的に活用していきます。

①都市計画制度や景観協定、建築協定、緑地協定などの制度の活用

市民の身近な景観づくりを支えるために地区計画、景観協定、建築協定、緑地協定などの景観形成にかかわるルールづくりを促進します。

また、良好な景観形成を図るべき地区や、景観形成推進地区のうち景観を形成するルールを強化する地区については、都市計画として定める景観地区の指定に努めます。

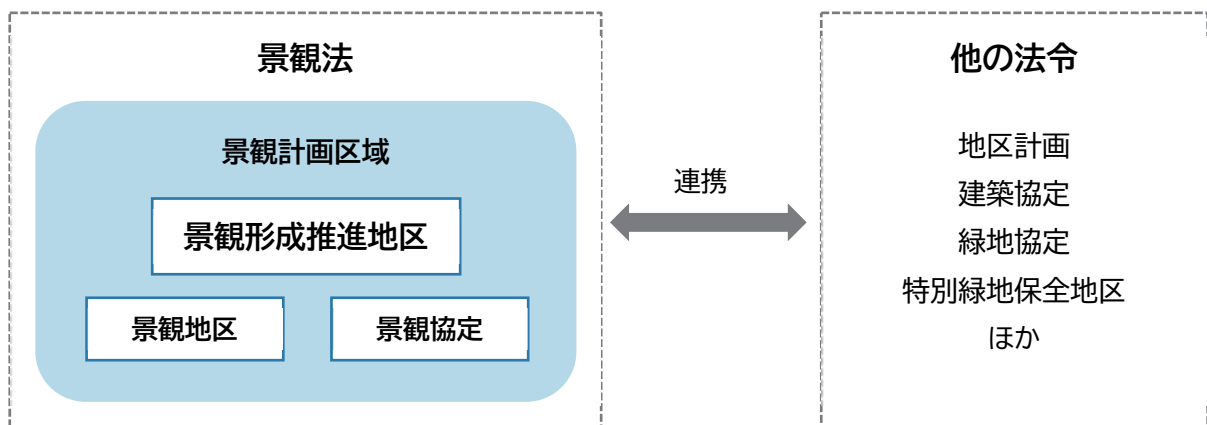
②「花のあふれるまちづくり」との連携の強化

四季折々のいろいろな花を楽しむことができる自然環境を有する本市の特性を活かし、「花のあふれるまちづくり」の実現に向けた花のあふれる景観の形成を推進します。

③緑の保全・緑化の推進等

緑の保全や創出は良好な景観の形成に大きくかかわっています。今後も、重要な緑地を保全する特別緑地保全地区制度の活用や緑化施策の推進など、緑の施策との連携を図ります。

■景観形成に資する制度の活用イメージ

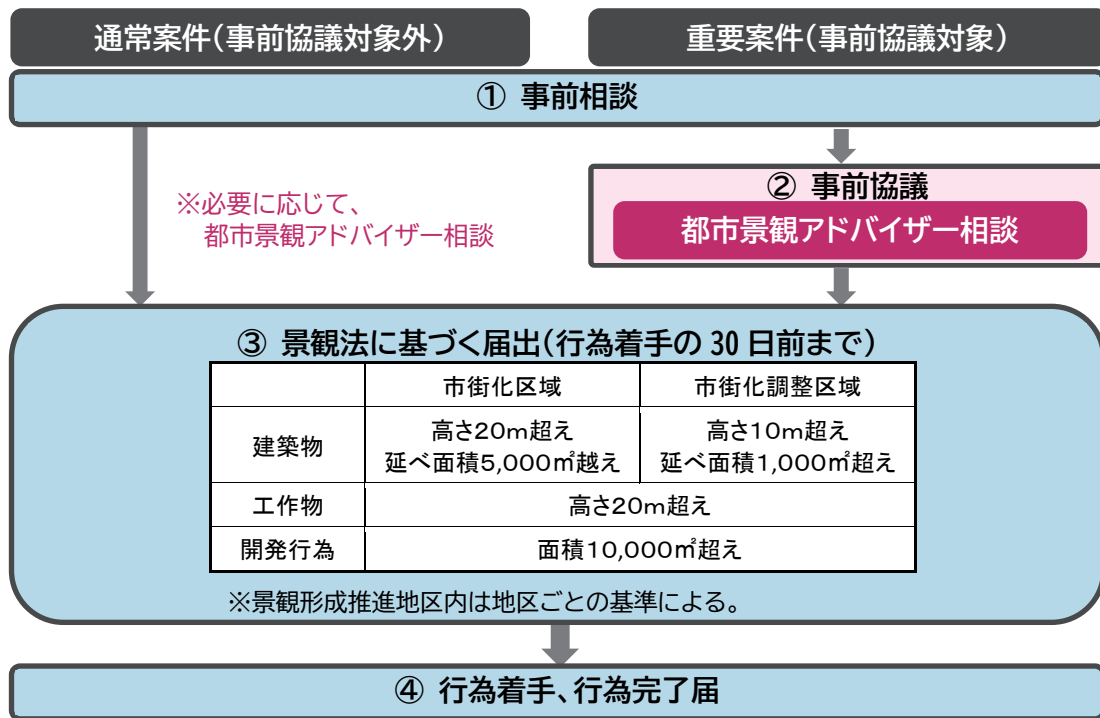


8-3 景観形成の推進体制

より良い景観を形成するために、推進体制の充実・強化に努めます。

(1) 事前協議制度

本計画では、景観法に基づき、景観形成上大きな影響を与える一定の規模の行為を届出対象行為とし、景観形成基準を定めていますが(「第4章 景観形成の誘導」参照)、重要な拠点等、より早い段階から調整が必要な案件については、景観法に基づく届出の前に市と事業者等が事前協議を行う仕組みを構築します。



(2) 都市景観アドバイザー制度の活用

景観計画における景観誘導の実効性を高めていくためには、専門家等による助言が必要となります。

今後も、これまで実施してきた都市景観アドバイザー制度の積極的な活用を図るものとします。

また、景観形成推進地区の指定に向けた支援策として、地区の市民等に対する専門家の派遣等に努めます。

(3) 景観総合審議会の運営

景観総合審議会は、条例によりその権限に属するものと定められた事項の調査審議及び景観の形成に関する事項の調査審議を行う諮問機関です。

今後も、景観総合審議会を景観計画の推進を含めて、景観形成施策を提言していく機関として運営していくものとします。

(4) 地元協議会等との連携

景観形成推進地区の指定後は、地区の景観形成基準の運用による景観誘導の推進が重要となります。

そのため、必要に応じて「都市景観アドバイザー」からの助言や、各地区の地元協議会等との意見交換等を実施し、良好な景観の保全・形成に努めます。

■ 資料 ■

千葉市の見どころ	98
用語解説	99
千葉市の景観に関するアンケート調査結果	100

千葉市のみどころ

「千葉市のみどころ百選の地」

千葉市には施設や自然など、四季折々に様々なみどころがあります。千葉市で百選に選ばれたものを一部紹介します。

～21世紀に引き継ぎたい日本の名松百選～ 稲毛の松林



～日本の都市公園百選～ いなげの浜



～日本の都市公園百選～ 昭和の森



(参考) 太平洋が眺望できる展望台もあります。

～さくらの名所100選～ 泉自然公園



(参考) 泉自然公園は紅葉の名所ともなっています。

用語解説

【あ】

ウォーターフロント	都市において、海などの水面に近接した地域をいう。港湾、工場など産業用に利用されることが多い水辺空間を、親水性を活かした住居・商業地域として開発される例を指して用いられることが多い。
オープンスペース	建築物の建っていない場所を指し、道路や公園、広場等のほか、建築敷地内の空地を含む。
屋外広告物	常時または一定の期間継続して屋外で公衆に表示されるもので、看板、立看板、はり紙、はり札並びに広告塔、広告板、建築物や工作物等に表示されたものなどを指す。

【か】

景観形成基準	景観計画区域内の建築物の建築等、工作物の建設等、開発行為等について、良好な景観の形成のための行為の制限の基準のこと。
景観形成推進地区	千葉市景観計画において、住民等の合意形成に基づくルールによって先導的な景観形成を推進していく地区のこと。
建築物 工作物	一般に工作物は、土地に定着する人工物を指し、建築基準法で定義される建築物とは、土地に定着する工作物のうち、屋根及び柱もしくは壁を有するものをいう。

【さ】

修景	建築物の外観や道路・公園等の景観を美しく整えること。
スカイライン	建築物や山などの連なりによる輪郭線のこと。

【た】

眺望点	特定の対象や街並みを高所等から見渡すことができる地点で、不特定多数の人の集まる可能性のある公共的な場所を指す。
都市景観 アドバイザー制度	景観形成に係る各分野の専門家を都市景観アドバイザーとして配置し、景観に関する情報提供や技術的助言を受け、景観施策の効果的な運用を図る制度のこと。

【は】

ヒューマンスケール	建築物や都市の空間において、人間らしさが感じられ、人間の活動にふさわしい空間のスケール、または尺度のこと。
ファサード	建築物の正面デザインのこと。一般的には正面をいうが、装飾を施すなど外観上大きなインパクトがある場合には、側面や背面を指すこともある。

【ま】

見付け面積	建築物を真横から見たときの面積のこと。立面図に見える面積。
-------	-------------------------------

【ら】

ランドマーク	地域の目印となる、または地域を象徴する景観構成要素のこと。
--------	-------------------------------

千葉市の景観に関するアンケート調査結果

景観計画改定に際して、市民の意識・意見を把握するため、「千葉市の景観に対するアンケート調査」を実施しました。

同様の内容のアンケートは、平成18年度の景観計画策定時にも実施されています。

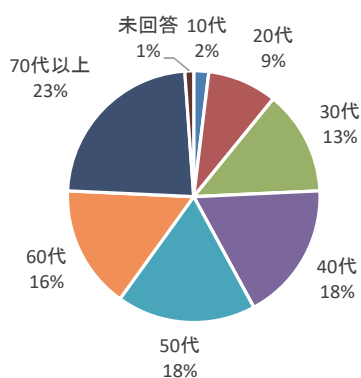
■アンケート調査実施概要

アンケート調査の実施概要は以下の通りです。

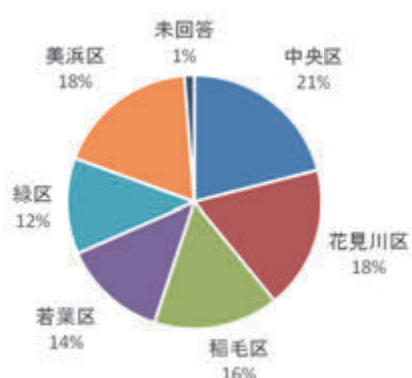
表 アンケート調査の実施概要

実施対象	18歳以上80歳以下（令和3年3月31日時点）の市民
対象者数	3,000人（男性1,500人、女性1,500人）
対象者抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
実施方法	対象者に対してアンケート調査票を郵送し、郵送返送又はWEB回答により回答を回収しました。
実施時期	令和3年9月17日～令和3年10月22日
回収数・回収率	郵送回収644件、WEB回答242件 計886件 （回収率 29.5%）

■回答者属性



回答者の年代（N=886）



回答者の居住地（N=886）



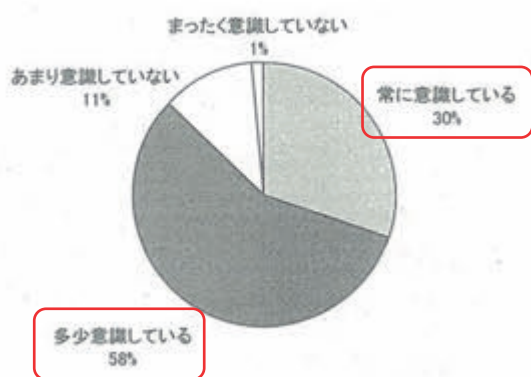
回答者の居住年数（N=886）

- 回答者の年代は、概ね偏り無く分布しています。
- 概ね6区から偏りなく回答が得られました。
- 回答者の6割以上が千葉市居住歴20年以上でした。

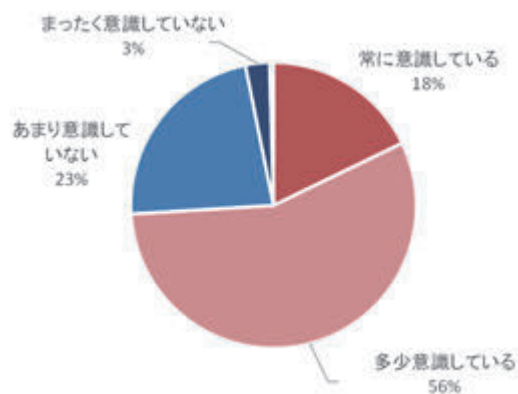
■集計結果

得られた回答の集計結果を紹介します。また、平成18年度実施のアンケートと同内容の設問に関しては、過年度との比較も紹介します。

●景観について日ごろ意識していますか。



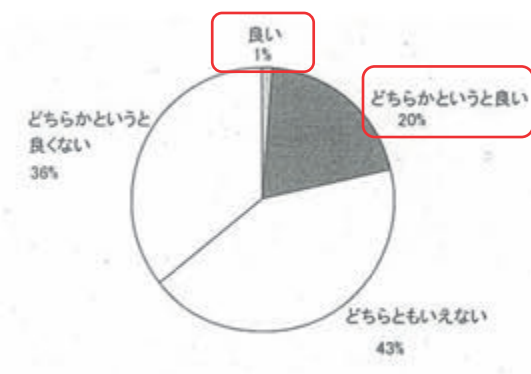
【H18年度調査】日ごろの景観への意識
(N=450)



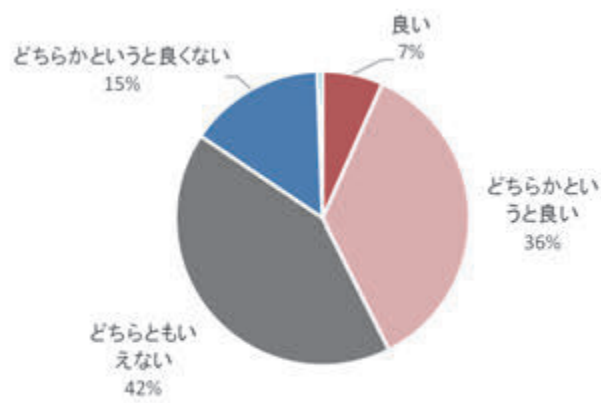
【R3年度調査】日ごろの景観への意識
(N=886)

- 平成18年度と比較して、令和3年度の調査では、景観について日ごろから意識している人の割合が減少しています。

●千葉市の景観は良いと思いますか。



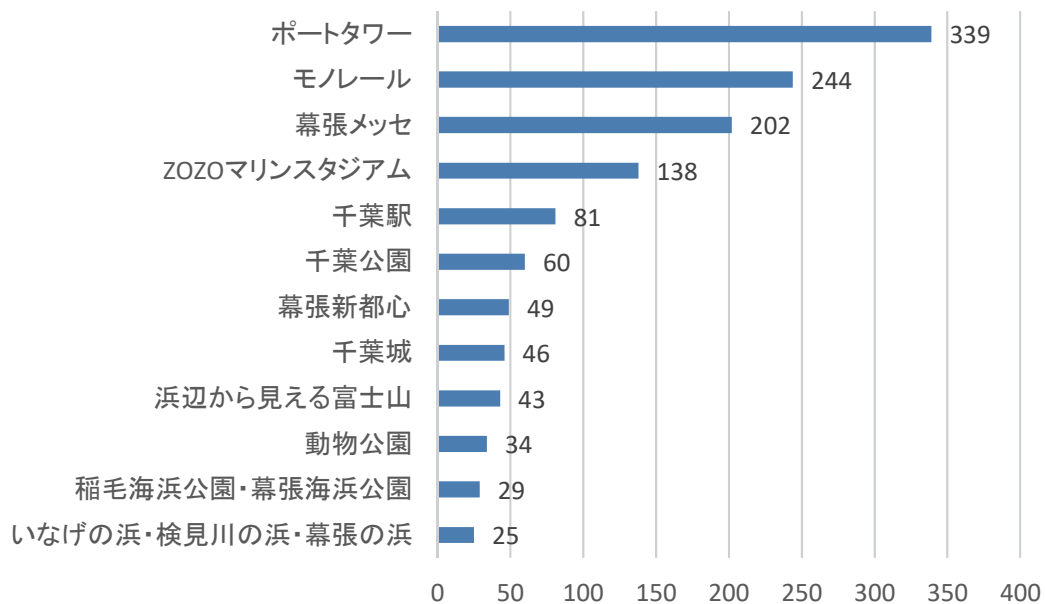
【H18年度調査】千葉市の景観への評価
(N=450)



【R3年度調査】千葉市の景観への評価
(N=886)

- 平成18年度と比較して、令和3年度の調査では、千葉市の景観に対して高評価な人の全体割合が2倍近く増加しています。また、千葉市の景観に対して低評価の人の全体割合は20ポイント近く減少しており、千葉市の景観に対する評価の向上がうかがえます。

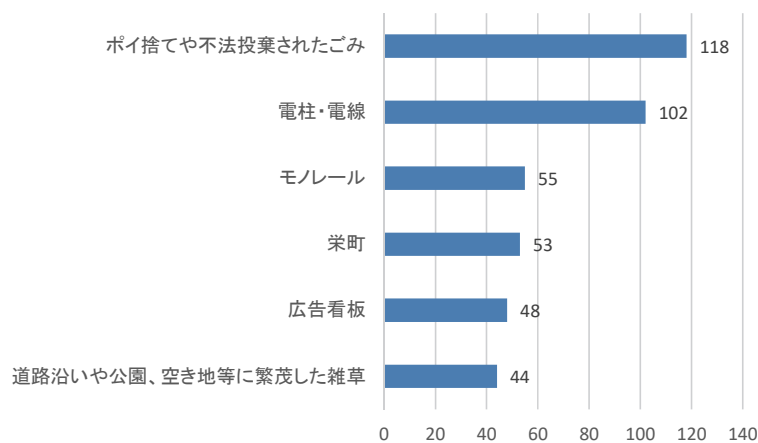
- 千葉市におけるシボル的な景観（誰もがその景観を見ると「千葉市だ」とわかるだろうと思う景観）はどんな景観ですか。



【R3年度調査】千葉市のシボル的な景観 主な意見（数字はその場所名が書かれた回数）

- 市民にとって千葉市のシボル的な景観と考えられているのは、「ポートタワー」、「モノレール」、「幕張メッセ」、「ZOZO マリスタジアム」等が挙げられました。

- 千葉市内で景観を損ねていると思われる原因やモノを3つまで挙げてください。



【R3年度調査】景観を損ねている原因やモノ 主な意見（数字はその要因が書かれた回数）

- 多くの市民が、「まちなかに捨てられたごみ」や「電線・電柱」に対して景観を損ねていると感じています。
- 「モノレール」は好きな景観として答える人が多い一方で、景観阻害要因と捉える人も一定数存在します。

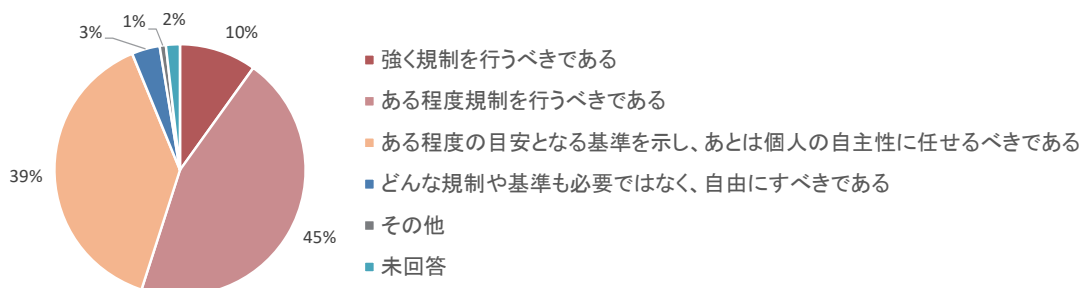
- 千葉市にふさわしい景観としてこれから育んでいく上で特に重要だと思うものを教えてください。

千葉市にふさわしい景観としてこれから育んでいく上で特に重要だと思うもの

	1位	2位	3位	合計
水辺	334	128	75	537
にぎわいのある商業地	147	88	68	303
公園や緑地、里山など	163	228	86	477
新しい市街地	54	101	86	241
田園	11	37	52	100
計画的に開発された住宅地	21	34	48	103
歴史的資源	45	81	109	235
工業地帯	2	8	20	30
オープンスペース	37	56	109	202
美しい夜景	22	52	80	154
モノレールがある風景、モノレールから見える風景	24	34	83	141
その他	7	7	14	28
無効・未回答	19	32	56	107

- 千葉市にふさわしい景観として、緑や水辺が特に重要と考えられています。

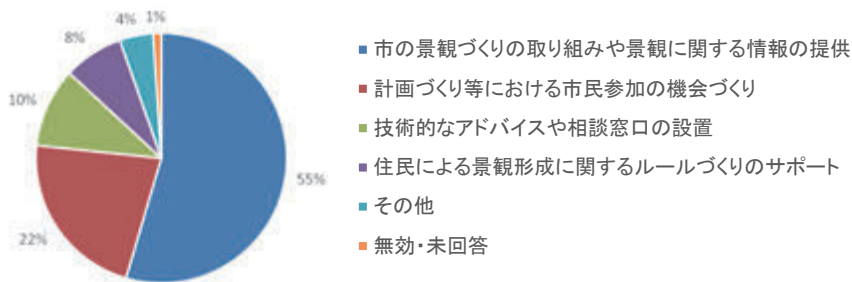
- 建築物や色彩等に関する規制や制限を加えることに対する考えを教えてください。



建築物や色彩等に関する規制や制限を加えることに対する考え (N=886)

- 回答者の9割以上がある程度の規制や基準は必要であると考えています。

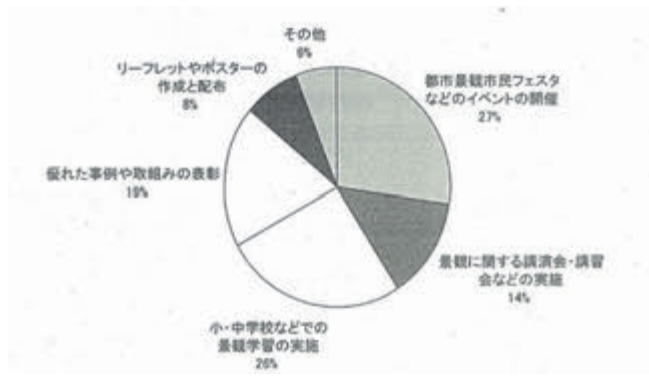
●より良い景観づくりに向けて市がすべきだと思うことを教えてください。



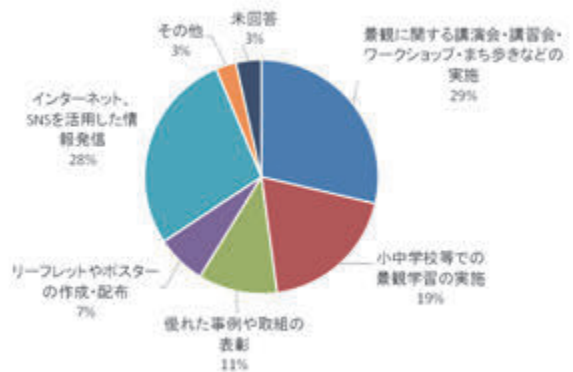
より良い景観づくりに向けて市がすべきだと思うこと (N=886)

- 回答者の約半数が景観づくりに関する情報提供を望んでいます。また、計画づくり等における市民参加の機会づくりを望む声も多いです。

●景観づくりに対する市民の意識を高めていくために市の取り組みとして期待することを教えてください。



【H18年度調査】市民意識を高めるための取り組みとして期待するもの (N=450)



【R3年度調査】市民意識を高めるための取り組みとして期待するもの (N=886)

- 平成18年度、令和3年度いずれでもイベントや講習会、まち歩きのような積極的に景観について学べる機会を望む声が多いです。また、今年度調査では、SNS等を活用した情報発信を望む声も多く見られました。

※本計画に掲載の写真には、千葉市制 100 周年記念フォトコンテスト入賞作品を使用しています。入賞作品のキャプションには、撮影者のインスタグラムアカウント名を記載しております。

千葉市景観計画

令和5年9月

千葉市都市局都市政策課
都市景観デザイン室

〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号
TEL 043-245-5307 FAX 043-245-5559
URL <http://www.city.chiba.jp>
E-mail keikan@city.chiba.lg.jp